

令和元（平成31）年度
神戸大学附属図書館年次報告

令和2年 9月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

* 附属図書館ホームページ掲載 *

<https://lib.kobe-u.ac.jp/about/facts/reports/>

刊行のご挨拶

附属図書館長 富山明男

令和元年12月頃に発生したとされる新型コロナウイルス感染症の影響で附属図書館は令和2年3月以降、館内利用の一部制限を実施してきましたが、令和2年4月7日の緊急事態宣言を受けて臨時閉館することを余儀なくされました。電子ジャーナル等は学外からも利用できるように対応していますが、紙資料を利用するためには基本的に来館することが必要であり、対応が難しい問題となっています。今後は資料のデジタル化やICT機器の更なる活用方策の検討がより必要とされてくることが予想されます。今回の災厄は図書館サービスの在り方を変化させていく要因になるものと強く感じています。

令和元年9月に「オープンサイエンス研修会」をおこないました。第5期科学技術基本計画や統合イノベーション戦略2019等においてオープンサイエンスの推進がうたわれ、国立研究開発法人に対してデータポリシーの策定が要請され、競争的資金配分においてデータマネジメントプランの導入が進んでいます。今回の研修会を契機として本学においてもオープンサイエンスに関する取り組みを進めていきたいと考えています。

令和元年度補正予算で保健科学図書室の改修要求が認められました。設備が老朽化し機能改善の必要性が高まっていた中での予算措置であり、大変喜ばしいことです。懸案であったアクティブラーニングスペースの整備にあわせ、多様な学習形態に応じたスペースとして活用できるよう整備計画を進めています。令和2年度下半期に工事をおこない、令和3年度から本格的に活用できるようになる予定です。

一方で、図書館全館で書架スペース狭隘化の進行が深刻な問題となっています。昨年度調査したところ、書架の収容率は全学平均で90%であり、いくつかの図書館で棚に並べることができない資料の段ボール詰めが発生しています。この15年間に重複資料を中心に約34万冊を除籍してきましたが追いついていません。学習スペースを確保するためにも書庫の増築が必要となっており、自然科学系図書館の増築改修を概算要求しています。

阪神淡路大震災から25年目を迎えました。日常の忙しさにまぎれて震災時の記憶・経験が薄れ、震災を経験していない人も増えています。附属図書館では震災文庫に所蔵する資料を通して当時の被害状況や震災の経験と教訓を振り返り、震災の風化を防ぎ災害への対策を考える機会とすべく「阪神・淡路大震災25年 あのとことこれから」の展示をおこないました。このニュースは新聞やテレビにも取り上げられています。

神戸大学出版会から3冊の図書を出版しました。本学の教育研究成果を社会に広く普及

させていくため、引き続き学術成果の情報発信を進めています。

第3期中期目標・計画期間の5年目を迎えました。今年度は第3期の目標達成に向けて力を尽くすとともに、第4期に向けた計画を策定すべき重要な年でもあります。本報告書は平成31/令和元年度に附属図書館が実施した様々な事業を整理したものであり、いわば各事業の実績に関する自己評価に相当するものです。本報告書を通して、多くの方々に附属図書館の活動をご理解いただくとともに、これからの附属図書館運営に関して忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行のご挨拶

<u>1. 本年度の取り組みの概要</u>	p. 1
---------------------------------	------

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス	p. 5
(2) 学生用資料整備	p. 9
(3) 資料提供サービスと利用促進	p. 10
(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス	p. 16
(5) 学生との協働及び学生参加型の取組	p. 17
(6) 情報リテラシー教育の推進支援	p. 19

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備	p. 23
(2) 電子的情報基盤の整備	p. 25
(3) 蔵書目録データベースの整備	p. 29
(4) 資料の保存	p. 30

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催	p. 30
(2) 震災文庫	p. 33
(3) 電子図書館システムによる情報発信	p. 35
(4) 機関リポジトリによる情報発信	p. 36
(5) 国際連携	p. 38

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営	p. 39
(2) 事務組織と人事管理	p. 41
(3) 予算及び財務会計業務	p. 45
(4) 施設整備・システム整備	p. 47
(5) 図書館界での諸活動	p. 49

<付録>

付録1	神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について	p. 52
付録2	達成度評価(第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より)	p. 56
付録3	達成度評価の根拠資料 附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	p. 58

基本統計表

付録4	蔵書・受入等の現況(各館室別)	p. 70
付録5	サービス業務の現況(各館室別)	p. 71
付録6	電子的情報サービスの現況	p. 72
付録7	図書館組織図・事務組織図	p. 73
付録8	附属図書館諸会議(議題一覧、委員名簿)	p. 74
付録9	附属図書館予算・決算表(運営経費、資料費)	p. 79
付録10	附属図書館活動日誌	p. 81

1. 本年度の取り組みの概要

◆学習・教育支援

(1) 開館サービス

年間総入館者数は約 81.2 万人で、前年度より約 1%の減少であった。本年度は、祝日授業実施日の開館、「スマホ入館」、総合・国際文化学図書館での試験期平日の早朝開館など、幾つかの開館拡大の取組を実施したが、減少幅こそ減ったものの、入館者の減少傾向に変化の兆しはみられなかった。引き続きニーズ・利用状況・経営面を考慮しながら、全館的視野で適正なサービスを提供していく必要がある。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、全学運営費交付金の減額に伴い前年度より 1.6%減の 40,360 千円とした。また、前年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、より適切な資料選定を行うよう留意する必要がある。

(3) 資料提供サービスと利用促進

学生への年間貸出総冊数は約 20.9 万冊で前年度から約 0.4%であるが微増した。学部生を中心に貸出可能冊数を増やした効果とも考えられるが、引き続き動向を見ていく必要がある。デリバリーサービス（＝図書館間資料配送）は本年度も順調に運用されており、取扱数は全館サービス体制が整った平成 27 年以降最多の 3.4 万冊となり、前年度の実績を更新した。

利用促進の取組は、SNS の利用や、「テーマ図書展示」「お昼休みトークイベント」「読書マラソン」などを工夫しながら継続している。今後も利用促進活動に積極的に取り組むとともに、電子書籍など新しいサービスへも目配りしていく必要がある。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

図書館相互利用 (ILL) について、全体として複写は増加、貸借は減少傾向にある。社会科学系図書館は、複写・貸借ともに全体の約半数を受け付けており、全学の中で ILL 受付の大きな部分を担っており、同館が人文社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 20 名が参加し、第 9 回大学図書館学生協働交流シンポジウムへの派遣、計 8 回の定例会開催、団体誌『The ULiCS Times』の第 5 号～第 6 号を発行・公開等の活動を行った。学生参加型のイベント読書会「まごまご読書倶楽部」を実施し、また、初の主催イベントとして、鶴甲第一キャンパスラーニングcommons (以下、ラーニングcommons=LC) での「全国大学ビブリオバトル 2019 地区予選」を開催した。

また、附属図書館マスコットキャラクター「うりこ」の LINE スタンプは、大学内・外からアイデアを募集し、絞り込みとラフデザイン決定を ULiCS と協働で行ったものである。

(6) 情報リテラシー教育の推進支援

全学共通教育必修科目「情報基礎」では、1 コマ (90 分) を図書館職員が担当し、計 23 回の講義

を行い、2,638名が受講した。同じく必修科目として平成28年度より始まった「初年次セミナー」では、図書館ツアーや検索ガイダンス等、図書館を活用した授業が計44回実施され、1,587名が受講し、「情報基礎」と共に新入生が図書館の利用方法を学ぶ貴重な機会になっている。セミナー・ガイダンス・オリエンテーションは、情報リテラシー係を中心に、情報リテラシー教育支援WGメンバー等が担当し、計103回、2,556名が受講した。また、学習支援の一環として、パスファインダー「KULiP」の運用を継続している。

◆学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

第3期中期計画後半である2019～2021年の教育研究基盤資料整備費全体について、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向を平成30年5月の部局長会議で承認を得た。その承認に基づき本年度は、「教育研究基盤資料整備費」3.63億円(決算ベース)が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成26年度の予算規模を維持することができた。

図書資料費を含む附属図書館運営経費は平成28年度、平成29年度の2年連続で大幅な減額となったが、平成30年度は平成29年度並みの予算であった。しかし本年度については、平成30年度より約430万円減(1.6%減)の予算となった。これら附属図書館予算の減額により、図書資料費の確保が困難となっており、更に大学全体の予算が厳しくなっていることから、ILL等の収入確保が課題である。

(2) 電子的情報基盤の整備

本年度末における電子ジャーナル購読数は35,579タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約120万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は平成30年度の規模を維持している。

令和4年度以降の次期中期計画期間においては、購読価格の上昇により、現在の購読内容の維持が困難となることが予想されるので、新たなスキームの構築に取り組む必要がある。

(3) 蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の本年度入力実績は、特殊資料(和漢古書、洋古書、マイクロ資料など)と研究室からの返納図書、製本雑誌等を合わせ17,527冊で、全蔵書数約379万冊のうち約328万冊(約87%)がOPAC(オンライン目録)で検索できるようになった。特に和古書は、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。

(4) 資料の保存

全館室にて除湿器等の設置やカビ発生状況について調査を行い、社会科学系図書館と人間科学図書館に除湿器を計5台設置した。書庫や開架室の外壁改修工事が社会科学系図書館、海事科学分館にて実施され、資料保存環境が改善された。全館室の資料収容力調査を実施し運営委員会にて報告した。書庫スペースの狭隘化は進んでおり、書庫の増築要求に加え、除籍基準の見直しなど対策を検討し、資料の適切な保存、書庫環境の改善など今後も努めていく必要がある。

◆社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施しているが、本年度の利用登録者数は前年度より18名増加した。貸出冊数は前者において前年度比1%減であり、後者においては20%増であった。資料展については、阪神・淡路大震災から25年の節目を迎えるにあ

たり、「震災文庫」の所蔵資料を通して当時の被害状況や震災の経験と教訓を紹介した。1月17日を含むよう2月初めまでを会期とし、開催中は年末年始を中心にメディアで複数取り上げられた。アンケート回答においても高評価を得て、感想の内容からも「震災25年」の展示として成果をおさめたと判断される。

(2) 震災文庫

本年度は、被災後25年の節目の年として阪神・淡路大震災をテーマとした資料展を開催しメディアの取材も受けた影響もあってか、例年より多くの来館者があった。所蔵資料総数は6万件を超え、震災文庫データベースへの本年度のデータ入力は3,088件、レコード総数は29万9千件を超えた。また、資料収集に加えて、電子化済の図書のERDB-JPへの登録や、総合教養科目で学生向けに震災文庫の説明を行う等、利用促進や周知の取り組みを広げることができた。今後は、ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所「日本災害DIGITALアーカイブ」とのシステム連携開始に向けて調整を進めていくほか、資料の受入れや公開に関する運用方針の見直しも必要である。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

平成11年より「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を3本柱に「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築を行っている。「経済関係資料」では、「大阪商工新聞」の公開を行ったほか、附属図書館電子図書館事業経費にて「新聞記事文庫」の電子化公開を進め、公開記事数は累計約31万1千件にのぼった。そのほか、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で平成30年度までに電子化した画像を公開するなど、コンテンツの充実をはかっている。今後はさらなる利便性の向上とデジタルコンテンツの保存体制の確立に向け、検討を進めていきたい。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

平成18年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」は、本年度は2,851件のコンテンツが新規登録され、総コンテンツ数は30,723件に達し、順調にコンテンツ数をのぼしている。前年度に引き続いて設置したオープンアクセス推進WGでは、主な取組としてKUIDに登録された論文情報1,877件の出版社の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち588件について著者へ登録依頼した結果、230件を登録することができた。そのほか広報活動として、『Kernel通信』の継続的な発行のほか、本年度初の試みであるオープンアクセスに関するガイダンスの実施も行った。今後は、オープンアクセス推進WGによる著作権調査および広報活動を継続していくことに加え、登録数増加を目指したワークフローの見直しや、研究データの公開に向けた情報収集および検討を行う必要がある。

(5) 国際連携

前年度に引き続き国内他機関からの依頼を受け職員2名を海外に派遣した。また国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)の助成を受け職員1名を海外に派遣した。同事業への応募・採択は5年連続となった。海外派遣の成果は職員研修会や事前勉強会にて館内に共有している。海外派遣には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

◆管理運営等

(1) 図書館組織と運営

平成31年3月、任期満了により萩原泰治館長(経済学研究科教授)が退任し、4月より部局長経験者である富山明男館長(工学研究科教授)が就任した。館長の交替に伴い、副館長3名が交替した。

4月25日に館長・副館長・分館長懇談会を開催し、新たな役割分担を決めた。附属図書館運営委員会は4回開催した。懸案事項となっている第4期中期計画期間前半(2022～2024年)の教育研究基盤資料の整備方針について、今後のスケジュール、基本方針を確認した。

(2) 事務組織と人事管理

7月時点で、附属図書館事務部は2課3グループ11係、定員46名(欠員1名)、非常勤職員36名の82名であった。4月に1名を採用予定であったが辞退となり、4月～9月の期間は欠員1名となったが、近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から、10月に1名採用した。また経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員2名、非常勤職員2名を配置している。本年度も積極的に学内外の研修に職員を派遣するとともに、内部研修も企画・開催した。また、係横断的な業務や課題解決のため6つのワーキンググループが活動し成果をあげている。アウトソーシングによる効率化については、前年度に続き雑誌製本業務と資産点検業務で、規模縮小や契約見直しにより予算縮減に対応した。業務改善は、本年度より附属図書館内での事業として改めて取り組んだ。

(3) 予算及び財務会計業務

經常運営費・經常事業費の当初予算総額は267,137千円で、前年度の271,481千円から4,344千円の減となった。教育研究基盤資料整備費として確保した3.7億円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。また学内ワークスタディ実施経費(603千円)により、学生補佐員14名と、試行設置したPC相談カウンターの要員としてSA(ステューデント・アシスタント)2名を雇用した。

(4) 施設整備・システム整備

施設部が各部局より確保して執行する建物老朽劣化対策経費により、社会科学系図書館書庫A棟・B棟、海事科学分館の外壁改修工事を実施した。また学内営繕・エコ対策経費により、海事科学分館1階トイレ改修工事、医学分館2階の空調機更新を実施した。自然科学系図書館でのLC設置と集密書架設置を概算要求している。保健科学図書室を含む保健学研究科A棟の施設整備事業概算要求が本年度補正予算で採択され、次年度はLC整備も含め改修を計画・実施する。

情報機器とシステム面においては、OSのサポート終了に伴い必須となった医学分館の24時間入退館システムの更新を、財務部に予算要求した臨時的経費により実施した。また、Windows7のサポート終了に伴い、残っていたWindows7端末の更新を完了した。加えて、財務会計システムの更新・消費税率の改定等への対応を行った。

(5) 図書館界での諸活動

国立情報学研究所から講師を招き、「オープンサイエンス研修会」を開催した。また、国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業として、研修会「著作権制度の改正と障害者サービス」を開催した。係員1名が海外派遣事業(短期)に採択された。兵庫県大学図書館協議会では引き続き会長館、事務局として協議会の運営にあたった。国立情報学研究所の2部会の委員を務め、JPCOARでも1作業部会員を務めた。他機関・団体等が開催する5件の研修や講習会に、講師・担当者等としてのべ5名を派遣した。他機関との連携は参加する職員自身の資質向上にもつながるものであり、今後も推進が期待される。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

《開館状況》

- 本年度の開館時間帯は下表のとおりである。

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:00	8:45-21:00	8:45-17:00	8:45-21:00	8:45-21:00	8:45-21:00
	土曜	10:00-18:00	10:00-19:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	休館	9:00-17:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	日祝	休館	10:00-19:00(注1)	10:00-18:00	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 17:00まで 土日祝休館	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日祝休館	平日 17:00まで 土日祝休館	平日 17:00まで 土日祝休館	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日祝休館	平日 17:00まで 土日祝休館	
試験期 特別開館	日祝 10:00-18:00	祝 10:00-19:00	祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	通常期と同じ	通常期と同じ	日祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	

(注1) 原則奇数月第1日曜日は除く

※令和元年8月13日(火曜日)全館室休館

平成30年6月29日に「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律案」が成立して計画的年休の取得が義務化され、本学では夏季一斉休業前後の年次有給休暇取得が奨励されている。本年度は8月13日が奨励対象日で、前後数日間が休館であったため、この日を全館室休館とした。

※令和2年3月、新型コロナウイルス感染症の影響により、学外者の入館制限およびグループ学習室等施設の一部使用制限の措置をとった。

- 本年度は、以下のサービス拡充および拡充に向けての試行を行った。

1) 授業スケジュールに連動した開館拡大

神戸大学教学規則改正に伴って附属図書館利用規程を改正し、本学創立記念日(5月15日)を休館日から外し通常開館を行った。また、授業日とされた祝日休館日を授業実施状況に合わせて下表のとおり、通常期平日の時間帯で開館した。

＜祝日授業日開館状況＞

5月6日(月)振替休日	保健科学図書室を除く8館室を開館
7月15日(月)海の日	医学分館、保健科学図書室を除く7館室を開館
10月14日(月)体育の日	全9館室を開館

2) 海事科学分館夜間開館時間の延長(正式運用)

平成30年度に通常期平日の開館時間を1時間延長し21時までとする試行を1年間行い、特段の混乱や問題は発生しなかったため、本年度より正式運用とした。

3) 2学期クォーター制に対応した試験期特別開館(試行継続)

前・後期(第2・第4クォーターに相当)試験期間に対しての特別開館は、経済経営研究所図書館および医学分館を除く7館室で実施している。平成28年度にクォーター制が導入されたことに伴い、2学期クォーター制に対応するとして、第1・第3クォーター試験期間に対しても特

別開館の試行を開始した。平成 28 年度に総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、自然科学系図書館の 3 館でスタートし、平成 30 年度からは人文科学図書館、海事科学分館の 2 館を加えた 5 館となり、本年度も引き続き 5 館での試行を継続した。第 1・第 3 クォーター第 7・8 週目の日曜・祝日に該当する、5 月 26 日、6 月 2 日、11 月 17 日、11 月 23 日、11 月 24 日の合計 5 日、延べ 17 日を開館した。(平成 30 年度開館実績も 17 日)

4) 試験期早朝開館 (試行)

学生の主体的学習時間を確保するため、利用者数の最も多い総合・国際文化学図書館において、クォーター制試験期に対応した 41 日間 (各クォーター第 7・8 週目の平日) に、開館時間を 8 時 45 分から 45 分間前倒しして 8 時とする早朝開館を試行した。

5) スマホ入館 (試行)

図書館利用証 (学生証) の代わりに、スマートフォン上に表示させた利用者バーコードを読み取らせて入館ゲートを通過する「スマホ入館」の試行を全館室で 6 月 26 日から開始した。(経済経営研究所図書館及び医学分館を除く)

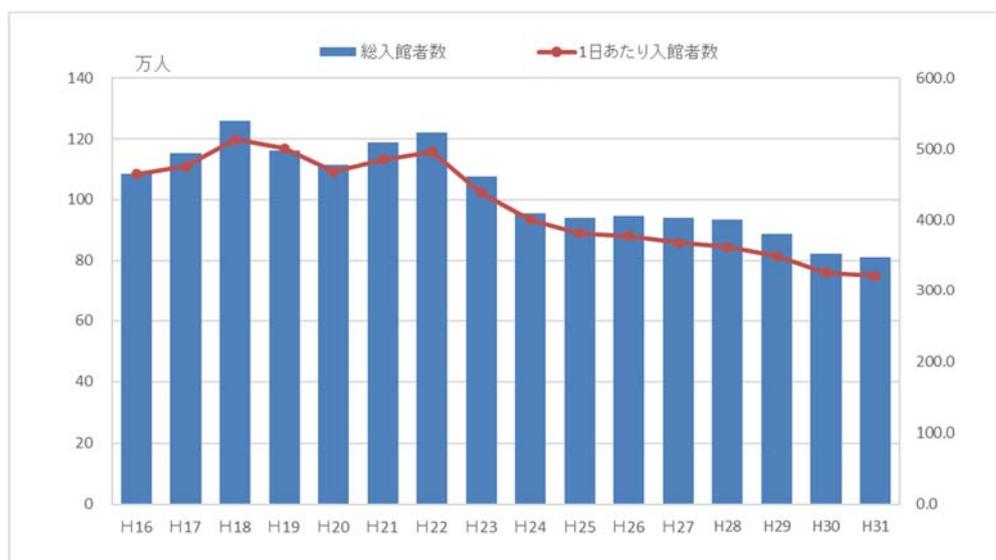
《入館状況》開館

＜入館者数経年推移＞

平成 16～31 年度の年間総入館者数及び 1 日あたりの入館者数の経年推移を右に掲げた。

改修工事 (平成 20 年度総合・国際、平成 25 年度社会系) 及び入退館管理システム導入 (平成 23・24 年度) があった年に入館者数が減少している。平成 26 年度以降についても、緩やかに減少している。

＜入館者数の推移＞



＜全館入館者数＞

	年間総入館者数	1日あたり入館者数
H31/H30	0.99	0.99
H30 年度	823,380	326.2
H31 年度	812,400	321.4

- ・表は、平成 31 年度の全館入館者数を平成 30 年度と比較したものである。
- ・年間総入館者数、1 日あたり入館者数ともほぼ前年度並みであった。

<通常開館>

平日 8:45～17:00 時間帯の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H31/H30	0.96	0.94	1.00	0.93	0.91	1.15	0.91	0.92	1.83	0.98
H30 年度	895.5	559.0	318.0	246.2	213.2	10.7	292.5	146.8	99.4	309.1
H31 年度	858.8	525.7	317.5	229.3	194.6	12.4	266.4	135.6	181.9	302.6

- ・ 表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の 1 日あたりの入館者数を平成 30 年度と比較したものである。
- ・ 経済経営研究所図書館、海事科学分館の 2 館で増加、それ以外 7 館室では減少している。
- ・ 海事科学分館の数値が大幅に増加しているのは、本年度より、学生自習室の利用数を加えたこと、グループ学習室利用者数を機械計測数に変更したことによるものである。

<夜間開館>

平日夜間（17:00～）時間帯の 1 日あたりの入館者数

※総合・国際文化学図書館は、早朝開館（8：00～8：45）の入館者数を含んでいる。

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H31/H30	1.02	0.98	1.04	0.97	0.83	—	0.84	0.89	2.37	1.00
H30 年度	157.4	84.9	80.5	58.3	33.8	0.0	75.5	25.6	17.4	67.6
H31 年度	160.4	83.2	83.5	56.6	28.2	0.0	63.0	22.7	41.1	67.8

- ・ 夜間開館については、総合・国際文化学図書館、自然科学系図書館、海事科学分館の 3 館で増加、それ以外の 5 館室で減少している。人間科学図書館、医学分館、保健科学図書室では前年度と比べ 10%以上減少している。
- ・ 早朝開館を試行した総合・国際文化学図書館では 2%増加している。早朝開館 41 日間の総入館者数は 1,289 人、1 日平均 34.4 人であった。平成 27 年度試行時（1 日平均 50.2 人）より入館者数は少なめであったが、70 人を超える日も 4 日間あった。学部を問わず主に学部生が、閲覧席や教育用端末の利用を目的に入館していた。
- ・ 海事科学分館の数値が大幅に増加しているのは、本年度より、学生自習室の利用数を加えたこと、グループ学習室利用者数を機械計測数に変更したことによるものである。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H31/H30	1.54	1.09	1.07	1.09	1.38	—	0.93	0.90	2.69	1.16
H30 年度	132.8	237.4	128.4	78.9	27.8	—	91.9	40.6	26.4	115.7
H31 年度	204.3	259.3	137.4	86.0	38.3	6	85.2	36.5	71.0	134.0

- ・ 土曜・日祝開館については、全体として 16%増加したが、これは祝日授業日に平日通常時間帯で開館（時間外開館を含む）した日が 3 日含まれていることが大きな要因である。
- ・ 海事科学分館の数値が大幅に増加しているのは、本年度より、学生自習室の利用数を加えたこと、グループ学習室利用者数を機械計測数に変更したことによるものである。

<祝日授業日開館>

		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
開館日数		3	3	3	3	3	3	2	1	3	24
入館者数		3,335	2,427	1,274	881	582	18	322	97	471	9,407
1日あたり入館者数		1,111.7	809.0	424.7	293.7	194.0	6.0	161.0	97.0	157.0	392.0
(時間内)	8:45-17:00	995.0	715.0	345.7	243.7	176.0	6.0	116.0	76.0	137.0	340.1
(夜間)	17:00-	116.7	94.0	79.0	50.0	18.0	-	45.0	21.0	20.0	59.2

・5月6日(振替休日)・7月15日(海の日)・10月14日(体育の日)を通常期平日開館時間帯で開館した入館者数は上表のとおりであった。

<第1・第3クォーター試験期特別開館>

		総・国	社会系	自然系	人文	海事	合計
開館日数		5	1	1	5	5	17
入館者数		930	355	240	390	476	2,391
1日あたり入館者数		186.0	355.0	240.0	78.0	95.2	140.6

・5館で試行した第1・3クォーター 7-8週目の日曜・祝日(5月26日・6月2日・11月17日・11月23日・11月24日)の入館者数は上表のとおりであった。

<24時間開館>

- ・医学分館で、医学部・医学研究科・保健学研究科・附属病院所属者を主対象として平成9年から実施している。学部2年次生以上が、主に自習や試験準備のために利用している。平成31年度の利用者数は16,054人で、前年度より17%減少した。(平成30年度:19,354人)

◆評価と課題

本年度の年間総入館者数は812,400人で前年度より約1%(10,980人)減、また1日あたり入館者数も同様に1%(5人)減であった。時間帯別、あるいは館室別に詳細を見ていくと、多少の増減はあるものの、平成26年度以降続いている緩やかな減少傾向に変化の兆しはない。祝日授業に連動した開館、総合・国際文化学図書館における試験期平日の早朝開館、「スマホ入館」など、本年度も入館数を増やす取組に努めたが、残念ながら入館者数の増加には結びついていない。

祝日授業日の開館は本年度初めての実施だったが、平日の開館日とほぼ同じ入館があった。授業の実施に連動して図書館が開館していることの周知に務め、次年度以降も継続していく。

早朝開館は過去(平成27年度)にも一度試行を実施している。今回は前回より入館者数は少なかったものの、一定数の学部学生の利用があることはわかった。開館時刻を改める等の改善をした上で試行を継続する。

「スマホ」入館は、試行開始直後の7月に自然科学系図書館などで入館者数が増加したものの、入館者数増加に寄与しているかは検証できていない。一方、多い学部では在籍者の4割弱程度が「スマホ入館」を利用した経験があるとのデータが出ている。今後本運用を検討していく上では、入館方法の簡便化と館内セキュリティ管理という相反する問題のバランスを如何にとるかが課題である。

夜間、土曜、日祝日の開館については、財政状況が厳しさを増し、時間外開館経費の確保についても課題となりつつあることから、ニーズに合致した開館日を設定していくことの重要性が増している。授

業や定期試験に対応した開館ができていないか、常に検証、見直しをしていくことが必要であろう。

入館者の減少をはじめ開館サービスを取り巻く課題は容易に解決できるものではないが、サービスの安定的な提供をめざす一方、利用者ニーズに合致したサービスを全館的視野にたって模索していかなければならない。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は〈付録〉基本統計表のとおりである。

〈資料費予算と重点整備〉

- 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算（図書館セグメント）から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費（部局セグメント）を合わせて実施することとなっている。
- 本年度の図書館予算は40,360千円であった。全学運営費交付金の減額に伴い1.6%の減額となった。
- 平成28年度よりE-Study事業費は独立した予算項目とした。本年度予算は4,406千円と前年度から消費増税分の増額となっている。
- 平成18年度より震災文庫資料費（400千円）は独立した予算項目となっている。
- 平成16年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（1,194冊）、社会科学系図書館（1,022冊）、自然科学系図書館（1,235冊）、人間科学図書館（535冊）において実施し省力化・合理化を進めた。なお保健科学図書室については、購入点数も少なく省力化があまり見込めないことから平成29年度から装備付納品を中止した。

〈各館室の整備状況〉

R1 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	2,443	309	2,526	1,411	345	629	127	559	326	646	9,321
雑誌種数	73	10	14	127	15	77	0	131	77	88	612

- 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

〈選書体制と収集方針〉

- 平成16年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- また、総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」（学生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するというもの）を平成22年度より実施している。本年度は、6月21日にジュンク堂書店三宮店において店頭選書を行った。あわせて14名の学生（学部生12名、院生2名）が参加して選書を行い、122冊を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取組を継続する方針である。

〈選書評価〉

- 平成18年度から、前年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価

を開始し、平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。本年度末には、平成 30 年度に整備した学生用図書を選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。(令和元年度第 4 回附属図書館運営委員会で報告)

◆評価と課題

平成 26 年度以降、全学運営費交付金の減額に伴い、学生用資料費も減額が続いている。本年度も 1.6% と、平成 29 年度の 10% と比較すれば削減幅は抑えられているものの、それでも減額の一途を辿っている。今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため予算規模の維持を目指すと共に、より適切な資料選定を行うよう留意する必要がある。

(3) 資料提供サービスと利用促進

貸出及びデリバリーサービス(=図書配送)冊数等の詳細は、<付録>基本統計表のとおりである。相互利用サービスについては、2(4)に後述する。

《貸出サービス》

本年度は、以下の変更および試行を行った。

- ・海事科学分館 雑誌貸出条件の変更(利用細則改正)

雑誌の貸出期間を、総合・国際文化化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館に倣って 3 日から 1 週間とし、冊数については図書とは別に 3 冊だったものを、図書と雑誌を合計した冊数が身分ごとに決められた冊数以内と改めた。

- ・貸出可能冊数の変更(試行)

下表のとおり、学部学生を中心に貸出可能冊数上限を 10 冊に増やした。

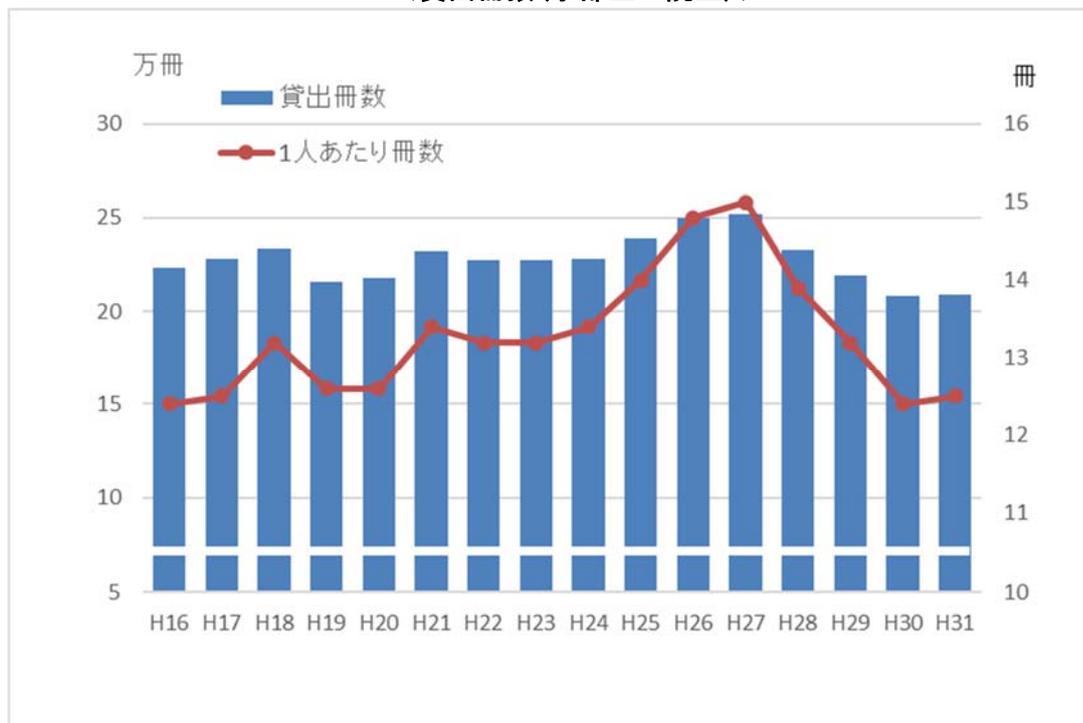
貸出可能冊数の変更(試行)

※赤字が変更部分

館室名	学部学生	大学院生	教職員
総合・国際文化化学図書館	6冊 2週間 ↓ 10冊 2週間	20冊 1か月	30冊 1か月
社会科学系図書館		6冊→10冊 2週間(開架) 20冊 2か月(書庫)	6冊→10冊 2週間(開架) 50冊 1年間(書庫)
自然科学系図書館		6冊→10冊 2週間	6冊→10冊 2週間
人文科学図書館		20冊 1か月	30冊 1か月(開架) 30冊 1年間(書庫)
人間科学図書館		20冊 2週間(開架) 20冊 1か月(書庫)	20冊 2週間(開架) 20冊 6か月(書庫)
医学分館		6冊→10冊 2週間	6冊→10冊 2週間
保健科学図書室		6冊→10冊 2週間	30冊 3か月
海事科学分館		10冊 2週間 海事4回生 10冊 1か月	20冊 1か月
経済経営研究所	5冊→10冊 2週間	10冊 1か月	研究所 50冊 6か月 それ以外 25冊 3か月

<貸出冊数（学部生・院生）経年推移>

<貸出冊数(学部生・院生)>



平成 16 ～31 年度の経年推移を上に掲げた。

- ・ 本年度の貸出冊数は、前年度より約 700 冊増え、209,180 冊であった。
- ・ 学生 1 人当たりの貸出冊数は 12.5 冊（前年度：12.4 冊）であった。
- ・ 学部生の貸出数は 124,291 冊、1 人あたりの貸出冊数は 10.5 冊、大学院生の貸出数は 84,889 冊、1 人あたりの貸出冊数は 17.2 冊であった。

<館室別学部生・院生貸出冊数>

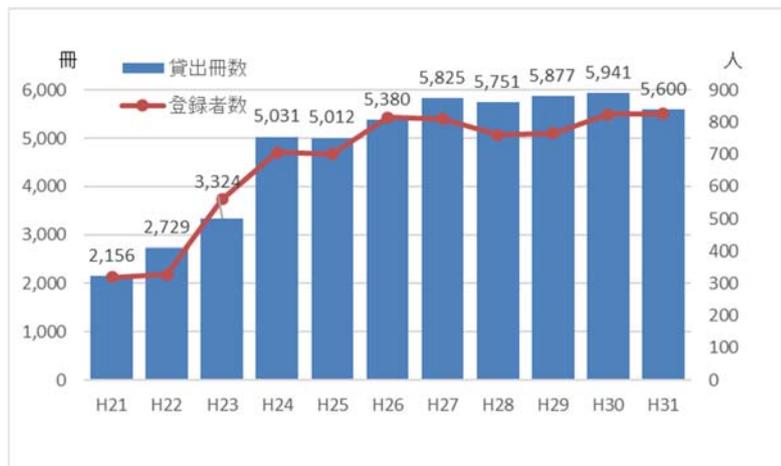
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H31/H30	1.05	0.99	1.06	0.92	1.01	1.18	0.80	1.03	0.93	1.00
H30 年度	56,184	45,532	31,988	19,590	20,369	651	6,938	11,648	15,542	208,442
H31 年度	59,011	45,021	33,806	17,944	20,593	766	5,560	12,052	14,427	209,180

- ・ 平成 28 年度以降減少していた貸出総冊数が本年度は微増した。各館室の貸出冊数についても、9 館中 5 館で前年度より増加している。

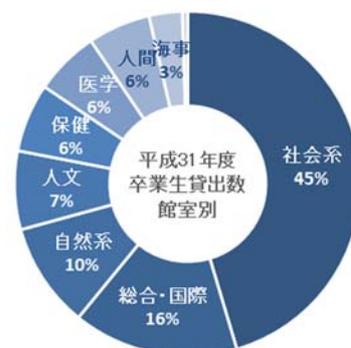
<卒業生及び修了者に対する貸出>

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成 21 年 3 月に始まった。本年度の登録者数は 827 人で平成 30 年度（825 人）とほぼ同数であった。貸出冊数は 5,600 冊で、平成 30 年度（5,941 冊）より少なかったものの、一定数の利用があった。館室別では、社会科学系図書館、総合・国際文化学図書館、自然科学系図書館の 3 館を合わせた貸出数が約 70%を占め、その他の館室も適宜利用されている。これらの利用傾向は前年度と変わらないものであった。

<卒業生貸出の推移>



<卒業生館室別貸出数>



《デリバリーサービス》

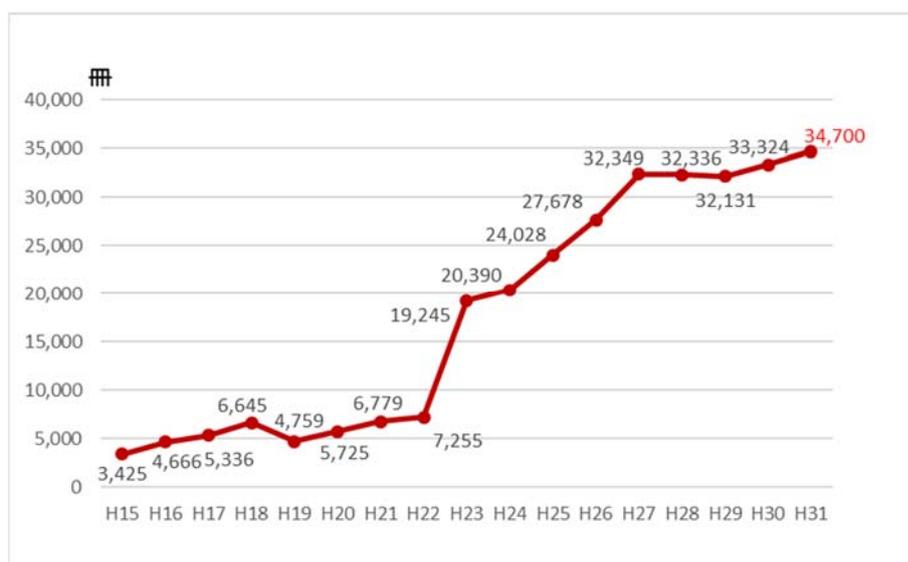
<デリバリーサービスの推移>

デリバリーサービスは、平成 12 年度後期に院生、教職員（異キャンパス間は学部学生も）を対象に始まった。

平成 23 年度に激増したのは、六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大したことによる。平成 27 年度には経済経営研究所図書館が加わり、全館室でサービスを利用できる体制が整った。

本年度は、前年度より約 1,400 冊増え 34,700 冊の貸出があった。これは前年度比 4%増、前年度に続き過去最多数を更新している。

<デリバリーサービス貸出冊数推移>



<館別デリバリーサービス取扱冊数>

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H31/H30	1.07	1.03	1.08	1.00	1.05	1.49	0.90	1.01	0.96	1.04
H30 年度	16,037	12,609	7,295	12,126	8,917	1,118	1,726	2,244	4,576	66,648
H31 年度	17,162	13,041	7,866	12,082	9,376	1,664	1,560	2,275	4,374	69,400

- ・上の表は、館別に平成 31 年度の発送冊数と受取冊数を合算し、平成 30 年度と比較したものである。
- ・発送冊数と受取冊数を合算しているため、貸出冊数の 2 倍の数値になっている。
- ・館室により多少の増減はあるものの、前年度並み、あるいは増加している館が多い。

<附属中等教育学校への図書貸出サービス>

総合・国際文化学図書館、人間科学図書館の2館が所蔵する図書を附属中等教育学校に対して貸出するサービスは、平成24年度から28年度の間「中等教育学校図書室」に後期課程生徒（高校生）向け図書の整備ができるまでの5年間限りの特別措置として実施された。そのサービスを継承するものとして、平成29年3月「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」が附属学校部長と附属図書館長の間で締結された。この申し合わせにより、配送による貸出サービスに加え、直接中等教育学校生徒が来館して貸出を受けることができるようになった。また、平成29年度からは、配送についても、デリバリーサービスの集配場所に附属中等教育学校図書室を加え、手続きの簡素化を図っている。8年間で合計1,016冊を貸出している。

<貸出冊数>

館名/年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	合計
総合・国際	134	11	0	246	135	92 (37)	20 (17)	264 (261)	902 (315)
人間	7	25	7	7	54	3 (3)	8 (8)	3 (3)	114 (14)
合計	141	36	7	253	189	95 (40)	28 (25)	267 (264)	1,016 (329)

(内数)：直接来館による貸出数

<<利用促進>>

<テーマ図書展示>

平成26年度から全館で共通テーマを設定して、所蔵図書からテーマに沿った図書を館員が選び、期間を決めて展示する取組を始めた。本年度は、総合図書館資料選定委員会のもと、春には「レポート・論文の書き方」を共通テーマとして設定、秋には前年度学生選書ツアーで選定された図書を、ワークショップで作成されたPOPと共に各館で展示する「巡回展示」を実施した。それ以外の時期にも各館室の特色やイベントに合わせた展示を積極的に行い、年間合計50回を次の表のとおり実施した。

展示の種類	実施館	テーマ	実施開始月
共通テーマ展示	総合・国際文化学図書館	レポート・論文の書き方	4月
共通テーマ展示	社会科学系図書館	レポート・論文の書き方	4月
共通テーマ展示	人文科学図書館	レポート・論文の書き方	4月
共通テーマ展示	人間科学図書館	レポート・論文の書き方	4月
共通テーマ展示	経済経営研究所図書館	レポート・論文の書き方	4月
共通テーマ展示	医学分館	ARE YOU READY? 論文・レポート	4月
共通テーマ展示	保健科学図書室	レポート・論文の書き方	4月
共通テーマ展示	海事科学分館	レポート・論文の書き方	4月
テーマ展示	海事科学分館	西摂津の歴史と景観 -神戸、深江を中心に-	4月
共通テーマ展示	自然科学系図書館	論文・レポート執筆サポートブックフェア	5月
テーマ展示	社会科学系図書館	データ分析ことはじめ	6月
テーマ展示	自然科学系図書館	$h=6.626\ 070\ 15 \times 10^{-34}\ \text{J s}$	6月
テーマ展示	人文科学図書館	人文学、はじめの一冊	6月
テーマ展示	人間科学図書館	はじめましての新書	6月

テーマ展示	医学分館	統計の本	6月
巡回展示	総合・国際文化学図書館	学生選書ツアー2019 選定図書	8月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	ULiCS 文庫「平成の名著」	8月
テーマ展示	人文科学図書館	令和の初めによむ万葉集	8月
テーマ展示	人間科学図書館	読めなくても楽しい、人間科学図書館 絵本コレクション	8月
テーマ展示	社会科学系図書館	やる気って何だ？	9月
巡回展示	人文科学図書館	学生選書ツアー2019 選定図書	9月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	総合教養科目「職業と学びーキャリアデザインを考える」講師のおすすめ図書【キャリアセンターコラボ展示】	10月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	お昼休みトークイベント「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」関連展示	10月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	日本・ポーランド国交樹立 100 周年	10月
巡回展示	自然科学系図書館	学生選書ツアー2019 選定図書	10月
テーマ展示	人文科学図書館	山口誓子記念館とのコラボ企画！山口誓子 & 俳句特集	10月
テーマ展示	人文科学図書館	大学文書史料室とのコラボ企画：新制大学発足 70 年と文学部のこれから	10月
テーマ展示	人間科学図書館	推薦図書で読む子どもの学び・育ち・暮らし	10月
テーマ展示	経済経営研究所図書館	社会問題について考えてみませんか？	10月
テーマ展示	医学分館	推薦図書 2019	10月
テーマ展示	海事科学分館	和船と北前船の本	10月
テーマ展示	社会科学系図書館	『マンガでわかる〇〇』みたいな本って、ホントに漫画でわかるんですか？	11月
テーマ展示	自然科学系図書館	系外惑星と宇宙の姿	11月
巡回展示	人間科学図書館	学生選書ツアー2019 選定図書	11月
テーマ展示	人文科学図書館	海事博物館とのコラボ企画：和船の活躍した時代ー近代以前の船と人	11月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	ULiCS 文庫「ビブリオバトル&冬のおすすめ本」	12月
巡回展示	医学分館	学生選書ツアー2019 選定図書	12月
テーマ展示	人間科学図書館	善き生とは	12月
巡回展示	保健科学図書室	学生選書ツアー2019 選定図書	1月
テーマ展示	社会科学系図書館	話す・聞く・伝える	1月
テーマ展示	人文科学図書館	見つめ直す、いま	1月
テーマ展示	経済経営研究所図書館	人生 100 年時代に働くということ	1月
テーマ展示	医学分館	医学生による医学生のためのオススメ本 2019	1月
巡回展示	社会科学系図書館	学生選書ツアー2019 選定図書	2月
テーマ展示	人間科学図書館	冬ごもりのすゝめ。	2月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	ULiCS 文庫「神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会」	3月
テーマ展示	社会科学系図書館	あなたの『はじめて』を応援する本	3月
巡回展示	海事科学分館	学生選書ツアー2019 選定図書	3月
テーマ展示	人文科学図書館	神戸新聞連載特集：21 世紀の人文学 ～第 1 弾～	3月
テーマ展示	保健科学図書室	公衆衛生と文学	3月

<イベント>

・読書マラソン

前年度に続き、10月23日から12月27日にかけて、総合・国際文化学図書館において実施された。読書推進および図書館利用・貸出促進のための企画として、読書を促す仕掛けを用意することで、読書を通じて知識・教養を高めるとともに、読書習慣を学生に身につけてもらうことをねらいとした。

参加者は対象資料を1冊読むたびに、感想等を記入した読書カードを提出し、スタンプ台紙にスタンプの押印を受け、スタンプが一定数たまると景品を受け取る仕組みとした。読書カードの提出者は19名、読書カード提出数は143枚、規定の10冊を読破した完走者数は13名であった。



1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

学籍番号 _____
氏 名 _____

附属図書館 読書マラソン企画
読書カード

氏名			
学籍番号			
学部 研究科	学 年		
読んだ本の タイトル			
著者			
請求記号 (背表紙下の英数字)			
読んだ感想			
感想の広報 利用 (ツイッター・配速 等)	可・不可	(可の場合) ペンネーム	
当企画の終了後、この読書カードの返却を希望される方は チェックを入れてください。			<input type="checkbox"/>

◆必ず1冊読み終えたら、この読書カードとスタンプカードを総合・国際文化学図書館のカウンターにご提出ください。スタンプを一つ、押印します。
◆押印の対応は、神戸大学附属図書館の図書で、当企画の貸出期間中に10月23日～12月27日の間で貸出されたもののみとさせていただきます。
◆ご記入いただいた内容は本企画の管理運営上必要な場においてのみ利用させていただきますが、感想の広報利用を可としていただいた場合は、附属図書館公式ツイッター等のメディアを通じてペンネームと併せてご紹介させていただく場合があります。
※図書館 図書費

お問い合わせ先：libr-gibsenryo@office.kobe-u.ac.jp

・お昼休みトークイベント

『ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ』：3回シリーズ (場所) 総合・国際文化学図書館

国際文化学研究科図書委員を務める教員と協力し、3回シリーズで開催した。昼休みの短い時間ながら盛況となり好評であった。(参加人数総計：58名) イベント開催にあわせ、関連図書の展示も行った。

【各シリーズ内容】(10月15・16・17日開催、各回とも講師は教員)

- ①「多文化が共生する寛容な国際都市ベルリンの魅力」
- ②「人文系学者にとって留学するという事」
- ③「モスクワ：東西文化の交差点」



神戸大学附属図書館お昼休みトークイベント2019
ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ

今年も総合・国際文化学図書館のお昼休みトークイベントを開催します！
国際文化学図書館より「図書館委員会」の学生が企画した、「ヨーロッパ研究・留学」をテーマに、1つ1つの講座を通してヨーロッパを学べます。それぞれのテーマに精通された先生方の熱心な講義の傍ら、関連の図書の展示も行う予定です。授業の時間外、勉強の時間外、ぜひお気軽に参加してください！

<p>第1回 10/15(火)</p> <p>多文化が共生する寛容な国際都市ベルリンの魅力</p> <p>講師 天 先生 国際文化学研究科</p>	<p>第2回 10/16(水)</p> <p>人文系学者にとって留学するという事</p> <p>講師 山田良彦 先生 国際文化学研究科</p>
<p>第3回 10/17(木)</p> <p>モスクワ：東西文化の交差点</p> <p>講師 シュワトフ・ヤロスラフ 先生 国際文化学研究科</p>	<p>時間 各日 12:20 ~ 12:50</p> <p>場所 総合・国際文化学図書館 2Fテーマ図書展示コーナー前</p> <p>申込 参加申し込み不要 当日お気軽にお越しください。</p>

附属図書館ウェブサイトにて、トーク内容紹介や関連図書展示リストを掲載中です。
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/libenryo/2019/>

お問い合わせ先
神戸大学附属図書館 (関係：図書・図書課)
TEL 078-003-7261
E-mail gibsenryo@office.kobe-u.ac.jp

◆評価と課題

本年度の学部生・院生への貸出総冊数は209,180冊で、前年度より約700冊、約0.4%の微増であった。学生1人あたりの貸出冊数も12.4冊から12.5冊に微増し、平成28年度から続いていた減少傾向に歯止めがかかったように見える。これは、学部学生を中心に貸出可能冊数を増やした試行の効果とみることもできるが、前年度の数値は連続した自然災害の影響を含んで少なめであった可能性も考えられることから、早急な判断はせず、次年度以降の推移をみていく必要がある。

デリバリーサービスは、平成27年度に全館室で利用できる体制が整ってから5年が経過したが、本年度も順調な運用が続いている。総合大学の強みを生かした幅広い分野の蔵書を手軽に利用できるサービスとして、今後も安定的な運用に努めていく必要がある。

利用促進を図る取り組みは、前年度に引き続き積極的に実施した。テーマ図書展示は着実に継続している。6年間の実施回数は下表のとおりだが、各館室においては、これまで実施してきた自館蔵書への関心を引き出す「テーマ企画」に加え、他部署の取組と連携して関連図書を展示する「コラボ企画」が加わり始め、広がりを見せている。

＜テーマ図書展示実施回数＞

H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	合計
31	37	44	49	47	50	258

また、イベントとしては、前年度に引き続き「読書マラソン」を実施した。完走冊数を前回の15冊から10冊に引き下げて設定したこともあり、完走者が6名から13名に増えた。読書習慣のある学生は年々減少傾向であると言われていたなか、読書を促す仕掛けとして定着することが期待される。総合・国際文化学図書館での「お昼休みトークイベント」についても、国際文化学研究科の教員と連携して3年連続開催しており、今後も地道に続けていきたい取組である。

平成27年度から5年間にわたり、学生用図書資料費の減額によって新刊書の購入冊数が減少し続けていること、若者の活字ばなれ、電子書籍の普及など、諸般の事情を考えると、貸出サービスにおいて貸出冊数増加という形で成果を出すのは厳しい状況である。デリバリーサービスなど利用者ニーズの高いサービスを安定して提供することを基本とし、教員及び教育関連部署と連携した利用促進の取組を積極的に実施するとともに、電子書籍など新しいサービスの可能性への目配りも忘れてはならない。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

＜相互利用サービス＞

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
複写	受付	R1(H31)/H30	1.11	1.27	1.07	1.09	1.13	0.61	0.94	0.91	1.34	1.11
		H30年度	232	2,731	465	386	356	150	1,317	589	122	6,348
		R1(H31)年度	257	3,477	496	420	403	91	1,233	534	164	7,075
	依頼	R1(H31)/H30	0.94	1.41	0.83	0.87	1.05	6.00	1.22	0.65	0.98	1.02
		H30年度	539	1,027	477	749	756	5	364	711	47	4,675
		R1(H31)年度	508	1,453	398	651	791	30	443	464	46	4,784
貸借	受付	R1(H31)/H30	1.07	0.95	1.29	0.98	1.19	0.61	1.21	0.82	0.89	0.99
		H30年度	453	1,409	86	463	168	36	19	17	64	2,715
		R1(H31)年度	486	1,333	111	454	200	22	23	14	57	2,700

依頼	R1(H31)/H30	0.59	0.81	0.67	1.04	1.19	1.88	0.23	0.64	0.43	0.86
	H30 年度	210	356	108	413	100	8	13	14	14	1,236
	R1(H31)年度	123	290	72	428	119	15	3	9	6	1,065

・館室によって増減はあるが、全体として前年度と比べて文献複写の受付は 11%増、依頼は 2%増、現物貸借の受付は 1%減、依頼は 14%減となっている。

◆評価と課題

本年度の利用は文献複写の受付・依頼ともに増加であるが、現物貸借の受付・依頼については前年度に引き続き減少傾向となっている。館室による推移に特徴は見られず、館室別の傾向は掴み難い。文献複写の受付に限れば、本年度の総数(研究所は除く)は 6,984 件で前年度の総数(研究所は除く)より 786 件も増加したことになる。他大学における消費増税に伴う文献複写料金の改正が見受けられることの影響があるのか、今後も館室別の推移も含め、注視していきたい。

社会科学系図書館は、複写は全体の約 49.1%、貸借は約 49.4%を受け付けており社会科学系の外国雑誌センター館として、また地域の中核となる図書館として、その責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

<附属図書館学生チーム ULiCS>

学生との協働を目的に平成 27 年 10 月に発足した「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 20 名が参加している。定例会として職員とのミーティングを月に一度程度定期的に行い、それ以外に学生のみもしくは活動中のグループごとの打合せは随時行っている。本年度の活動状況は、以下のとおりである。

4 月	『The ULiCS Times』第 5 号発行。配布と HP での公開
4/2-3	新入生歓迎祭に参加、チラシ配布
4/8、18	総合・国際文化学図書館 LC において団体説明会を実施
4/24	まごまご読書倶楽部を鶴甲第一キャンパス LC で開催 テーマは「平成の名著」、紹介した本の一部を同館内に展示
6/21	ULiCS Times 班学生ミーティング
6/24	鶴甲第一 LC において学内限定でビブリオバトル開催
8 月-12 月	ULiCS 文庫(展示)実施。テーマは 4 月のまごまご読書倶楽部で取り上げた「平成の名著」
9/5-6	第 9 回大学図書館学生協働交流シンポジウム参加、ULiCS の活動内容について紹介
10 月	『The ULiCS Times』第 6 号発行。配布と HP での公開
10/28	鶴甲第一 LC において全国大学ビブリオバトル関西Aブロック地区予選開催

12月-2月	ULiCS 文庫(展示)実施。テーマは6月と10月開催した「ビブリオバトル」紹介本と「神大生が神大生のために選んだ冬のオススメ本」
2/10	神戸松蔭女子学院大学 図書館サポーターとの交流会開催(社会科学系図書館 LC にて) お互いの活動発表と読書会(テーマ:『私の専攻にまつわる本』)を行う
3月	『The ULiCS Times』第7号を校了。4月初旬から配布・公開予定
3月-	ULiCS 文庫(展示)実施。テーマは6月と10月開催した「ビブリオバトル」紹介本と2月に実施した神戸松蔭女子学院大学との読書会「専攻にまつわる本」での紹介本

上記以外に、図書館グッズの検討、メンバー募集のための新歓ポスターの作成や Twitter による広報を行っている。

ULiCS の活動に関する職員側の対応は、図書館アウトリーチ WG が担当している。

<学生協働関連イベント等への派遣>

前年度に引き続き、他機関開催の学生協働関連イベントへ ULiCS メンバーを派遣した。本年度は第9回大学図書館学生協働交流シンポジウム(9月5~6日、島根大学)にメンバー2名と引率の職員1名で参加し、ポスターセッションにおいて、ULiCS の活動内容について事前に作成したポスターを展示、報告を行った。

<附属図書館マスコットキャラクター「うりこ」LINE スタンプ第2弾>

学生からの投書がきっかけで制作した附属図書館マスコットキャラクター「うりこ」の LINE スタンプ第1弾につづき、第2弾の希望問い合わせが多く、平成30年度4月より販売中。

第1弾、第2弾とも売り上げは安定しており、また購入者の間でも使用がある程度継続されている様である。

今後も、他の活動とも関連させながら活用していきたい。



(うりこ)

<その他の企画>

1. 「まごまご読書倶楽部」

4月24日、会場：鶴甲第一キャンパス LC、テーマ：「平成の名著」

前年に続き、定めたテーマに沿った本や最近読んだ本について等まごまごつらつら話し合う座談会を開催した。気軽に参加できる読書会を催すことで、学内における身分や分野の壁を排したコミュニケーションの場を創造することを目的とした企画であるが、ULiCS が関わることで、学生が関心を持ちやすいテーマ選びに役立っている。まだ職員主導ではあるが、ULiCS の活動としてわかりやすく、学内外に興味を持ってもらいやすい企画として、今後も ULiCS と共に計画、開催したいと思う。

2. 「ビブリオバトル」

6月24日(月) 鶴甲第一キャンパス LC にて (学内限定開催)

10月28日(月) 鶴甲第一キャンパス LC にて (「全国大学ビブリオバトル2019 地区予選」)

初めての試みとして、ULiCS 主催で行った。10月の地区予選では4名のバトラーで戦い、優勝者は12月に行われた地区決戦へ参加した。学外者も参加できるイベント開催を通じ、ULiCS の活動範囲が広がり活動意欲も増したように思う。

3. 神戸松蔭女子学院大学 図書館サポーターとの交流会

2月10日(月) 社会科学系図書館 LC にて

ULiCS 結成後初めての他大学図書館サポーターとの交流会を行った。神戸大学から学生6名、職員

3名、神戸松蔭女子大学から学生8名、職員3名、合計20名が参加、自己紹介、各団体の活動紹介の後、読書会（テーマ『私の専攻にまつわる本』）を行い、それぞれが持ち寄った本のおすすめポイントや学部・専攻の説明等を行った。他大学の図書館サポーターと交流することでお互いに刺激を受け今後の活動を高め合うとても有意義な機会となった。

◆評価と課題

ULiCSは、発足4年目となった。自然科学系図書館に設置された部室を活動拠点として生かすことが今後の目標の一つである。参加学生数の多寡や個々人の忙しさによって、多少の浮き沈みは予想されるが、チームが自発的に活動できるよう引き続きサポートに努めたい。

学生参加型のイベントとして読書会とULiCS文庫（展示）に加え初めての試みであったビブリオバトルを挙げた。ULiCSが図書館の資料を使って企画をすることで、他の学生たちが資料へ興味を持つきっかけとなるよう、他の催しも継続して模索していきたい。

（6）情報リテラシー教育の推進支援

<情報基礎>

- 全学共通教育必修科目「情報基礎」では、平成20年度より1コマ（90分）が「情報の活用」にあてられ、図書館職員が担当している。
本年度は、5月を中心に計23回（補講・再履修を含む）の講義（実習を含む）を行った。
- 担当当初から、情報リテラシー係と各館室のサービス係員を中心に構成される「情報リテラシー教育支援WG」を組織し、WGメンバーで分担して講義を行っている。本年度は、学部新入生全員に補講受講者を加え、2,638人が受講した。
- 授業内容は、図書館ホームページや各種Webサービス、データベースの紹介をはじめ、OPAC・CiNii Booksを使った検索実習の他、資料の引用方法等、初歩的な内容としている。授業途中にベストリーディングを予想するクイズを行うなど、学生が興味を持ちやすい工夫を行っている。
- 講義後の受講生のアンケート結果では、全ての項目で肯定的な選択肢への回答が95%前後となっており、概ね好評であった。
- 講義後の受講生のアンケートや教員からの意見等を踏まえ、次年度に向けて、授業内容やテキスト・課題・理解度テストの再検討を行った。

<初年次セミナー>

- 平成28年度より設けられた各学部専門必修科目「初年次セミナー」において、図書館を活用した授業は以下の通りである。
- 各館サービス係が中心となり、教員の希望に沿った図書館ツアーや検索ガイダンスの計画・実施を担当した。

実施日	内容	回数	人数	場所
4/12, 4/19	国際人間科学部グローバル文化学科 図書館ツアー	9	143	総合・国際文化化学図書館
4/12, 4/19 4/26, 5/10	経済学部 検索ガイダンス・図書館ツアー	8	265	社会科学系図書館
4/15	理学部化学専攻 検索ガイダンス・図書館ツアー	1	32	自然科学系図書館
4/19, 4/26 5/10, 5/17	海事科学部 検索ガイダンス・図書館ツアー	4	193	海事科学分館

4/22, 5/6 5/13, 5/20 6/24	法学部 図書館ツアー	8	174	社会科学系図書館
4/23	経営学部 引用ルール・参考文献の書き方ガイダンス	1	266	鶴甲第一キャンパス教室
4/26	工学部応用化学科 図書館ガイダンス・図書館ツアー	1	111	工学研究科 社会科学系図書館
4/26	国際人間科学部発達コミュニティ 検索ガイダンス・図書館ツアー	1	21	人間科学図書館
5/10	国際人間科学部環境共生学科 図書館ツアー	4	87	総合・国際文化化学図書館
5/10	国際人間科学部子ども教育学科 検索ガイダンス・図書館ツアー	1	51	人間科学図書館
5/17, 5/24	文学部 検索ガイダンス	4	108	人文科学図書館
6/14	工学部応用化学科 図書館ガイダンス・図書館ツアー	1	114	工学研究科 自然科学系図書館
6/24	法学部 図書館ツアー	1	22	社会科学系図書館
合計		44	1,587	

<学術英語スキルアップセミナー>

- 2月7日、附属図書館と大学教育推進機構国際コミュニケーションセンターの共催により、大学院生や若手研究者を対象としたワークショップ「これから英語で研究発表を行う若手研究者のための 学術英語スキルアップセミナー」を開催した。国際コミュニケーションセンターの教員による英語でのプレゼンテーションと論文執筆についての講義の後、論文投稿に役立つツールを図書館職員が紹介した。参加者は48名であった。講義では、参加者がペアを組んで行う実習なども組み込まれた実践的なものであった。アンケート回答には「発音だけでなくリズムの重要性が理解できた」「強調する副詞等文章をふくらませる方法を知ることが出来参考になった。」等の意見が寄せられ、参加者の満足度の高いセミナーとなった。



<ガイダンス等>

- 情報リテラシー係と情報リテラシー教育支援WGメンバーが中心となり、以下のガイダンス等を実施した。
- データベース説明会はベンダーから外部講師を招いて実施した。その他は職員が講師を務めた。
- 4月には、新入生を対象として、各館室で図書館ツアーを集中的に実施した。
- 図書館主催ガイダンスは、6館で実施した。また、教員からの依頼によるオーダーメイド・ガイダンスも多数実施した。
- 実施会場は iMac 端末の設置場所や LC 等とし、参加者が端末操作して実習できるようにしている。

◆ 図書館主催ガイダンス・図書館ツアー(職員講師担当)				
実施日	内容	回数	人数	場所
4月	新入生図書館ツアー	27	141	各館
5/27-28	雑誌論文の探し方	2	9	総合・国際文化化学図書館
	参考文献の書き方・見方	2	5	
6/12	雑誌論文の探し方	1	6	海事科学分館
6/17-18	雑誌論文の探し方	2	23	自然科学系図書館

6/17	参考文献の書き方・見方	1	18	
6/18	EndNote basic 説明会	1	6	
6/19-20	秘書さん・職員さんのための文献の探し方講座	2	8	医学分館
6/24-25	雑誌論文の探し方	2	17	社会科学系図書館
6/24	EndNote basic 説明会	1	5	
6/25	参考文献の書き方・見方	1	11	
10/28-10/29	雑誌論文の探し方	2	15	自然科学系図書館
10/28	参考文献の書き方・見方	1	7	
10/29	EndNote basic 説明会	1	6	
11/5	参考文献の書き方・見方	1	7	社会科学系図書館
11/6	雑誌論文の探し方	1	3	
11/11-11/12	雑誌論文の探し方	2	2	総合・国際文化学図書館
11/2	EndNote basic 説明会	1	2	
11/26	雑誌論文の探し方:医学国内編	1	4	保健科学図書室
	雑誌論文の探し方:医学海外編	1	6	
小計		53	301	
◆ オーダーメイドガイダンス				
実施日	内容	回数	人数	場所
4月-2月	依頼者の希望内容に沿ったガイダンス/ツアー	36	1014	各所
◆ 図書館主催ガイダンス(外部講師)				
実施日	内容	回数	人数	場所
6/10	SciFinder 説明会	1	13	情報基盤センター分館
6/26	海外法・判例データベース「Lexis Advance」	2	4	社会科学系図書館
6/27	企業情報データベース「eol」	2	12	
11/20	図書館職員のための Web of Science 講習会	1	22	六甲台第3学舎
	図書館職員のための JCR/ESI 講習会	1	20	
小計		7	71	
合計		96	1386	
◆ その他(職員派遣)				
実施日	内容	回数	人数	場所
4月	オリエンテーション等	7	1170	各所

<パスファインダー-KULiP>

- 平成 25 年度より、図書館による学修支援の一環として KULiP (Kobe University Library Pathfinder)を運用している。授業シラバスに沿った指定書や、授業内容に関連した資料を担当教員のコメント付きで紹介する「授業資料ガイド」に、「資料/情報の探し方ガイド」「セルフラーニング(セミナー・ガイダンス等配布資料)」を加え、総合的パスファインダーとして発展させてきた。本年度は授業資料ガイドを 26 件作成(累計 60 件)した。また、セルフラーニング資料を 2 件作成(累計 27 件)した。

<レファレンスカウンター>

- ・ 平成 29 年 7 月より総合・国際文化学図書館のカウンター横にレファレンスカウンターを設置し、休み時間（1・2 限間、3・4 限間、昼休み）に情報リテラシー係が対応している。問い合わせ内容は、教育用端末・教育用プリンターや無線 LAN に関するものが全体の約 3 分の 1 と最も多く、次いで、探している図書が見つからない、希望する資料を本学が所蔵しているか知りたいといった学内所在調査に関するもの、図書館サービスや館内設備に関する問い合わせの順であった。
- ・ 問合せの多いパソコンやプリンターに関する質問については「よくある質問 Q&A」を作成し、利用者が自由に持ち帰れるよう、レファレンスカウンター横などに配架している。
- ・ 質問と回答の内容は、サービス担当者で情報共有を図っている。

<広報>

- ・ ガイダンスやイベントの情報は、ポスター、チラシ、図書館や大学ホームページのお知らせ、ツイッターなど、さまざまな媒体を通じ、広く発信することを心掛けている。
- ・ 平成 27 年度より運用を開始した公式ツイッターでは、速報性を重視するとともに、各館のユニークな発信を心がけている。とくに災害による臨時閉館やシステム停止など速報性が重要視される告知において重要なツールとなっている。

◆評価と課題

16 年目に入った必修科目「情報基礎」は、図書館にとって、大学教育に直接的な貢献ができるだけでなく、図書館利用者の教育という面でも大きな効果を得ている。授業の課題は、「テーマに従って検索した図書を実際に図書館で探す」という実践的な内容として、授業内容の定着を図ると共に学生が図書館に足を運ぶ機会となっている。レポート執筆等のために図書館の利用が必要と感じている学生が多いのか、授業後のアンケートでは良好な反応が多数みられる。また、授業内容も、学生の理解度を増すとともに、授業中の注意力が散漫にならないよう工夫し、絶えず改善を施す努力を続けている。

「初年次セミナー」は 4 年目となり、授業で図書館を活用できることが教員に認知されつつある。授業後に担当教員に実施したアンケートでは、図書館担当授業が受講した学生にとって有意義だと思ったとの回答が約 9 割となり、多くの教員が図書館での初年次セミナー実施の有用性を感じていることが窺われる。「情報基礎」と共に、新入生が図書館利用法を学ぶ貴重な機会となっており、さらに多くの授業へ拡充していくよう教員への広報に努めたい。

図書館主催ガイダンスは、参加人数が増加した。これは、前年度、地震や豪雨等の自然災害によるガイダンス中止等で減少した参加者数が回復したものと思われる。さらに多くの学生の参加を促すため、内容の見直しや広報の工夫、学生の授業日程を踏まえた開催時期・曜日・時間等の検討が常に必要である。

オーダーメイド・ガイダンス/ツアーは、学科・専修単位で毎年実施している例もあり、専門分野における情報リテラシー教育支援の一例として、今後も継続していく意義がある。また、オーダーメイド・ガイダンスでは、依頼者が所属する学部・研究科のサポート館職員ができるだけ講師を担当するようにしており、職員の教育能力向上に資する機会ともなっている。教員への広報を工夫し、広く活用してもらえよう努めたい。

パスファインダー「KULiP」の「授業資料ガイド」については、参加授業数は前年度から減少した。これは新規の参加授業数が前年度より少なかったため、教員に対する更なる周知が必要である。

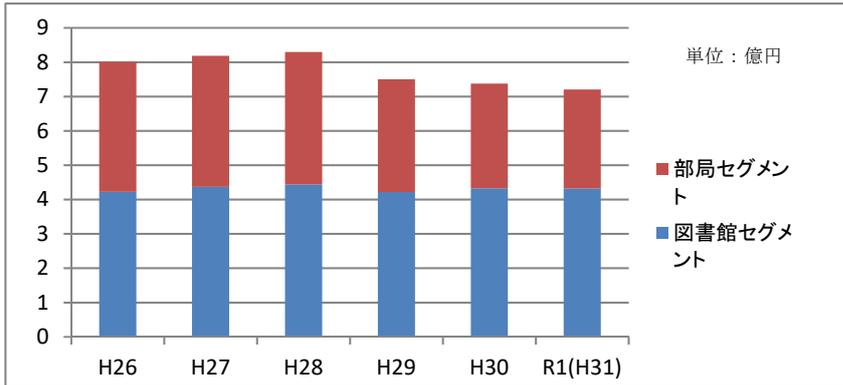
3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は<付録>基本統計表のとおりである。

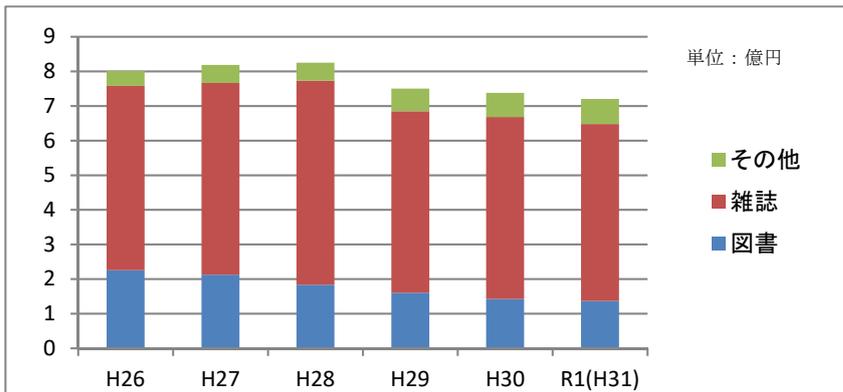
<資料受入状況>

(図 1) <資料費経年推移>



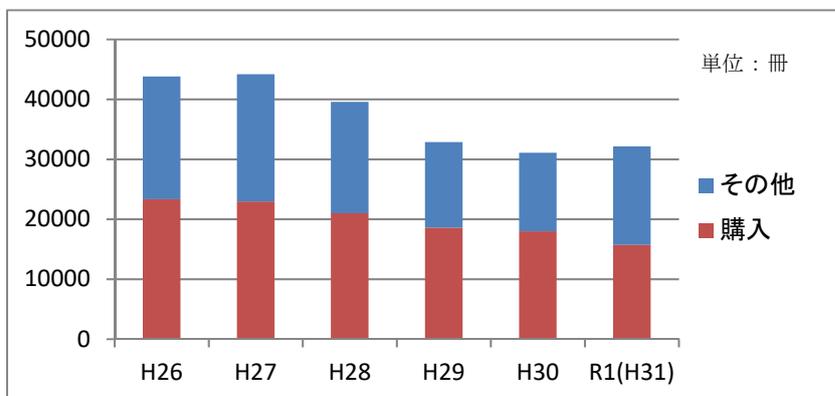
* 教育研究基盤資料整備費は
図書館セグメントに含む

(図 2) <資料費の用途別内訳推移>



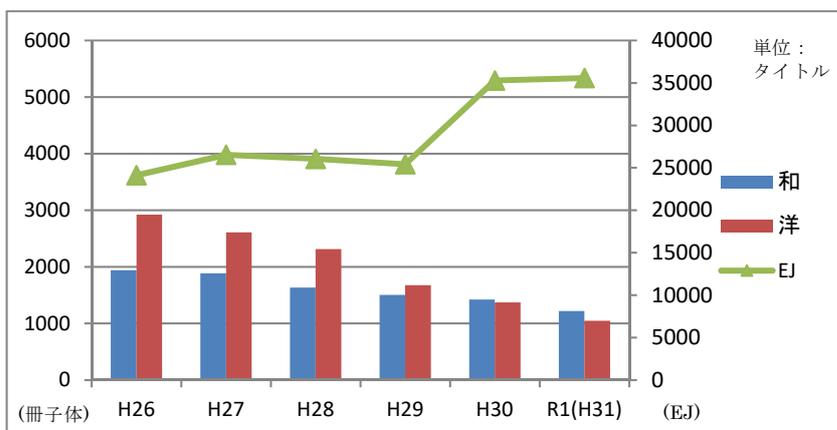
* 電子ジャーナル等は
雑誌として計上

(図 3) <受入図書冊数経年推移>



* 「購入」は一般財源のみ、
科研費等は「その他」とした

(図 4) <購入雑誌数経年推移>

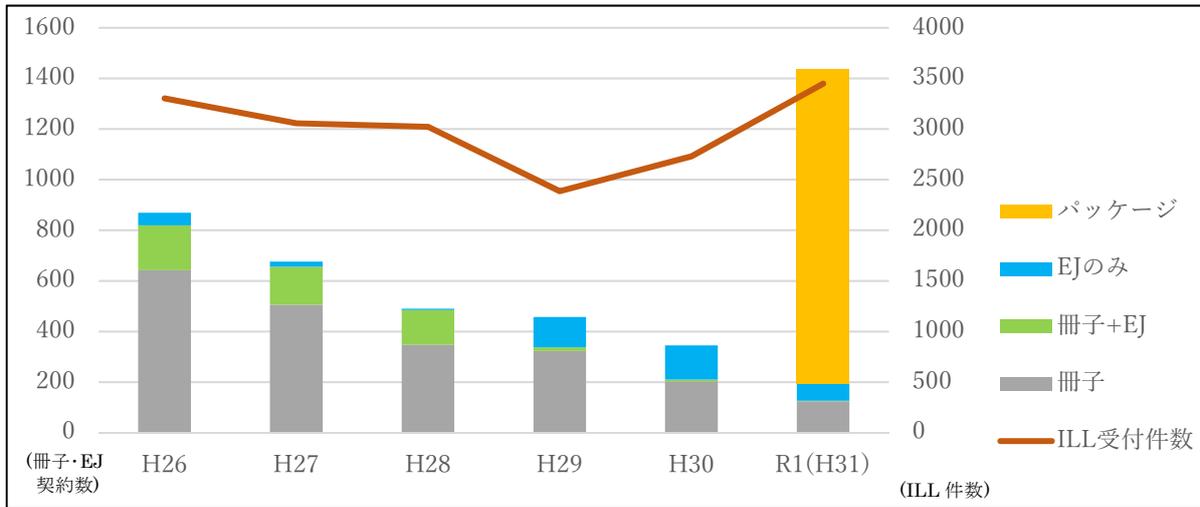


- 資料費において、電子ジャーナル・データベース等の提供維持のための経費である「教育研究基盤資料整備費」を含む図書館セグメント分は平成 30 年度の約 4.32 億円を維持した。これは平成 26 年度比で約 0.1 億円増である。部局セグメント分は平成 30 年度比で約 0.17 億円減少し、約 2.88 億円である。各部局予算による資料購入は平成 26 年度比で約 0.9 億円減少した。(図 1)
- 用途別では、図書が平成 26 年度比で約 0.89 億円減少し、雑誌(教育研究基盤資料を含む)が約 0.21 億円減少した。本年度の大学全体の資料費は約 7.2 億円まで減少した。(図 2)
- 年間の受入図書冊数は図書購入費に比例し平成 26 年度比で約 7,600 冊減少した。また製本予算の縮減も影響して年間 4 万冊以上あった総受入図書冊数は 3.2 万冊となった。(図 3)
- 部局予算の縮減に伴い、雑誌(冊子)購入タイトル数は減少を続けている。和雑誌は平成 26 年度比で約 37%減、洋雑誌は同じく約 64%減となった。一方、電子ジャーナルタイトル数は平成 26 年度比で約 47%増の約 3.6 万タイトルである。(図 4)

<外国雑誌センター館>

- 昭和 61 年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が 3 館以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している(配架は社会科学系図書館)。分野別の外国雑誌センター館は全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学で分担収集を行っている。
- 平成 20 年度の外国雑誌センター館会議で、従来の冊子に加え電子ジャーナルもセンター館誌として収集の対象とすることが確認された。
- 本年度の外国雑誌センター予算は、平成 30 年度附属図書館予算の約 1 割の確保を目標とし、27,000 千円(平成 30 年度より 2,000 千円減)を確保した。
- 本年度からは、国内で導入実績の少ない人文・社会科学系の電子ジャーナルパッケージ(SAGE, EMERALD, CAIRN)について、外国雑誌センター予算からの経費負担を増やしてパッケージ購読を維持することとした。一方で、個別契約の雑誌のうち主に利用の少ない約 150 誌を中止することで経費の削減を図った。
- ILL 複写サービスについては、他機関からの複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。

＜冊子体・EJ 契約点数（外国雑誌センター）と ILL 受付件数（社会科学系）の推移＞



◆評価と課題

第3期中期計画後半(令和元～3年度)の教育研究基盤資料整備費全体について、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向を平成30年5月の部局長会議で承認を得た。その承認に基づき本年度は、「教育研究基盤資料整備費」3.63億円(決算ベース)が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成26年度の予算規模を維持することができた。しかしながら、海外電子配信への消費税増税や電子ジャーナルパッケージの価格上昇等により所要額が上昇の一途をたどっている。今後は、第4期中期計画前半(令和4～6年度)の教育研究基盤資料整備費による整備方針の検討が課題である。

図書資料費を含む附属図書館運営経費は平成28年度、平成29年度の2年連続で大幅な減額となったが、平成30年度は平成29年度並みの予算であった。しかし本年度については、平成30年度より約430万円減(1.6%減)の予算となった。これら附属図書館予算の減額により、図書資料費の確保が困難となっている。附属図書館運営経費の縮減は新たに提供できる資料が減少を続ける要因となっている。更に大学全体の予算が厳しくなっている事から、ILL等の収入確保が課題である。

外国雑誌センター予算については、平成30年度附属図書館予算の約1割を確保した。本年度予算は平成30年度より2,000千円減となったが、パッケージの内容及び経費負担割合の見直しを行うと共に個別契約の見直しも進め、資料の利便性の向上と経費削減を図った。外国雑誌センター館の責務として国立情報学研究所目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に所蔵情報を提供し、全国からの利用に対応する体制をとっている。

(2) 電子的情報基盤の整備

＜外国雑誌と電子ジャーナル＞

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
ScienceDirect (Elsevier)	全分野	H14	2,300	1995～	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション(うち約2,000誌は創刊号から)
SpringerLINK	多分野	H14	1,600	2000～	主要部分は創刊号から

(Springer Nature)					
Wiley Online Library (Wiley)	多分野	H14	1,400	1997 前後～	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
JSTOR	自然科学及び社会科学	H14	1,500	創刊号～(最近3～5年は対象外)	Arts & Sciences I (H14～) Arts & Sciences II (H17～) Arts & Sciences III (H19.3～) Arts & Sciences IV (H18.3～) Arts & Sciences V (H23.1～) Arts & Sciences VI (H23.1～) Arts & Sciences VII (H21.4～) Arts & Sciences VIII (H23.1～) Arts & Sciences IX (H23.1～) Life Sciences (H15～) Business III (H23.1～)
Nature および関連誌	自然科学	H15	27	創刊号～	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	1997～	
APS	物理系	H16	10	創刊号～	米国物理学会
Cell Press	生命科学	H16	9	1995～	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	11	1996～	パッケージ購読は 2015 年度まで
ACS	化学系	H16	56	創刊号～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	260	1996～	2014 年時点のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
Cambridge University Press	多分野	H18	400	1997～	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
AAS Historical Periodicals Collection	多分野	H29	4,000	1684～1912	アメリカ古書協会
Academic OneFile	多分野	H30	9,300		
Cairn.info	社会科学 人文科学	H30	480	2001～	フランス語の学術雑誌

その他、単体で購読しているもの等も加えて、本年度末における電子ジャーナル購読数は 35,579 タイトルとなっており、平成 30 年度 (35,287 タイトル) の規模を維持している。

各電子ジャーナルの利用状況は「電子的情報サービスの現況 (R01 年度)」のとおりであり、総体として非常によく利用されている。

本年度における電子ジャーナル等の提供内容は次のとおりである。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約

大手 5 社 (Elsevier、Wiley、Springer Nature(Springer Link)、Oxford University Press、Cambridge University Press) 発行のものについては、基本的に各社発行電子ジャーナルの多くのタイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約を行っている。

(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

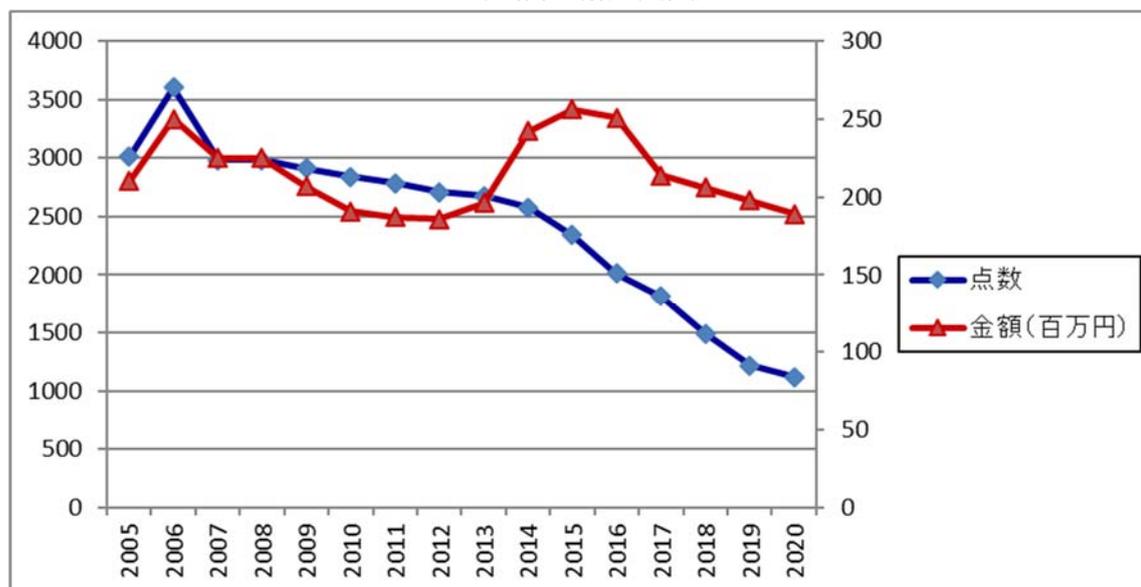
冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、教育研究基盤資料整備費から、当該雑誌購読所要額の 10%を補填している。

2020 年外国雑誌の契約は、点数・契約金額とも前年よりも減少している。

2019 年契約点数 1,218 点 → 2020 年 1,117 点 (8.3%減)

2019 契約金額 約 198 百万円 → 2020 年 約 189 百万円 (4.3%減)

＜外国雑誌購読数推移＞



＜データベースの整備＞

主な導入データベースは次のとおりである。(全てウェブアクセス)

	分野	導入年	範囲	備考
Web of Science Core Collection	全分野	H15	1900～	H15 SCIE 導入 H21 SSCI, AHCI 追加 H22 バックファイル追加 H29 Citation Connection 追加
Journal Citation Reports	全分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940～	
SciFinder Academic	化学	H16	1840～	利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	H18.4 より Web 版に変更 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969～	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	同上 同時アクセス 1
Business Source Premier	経営学	H22		
PsycINFO	心理学	H22		
PsycARTICLES	心理学	H22		
CINAHL	看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis Advance	法学	H22		利用申請が必要
Westlaw International	法学	H22		
OECD iLibrary	多分野	H22		H22 に「Source OECD」より名称変更
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5～	同時アクセス 1

日経テレコン 21	新聞記事等	H18	1975～	H19.7より全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 5 H28 からアクセス数 1 追加
*ざっさくプラス	国内雑誌記事	H26	1867～	同時アクセス 1 H28 MAGAZINEPLUS から切替
*JDreamIII	科学技術・ 医学・薬学	H19		同時アクセス 10 H25 JDreamII から変更
*聞蔵 II ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1879～	同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874～	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872～	H23「毎日 News パック」より名 称変更 同時アクセス 2
*ナクソス・ミュージックライブラリー	音楽	H26		同時アクセス 5

- ・タイトル先頭に*を付したものは「e-study 資料費」により契約している。
- ・各データベースの利用状況は「電子的情報サービスの現況 (R01 年度)」のとおりである。

<電子ブックの整備>

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである。(全てウェブアクセス)。利用可能な総冊数は本年度末現在で約 4 万冊である。

	分野	購入年度	タイトル数
*Elsevier Handbooks in Economics	経済学	H20-(継続)	30
*Emerald Business, Management and Economics eBook Series Collection	経営学、経済学	H21-	450
LWW Doody's Core Collection	医学	H21	129
**NetLibrary: ネットライブラリー	多種	H22-(随時)	750
**Oxford Handbooks Online	経営学、哲学、政治学、 宗教学、言語学	H22 ,H27	146
ScienceDirect レファレンスワークス	多分野	H23	21
*Springer eBooks	数学、経営学、社会科学	H17-	5000
*群書類従(正・続・続々)	国文学、国史	H27	

注) *部局予算による購入

**部局予算による購入分を含む

◆評価と課題

電子ジャーナルおよびデータベースは研究者(大学院生を含む)にとって、今や必要不可欠な学術情報基盤である。神戸大学では平成 17 年度および平成 20 年度に出された 2 つの附属図書館審議会答申に基づき電子資料に関わる基盤整備を行ってきている。しかしながら平成 25 年から始まった急激な円安により、平成 28 年度～平成 30 年度の今期中期計画前半は、従来半額補填を行っていた特定主題に係る電子ジャーナル・データベースの補填率を 35%に引き下げ、20%補填を行っていた冊子体購読雑誌も 15%に引き下げた。これを機に部局負担に耐えられなくなったタイトル等は中止となった。

令和元年度～令和 3 年度の今期中期計画後半における教育研究基盤資料整備費のあり方については、附属図書館運営委員会で今後の方針が検討され、購読内容は平成 30 年までの購読電子ジャーナル・データベースに基づき、それらの拠出経費を確保するため、冊子体購読雑誌への補填を段階的に縮小し令和 3 年度には廃止すること、また利用状況により購読内容を見直すこととし、部局長会議(平成 30 年 5 月)にて承認を得た。

令和4年度以降の次期中期計画期間においては、購読価格の上昇により、現在の購読内容の維持が困難となることが予想されるので、新たなスキームの構築に取り組む必要がある。また国際的には、従来のアクセスを確保するため購読料を負担するモデルから、出版費用を拠出し論文をオープンアクセスとするモデルへ転換を図る動きが現れており、このような動きにも注意が必要である。

電子ブックについては、海外図書館と比べると、国内図書館において普及が全般的に遅れているのが現状であり、本学においては図書館予算より部局予算による購入が中心である。しかし国内出版物の電子版も徐々に増えつつあり、学術書においても一部の出版社で前向きな動きがみられる。今後の電子ブック出版の動向には注意が必要である。

(3) 蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- 目録遡及入力は平成4年度から事業を開始、学内予算措置や外部資金を得て、第2期中期計画最終年度の平成27年度に全蔵書のうち館室配置図書の入力を完了した。その後も第2期中期計画の遡及入力事業対象外であった資料群の所蔵データ入力に努めている。平成30年度末で蔵書数約378万冊のうち約326万冊の所蔵データを入力、全蔵書の約86%がOPACで検索できるようになった。残る未入力冊数は約52万冊で全蔵書の約14%にあたる。未入力冊数のうち、約28万冊(約54%)が製本雑誌、約15万冊(約28%)を研究室所蔵の未登録資料が占める。残る約9万冊(約17%)の大半は特殊資料であり、特殊資料については平成28年度から計画的な入力を行っている。主な資料群は「和古書」「漢籍」「洋古書」「マイクロ資料」等である。特に和古書は、拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。
- 本年度の計画
本年度は、継続して登録作業を行っている社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫(和古書)と洋古書、人文科学図書館所蔵の和古書と漢籍、人間科学図書館所蔵の和古書について入力を計画した。
- 本年度実績 17,527冊

研究室戻り、製本雑誌等		各館室	14,212冊
特殊資料	マイクロフィルム	社会科学系図書館	16点
	和古書	社会科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館	1,911冊
	漢籍	人文科学図書館	721冊
	洋古書	社会科学系図書館	667冊

◆評価と課題

本年度は計画通り、社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫(和古書)と洋古書、人文科学図書館所蔵の和古書と漢籍、人間科学図書館所蔵の和古書を入力した。今回入力した和古書のうち、多く

の資料が新たに国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業の電子化対象となった。また、製本雑誌の入力に力を入れた館があり、研究室所蔵の未登録資料を返却時にデータ入力した数と合わせて、前年度とほぼ同じ冊数を登録した。

令和元年度末で蔵書数約 379 万冊のうち約 328 万冊の所蔵データが入力済みとなり、全蔵書の約 87%が OPAC で検索できるようになっている。残る未入力冊数は約 50 万冊である。

特殊資料は入力に専門知識の習得が不可欠であるが、研究上重要な資料が多数ある。今後も未登録データ入力によって一層の利用者へのサービス向上、図書管理業務の効率化が期待される。

(4) 資料の保存

<資料保存における問題と対策>

- ・前年度の台風に伴う豪雨と酷暑のため湿気と高温によるカビの発生に見舞われたことを踏まえ、全館室のカビ発生状況と除湿器の設置について調査を行った。
- ・カビが発生している館について、除湿器とサーキュレーターの設定やロスナイ点検など対策経費について理事に相談するなど対応に努め、社会科学系図書館書庫に除湿器 2 台と人間科学図書館に除湿器 3 台を設置及び社会科学系図書館マイクロ室の除湿器を修理した。
- ・社会科学系図書館書庫 A 棟・B 棟外壁改修工事、海事科学分館外壁改修工事が実施され、大雨による水漏れ被害等が改善された。
- ・全館室の棚数調査を実施し資料収容力の把握に努め、令和元年度第 2 回附属図書館運営委員会（令和元年 11 月 28 日開催）にて報告を行った。狭隘化の逼迫度の高い館もあり、全体の平均で棚使用率が約 90%となり年間増加冊数を考えると約 10 年後には 100%となる見込み。書庫の増築が望まれる。除籍基準の見直しなど具体的な対応の検討も必要。
- ・拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築準備関連の修復については「4. 社会連携・情報発信」の「(3) 電子図書館システムによる情報発信」に記載。

◆評価と課題

本年度は前年度の台風に伴う雨漏りなどの被害が多数見受けられたことを踏まえ、資料保存の観点から除湿器などの設置状況について現状調査を行い 2 館（社会科学系図書館、人間科学図書館）について対応した。書庫や開架室の外壁改修工事が実施され資料保存環境の改善がされた。全館室の棚数調査を実施し運営委員会にて報告をした。書架スペースの狭隘化は進んでおり、書庫の増築要求に加え、除籍基準の見直しなど対策を検討し、資料の適切な保存、書庫環境の改善など今後も努めていく必要がある。併せて、国立大学図書館協会等による全国的な資料の分担保存の動きについても注視していく。

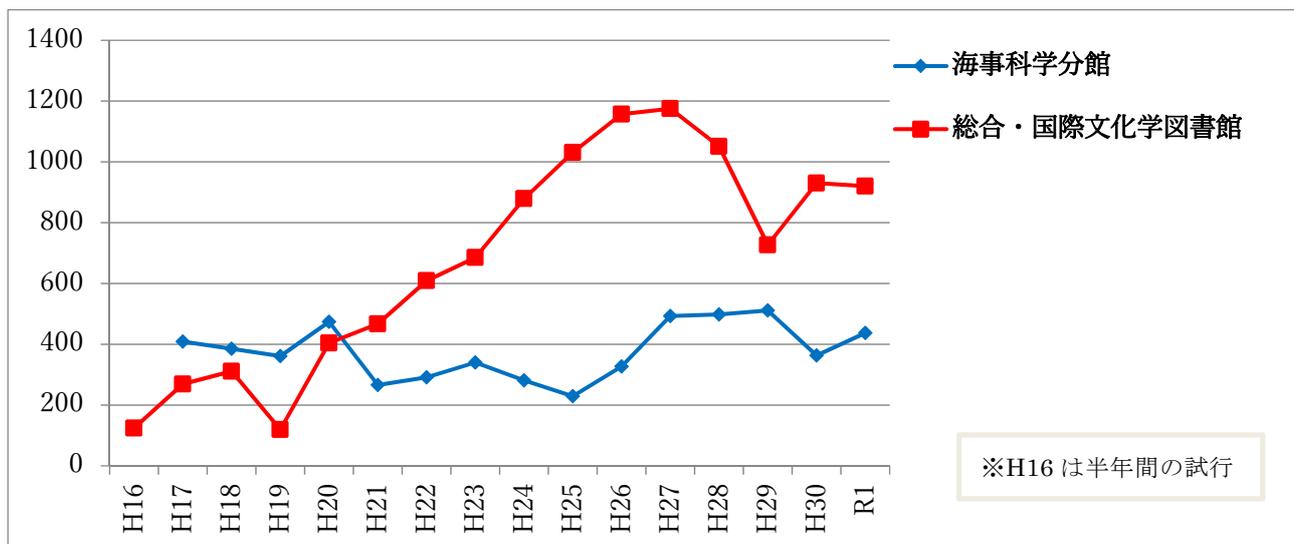
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

<一般市民の図書館利用>

- ・総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。本年度の利用登録者数は 228 名で、前年度より 18 名増加した。
貸出冊数は総合・国際文化学図書館で前年度と比べて 1%減の 920 冊になった。海事科学分館では 20%増の 437 冊になった。

<貸出冊数の推移>



<展示会の開催>

・資料展「阪神・淡路大震災 25年 あのとときとこれから」

会期 令和元年10月11日(金)～令和2年2月4日(火)

会場 社会科学系図書館 2階 展示ホール

時間 月～金曜日 8:45～21:30 (ただし1/17は17:00閉館)

土・日・祝日 10:00～19:00

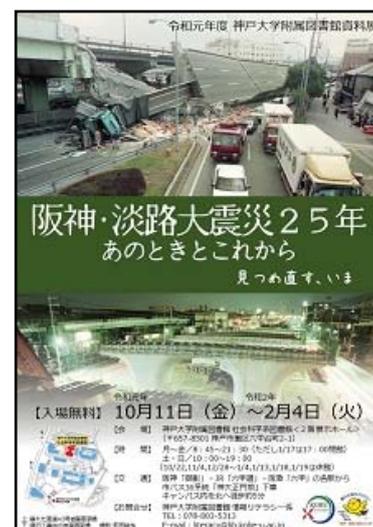
(10/22,11/4,12/28～1/4,1/13,1/18,1/19は休館)

内容 阪神・淡路大震災から25年の節目を迎えるにあたり、関連資料を収集・公開している本学「震災文庫」の所蔵資料を通して、「あのとときとこれから」をテーマに当時の被害状況や震災の経験と教訓を紹介した。

それぞれに以下のサブテーマを付して、資料と説明のパネルを展示した。

- 1) 写真とデータでみる震災
- 2) 次の世代に伝えるために
- 3) 震災に学び、備える

- ・平成27年度以降、阪神・淡路大震災の発生した1月17日にあわせ、平成26年度の資料展「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災20年～」のリバイバル展示を中心に震災関連の展示を開催してきたが、本年度は資料展の会期を、1月17日を含むよう2月初めまで設定して実施した。
- ・学内各部署、及び近隣の地方自治体・公共図書館・大学図書館等へチラシ、ポスターを送付して広報した。加えて今年度初の試みとして、近隣(灘区、東灘区、中央区)の中学校校宛の広報に、団体見学の案内を同封した。結果、1月に1校(神港学園高校の図書部員9名と引率2名)の見学があった。
- ・図書館ホームページで展示品目録や紹介した記事のリストを公開している。
- ・会期中の10月26日(土)に開催の「神戸大学ホームカミングデー」では、職員による館内案内と展示案内を実施した。また11月9日(土)・10日(土)開催の大学祭「六甲祭」に合わせ、そのパンフレットに資料展の開催情報を掲載した。
- ・人文学研究科の授業「博物館資料保存論」での見学を受け入れ、職員が展示内容を説明した。また



基礎教養科目「地理学」授業で資料展の見学が課題に指定された。

- ・ 会場は通路部分であるため、正確な来場者数をカウントすることはできないが、開催期間中に社会科学系図書館に来館した利用者の多くが資料展を観覧したと思われる。
- ・ アンケート回収数は437件（会場で回収は92件、上記授業の見学学生から345件）で、多数の回答が寄せられた。88%が内容をよかったと評価しており、自由記述の内容も概ね好意的であった。

<学内巡回展の開催>

- ・ 平成30年度資料展「古典籍さまざま ～近世の出版物より～」の学内巡回展を、以下のとおり開催した。
- ・ **会場：総合・国際文化学図書館**
会期 平成31年4月5日（金）～4月26日（金） ※会期中展示替えを実施
第1期「庶民の教養と娯楽」
前半：4月5日（月）～13日（土） 後半：4月15日（月）～18日（木）
第2期「サイエンス事始」 4月19日（金）～26日（金）
時間 月～金曜日 8：45～21：30 土曜日 10：00～18：00
内容 平成30年度資料展を、総合・国際文化学図書館所蔵の9点を中心に、説明パネル全点を加えた内容で、展示替えの実施も含め再構成して実施した。展示するページを変更することで点数の少なさを補い、その様子を附属図書館公式ツイッターで広報して関心の向上につとめた。
- ・ なお、本年度資料展の学内巡回展（パネル展）を、神戸大学海事博物館で3月中旬から4月の会期中で予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止措置として海事博物館が休館となったため、実施延期となった。

<その他の展示、及び他組織主催の展示の受入>

- ・ 阪神・淡路大震災の発生した1月17日にあわせ、本学人文学研究科地域連携センター主催で、学生による震災資料展『草の根市民メディアからの発信－「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災』を社会科学系図書館本館2階に併設した。文学部授業「日本現代史演習」の一環として、学生6名が震災資料の調査・研究を行い、資料を選定し解説を作成したものである。（会期：令和2年1月16日（木）～2月4日（火））
- ・ 海事博物館や人文学研究科と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の一環として、以下の展示を社会科学系図書館展示ホールにて受入れた。
海事巡回展「和船の活躍した時代」（主催：海事博物館、会期：平成31年3月8日（金）～令和元年5月10日（金）、令和2年3月13日（金）～4月8日（水）※当初4月30日までだったが4月9日以降は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い閉館）
神戸大学史・巡回展「新制「神戸大学」の誕生－新制大学発足70周年記念－（主催：大学文書史料室、会期：令和2年2月7日（金）～3月9日（月））
- ・ 本学附属学校部からの依頼で、「附属学校部10周年記念パネル展示」を、5月11日（土）に本学六甲台講堂で開催した記念式典に合わせ、社会科学系図書館展示ホールにて受入れた。（主催：附属学校部、会期：令和元年5月11日（土）～7月30日（火））



◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービス開始以来、総合・国際文化学図書館では平成19年度に改修工事

の影響で一時的に貸出数は落ち込んだもののその後は増加を続け、平成 28 年度からは減少傾向にあったが、前年度からは回復の兆しがありほぼ横這いとなっている。一方、海事科学分館では平成 21 年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少しその後はほぼ横這い状態が続き、平成 27 年度から増加傾向にあり平成 29 年度は過去最高の貸出冊数となり、前年度は減少へと転じたが本年度は再び大幅に増加した。館室・年度によって増減はあるが、全体として地域社会への貢献活動のひとつとして定着していると評価できる。

資料展については、第 3 期中期目標・中期計画において、社会及び地域への貢献の一環として資料展の開催が位置付けられており、その充実が重要となっている。本年度の資料展は、阪神・淡路大震災から 25 年ということでこれをテーマにしたため、読売新聞（11 月 23 日朝刊地方版）、神戸新聞（12 月 12 日夕刊）、NHK 神戸放送局（12 月 17 日夕方「Live Love ひょうご」、以降ニュースで複数回放送）、朝日放送（1 月 18 日「おはよう朝日土曜日です」震災特集）といった形で、年末年始を中心にメディアで複数取り上げられた。回収した 437 枚のアンケート結果においても、88%が内容をよかったと評価している。また感想の内容にも「被災者の一人として記憶を新たにすることができた」「自分が知らないことばかりで、多くのことを学べた」といった、開催にあたり掲げた「被害状況や震災の経験と教訓を紹介する」という展示の狙いに合致したものが多く、「震災 25 年」の展示として成果をおさめたと判断してよいと考える。新たな試みである近隣の中学高校への団体見学受入の広報は、実施は 1 校にとどまったが参加者からは非常に好評であった。他組織主催の展示も前年度に続き多数受け入れ、展示ホールは高い稼働率を維持しており、展示を通じた地域・社会貢献を推進できた。

（２）震災文庫

＜資料収集と一般公開＞

- 引き続き、様々なチャンネルからの情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動に努めた。1,304 件（前年度は 1,230 件）を収集し、資料所蔵総数は 6 万件を超えた。

	全件数 (タイトル数)	R1(H31) 新着		全件数 (タイトル数)	R1(H31) 新着
図書資料	8,502(7,457)	108(99)	地図資料	141(135)	0(0)
雑誌資料	14,041(3,409)	51(6)	動画資料	329(273)	4(3)
新聞・広報誌資料	23,457(11,497)	872(845)	音声資料	109(89)	0(0)
パンフレット資料	6,599(6,427)	176(171)	コンピュータ資料	98(92)	0(-1)
一枚もの資料	7,196(7,189)	94(94)	www	10(4)	0(0)
写真資料	113(95)	-1(-1)	総合計	60,595(36,667)	1,304(1,216)

注) 雑誌等の各号を 1 冊ずつ数えた数が「件」、同一タイトルを 1 と数えたのが「タイトル」。

写真資料はコレクション単位（概ね撮影者単位）を 1 としているため件数が少ないが、写真 2 万枚強のコレクションも含まれている。

＜震災デジタルアーカイブ＞

- 震災文庫で電子化済の図書資料 456 件を CiNii books から利用できるよう、ERDB-JP での登録を行った。
- 資料全体のタイトル等だけでなく掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なデータを継続的に作成している。本年度は 3,088 件を入力し、その結果、データベースのレコード総数は 29 万 9 千を超えた。

- ・ 著作権の許諾が得られた資料 74 点をデジタル化公開した。
- ・ 各機関から、防災に関する展示や阪神淡路大震災関連のテレビ放映等のための転載許可願が写真を中心に 20 件（前年度 10 件）あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 平成 21 年 1 月より開始した人と防災未来センターと震災文庫の「震災資料横断検索」は兵庫県立図書館を加えて 3 機関での横断検索を継続中であり、データ受領時に更新を行った。（人と防災未来センター：4,8,11,2 月、兵庫県立図書館：7,11,2 月）
- ・ 平成 24 年 10 月に連携を開始した「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」に継続してデータを提供している。

<震災文庫の活動>

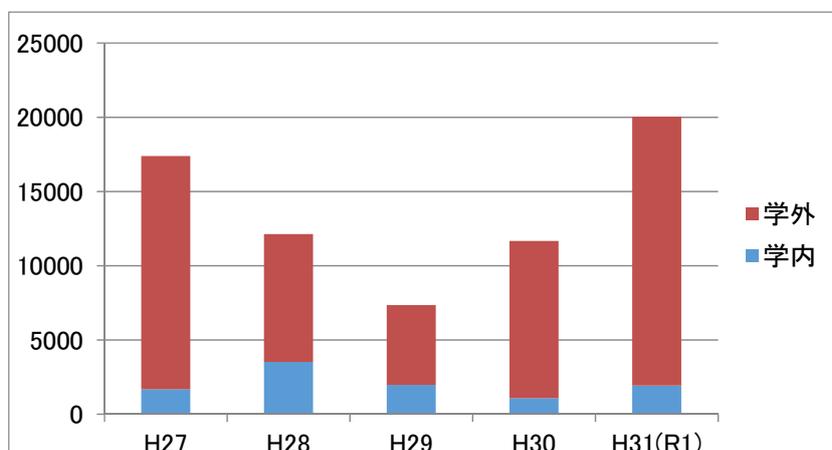
- ・ 計 7 回の見学・取材があり、電子図書館係にて対応した。うち 2 件はテレビ放送局による取材であり、震災文庫の取り組みや資料展の様子が放映された。
- ・ 総合教養科目の「阪神・淡路大震災 A・B」にて、274 名の学生を対象に震災文庫に関する説明を行った。
- ・ 神港学園高校の図書部員一行が、資料展の見学とあわせて震災文庫を見学し、電子図書館係より説明を行った。
- ・ 令和 2 年 1 月 31 日に、「第 9 回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を人文学研究科と協力して開催し、会には計 39 名が参加した。

◆評価と課題

本年度は、被災後 25 年の節目の年として阪神・淡路大震災をテーマとした資料展を開催し、メディアの取材も受けた影響もあってか、例年より多くの来館者があった。そのほか電子化済の図書の ERDB-JP への登録や、総合教養科目で学生向けに震災文庫の説明を行う等、利用促進や周知の取り組みを広げることができた。

課題として、さらなる活用促進のための活動の実施のほか、運用方針の見直しが挙げられる。これまで震災文庫では、一般公開できる資料のみを収集対象としてきたが、本年度は数件、過去の研究資料や当時活動していた組織での所蔵資料などの寄贈の相談が寄せられた。それらの資料を適切な形で活用できるように震災文庫としては何ができるか、検討していきたい。また、前年度覚書を締結したハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所「日本災害 DIGITAL アーカイブ」とのシステム連携については、本年度中には開始に至らなかったが、引き続き調整を進めていく。

<震災文庫トップページアクセス数経年推移>



※H28.9 図書館システムリプレイス

(3) 電子図書館システムによる情報発信

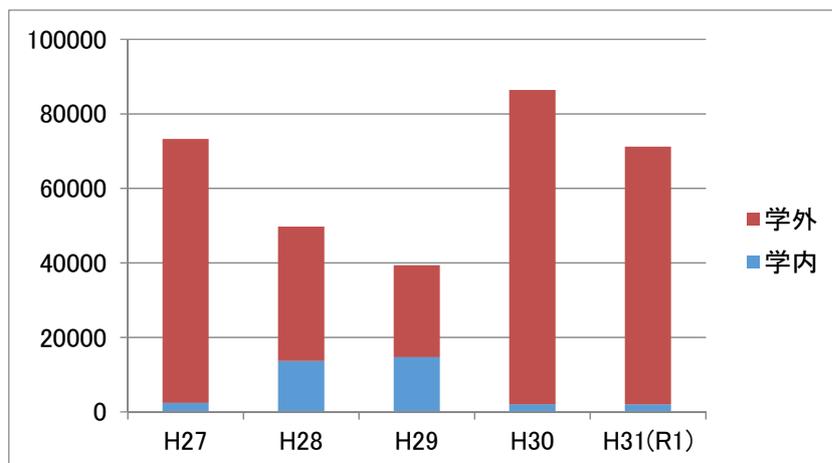
<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築・運用>

- ・ 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費（平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25,27,28,30 年度 戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。
- ・ コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。
- ・ 拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築のため、住田文庫を含む各館古典籍 401 点（1,237 冊）の電子化を行った。電子化に先立っては計 8 冊の古典籍の修復を実施した（修復費用の一部は国文学研究資料館から補助を受けた）。電子化した画像は「新日本古典籍総合データベース」より順次公開される予定である。
- ・ 平成 31 年 1 月より、一部のコレクション（本年度末時点で 18 コレクションが対象）の画像については、従来必要だった申請手続を廃して、自由に二次利用可能とした。これらについては利用時の報告を任意で依頼しており、本年度 13 件の報告があった。それ以外にも、各機関から転載申請が 18 件あり、許諾回答した。
- ・ 令和 2 年の Flash サポート終了に向け、Flash を使用するコレクションのうち 3 件は、Flash を使用しない形への変換を内製にて実施した。

<経済関係資料デジタル化>

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、科学研究費補助金研究成果公開促進費が不採択となったため、電子図書館事業経費により、保存用画像作成（15,122 コマ）および作成済保存用画像からの公開用画像作成（10,383 コマ）を進めた。本年度からは学内での作業体制を拡充し、作成したデータの公開に向けて準備中である（公開済記事件数：約 31 万 1 千記事）。なお、平成 29 年度の作成分から、全文テキスト化よりも、画像・インデックスデータの作成を優先して進めている。
- ・ 平成 24 年 5 月より当文庫データベースの「活用事例集」ページを HP 上で公開し、また活用事例を Twitter で紹介するなど、より一層の普及と有効活用の支援を図っている。
- ・ 平成 24 年 1 月より公開された「国立国会図書館サーチ（NDL Search）」とは、前身のデジタルアーカイブポータル（PORTA）に引き続いて連携を行っている。
- ・ 住田文庫デジタルアーカイブにて、国文学研究資料館「近代書誌・近代画像データベース」で公開中の 313 点分の画像を追加公開した。
- ・ 住田文庫デジタルアーカイブにて、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で平成 30 年度までに電子化した 120 点分（9,635 枚）の画像を追加公開した。（うち 61 点の電子化画像公開画面に計 260 件のアクセスがあった。（令和 2 年 3 月末現在））
- ・ 電子化済の『大阪商工新聞』（490 号分）の公開を完了した。

<新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移>



※H28.9 図書館システムリブレース

<学内研究成果資料デジタル化>

- ・ 機関リポジトリは開設 14 年目となり、令和 2 年 3 月末現在 30,723 件（前年度末 27,872 件）の学術成果を一般公開している。詳細は次項に述べる。
- ・ キク科の染色体数データベース（渡邊邦秋名誉教授作成）のデータ更新を続けている。更新頻度は月 1 回、本年度のレコード増加数は 9,945 件で、累計レコード数は 186,709 件である。
- ・ 電子化済の『神戸高等商業学校、神戸高等商船学校及び東京高等商船学校記載の古海図』（3 点）の公開を行った。
- ・ 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で平成 30 年度までに電子化した住田文庫以外の画像 737 点分（82,240 枚）を、新規コレクション『日本の古典籍』として公開した。（うち 134 点の電子化画像公開画面に計 1,121 件のアクセスがあった。（令和 2 年 3 月末現在））
- ・ 医学分館所蔵貴重書『治験録』の電子化を行った。

◆評価と課題

新聞記事文庫はその規模の大きさと希少性（戦前の記事切抜きはほとんど残っていない）から高い評価を得ており、HP へのアクセス数は継続してデジタルアーカイブ中トップである。引き続き電子化をすすめ、戦前期の完成を目指したい。なお、平成 29 年度以降、画像の早期公開を目指し、全文テキスト化よりも画像とインデックスデータの作成を優先して進めている。

また、本年度は、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業での電子化済画像や、電子化済だった「大阪商工新聞」「神戸高等商業学校、神戸高等商船学校及び東京高等商船学校記載の古海図」の画像など、多くの電子化コンテンツを新規公開することができた。今後はさらなる利便性の向上とデジタルコンテンツの保存体制の確立に向け、検討を進めていきたい。

「学内研究成果」については、学術論文は機関リポジトリ（次項）へ、その他の成果はデジタルアーカイブへ登録している。今後も継続してコンテンツ収集に努めていく。

（４）機関リポジトリによる情報発信

<コンテンツ収集活動>

- 平成 18 年度に稼働を始めた神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel) は、比較的順調に成長を続けている。令和 2 年 3 月末現在のコンテンツ数は 30,723 件となり、1 年間で 2,851 件増加した。

<機関リポジトリコンテンツ種別件数>

一般雑誌記事	139 (139)	図書	143 (151)
会議発表論文	70 (70)	データセット	4 (4)
紀要論文	19,964 (45,946)	学術雑誌論文	5,661 (5,889)
教材	21 (21)	会議発表用資料	579 (580)
研究報告書	138 (138)	テクニカルレポート	751 (1,172)
博士学位論文	2,720 (11,117)	その他	524 (525)
プレプリント	9 (9)	合計	30,723 (65,761)

注)括弧内は書誌情報のみ(本文ファイルなし)も含んだデータ数

- 学位規則改定後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く論文を公開した。本年度は合計 192 件の本文を公開した。
- 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。
- 前年度に続き、オープンアクセス推進 WG を設置した。主な取組として、KUID に登録された論文情報 1,877 件の出版社の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち 588 件について著者に登録依頼した。結果、230 件を登録した。

<広報・啓発活動>

- 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第 21 号、第 22 号を発行し、オープンアクセスの基礎知識等を掲載してその周知につとめた。
- オープンアクセス推進 WG メンバーの協力も得て、10 月のオープンアクセスウィークには広報物と論文抜き刷り送付用学内便封筒を教員ポストに配布した。
- 登録者へのサービスとして、毎月 1 回ダウンロード数お知らせメールの配信を継続して実施している。
- OA(博士論文ウェブ公表)に関するガイダンスを初めての試みとして実施した。2 つの研究科で計 2 回開催し、計 21 名が参加した。さらにガイダンス資料(日本語、英語)を附属図書館 HP で公開した。
- 令和元年 9 月 30 日、「オープンサイエンス研修会」を実施し、国立情報学研究所の講師による講演の聴講および意見交換を行った。学内外の 36 名が参加した。
- 附属図書館内でオープンアクセスに関する勉強会を 2 回実施し、合計 43 名が参加した。
- 令和元年 9 月～12 月、国立情報学研究所が実施した「学認 LMS 試行プロジェクト」へ参加した。研究データ管理に関するオンライン教材を学内 32 名が受講し、教材及び学認 LMS に関する感想を国立情報学研究所へフィードバックした。

<情報収集活動>

- 国立情報学研究所が実施する GakuNin RDM 実証実験への参加を開始した。

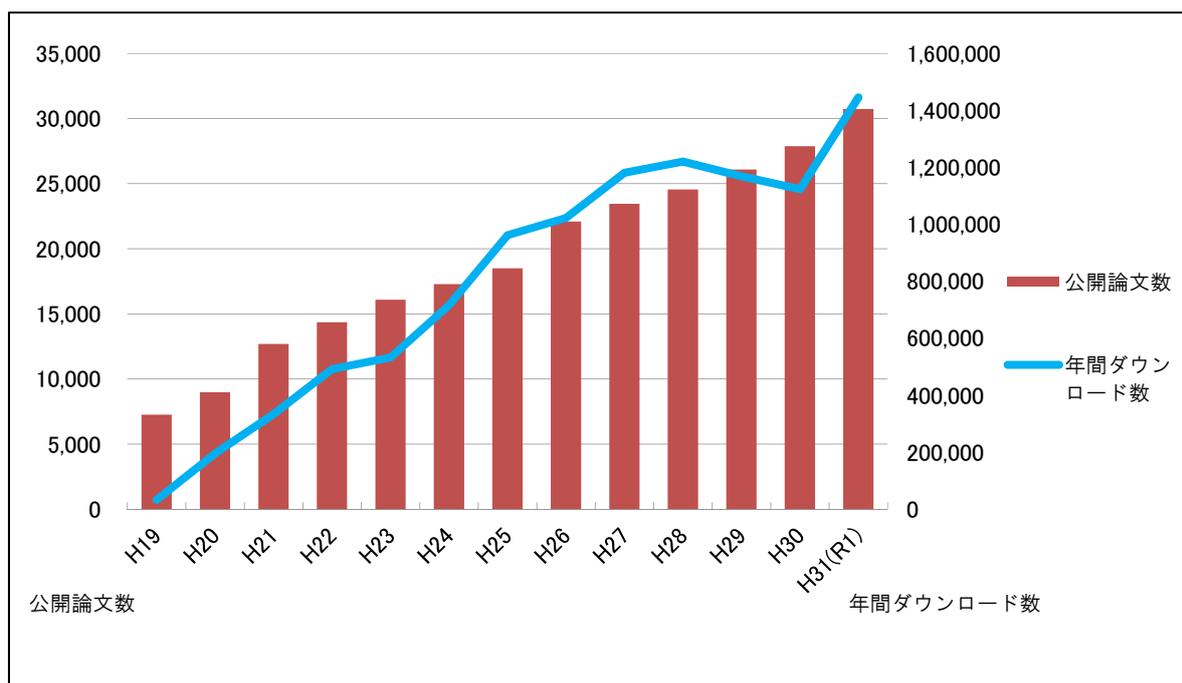
◆評価と課題

リポジトリ開設から公開論文数は着実に数を伸ばし、30,000 件を超えた。平成 29 年 1 月に学長裁定

となった「神戸大学オープンアクセス方針」にもとづいて学術論文の登録業務を行い、前年度に続き設置したオープンアクセス推進WGでの取り組みの成果もあり、3年連続で登録数の増加を達成することができた。初の試みとして、博士論文のインターネット公表を中心に、OAに関する学内でのガイダンスの実施も行った。登録論文数向上のため、オープンアクセス推進WGによる論文著作権調査の取り組みを継続するほか、さらなる広報活動も展開していきたい。

課題としては、引き続き登録数の増加を目指してワークフローの見直しを行うほか、研究データの公開に向けた情報収集および検討を行う必要がある。

＜Kernel 公開論文数及びダウンロード数推移＞



※H28.9 図書館システムリプレース

（5）国際連携

＜海外派遣＞

・ COAR Annual Meeting 2019 への参加

神戸大学附属図書館として参加している「オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）」のコンテンツ流通促進作業部会にて活動中の職員1名が、前年度に引き続き当該作業部会からの派遣依頼を受け、「COAR Annual Meeting 2019」に出席した。

期 間：5月19日～25日

派遣先：リヨン（仏）

<https://coar2019.sciencesconf.org/>

・ IGeLU Conference 2019(EXLibrisユーザー会) への参加

国立情報学研究所「これからの学術情報システム構築検討委員会」のシステムワークフロー検討作業部会にて活動中の職員1名が、当該委員会からの派遣依頼を受け、「IGeLU Conference 2019」に出席した。

期 間：8月27日～29日

派遣先：シンガポール

<https://igelu.org/conferences/2019-singapore>

・国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)

令和元年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）の助成を受け、職員1名をシンガポールに派遣した。9月4日、24日の2回にわたり海外派遣事前勉強会を実施、部長ほか10名の職員が参加した。

派遣期間：10月7日～11日

派遣機関：National University of Singapore
Nanyang Technological
University
Singapore Polytechnic

調査テーマ：「シンガポールの高等教育機関附設

図書館における学修支援：

レファレンス業務・情報リテラシー
教育を中心に」

<https://www.janul.jp/ja/operations/overseas>



※写真は Nanyang Technological University

この調査の結果は令和2年6月の国大図協総会口頭発表において報告予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となり、報告文が総会資料に掲載された。

◆評価と課題

本年度も前年度に引き続き国内他機関からの依頼を受け、職員1名を海外に派遣した。国内他機関との連携による活動の場は、海外にも広がっている。

国立大学図書館協会海外派遣事業への応募・採択は5年連続となった。毎年の調査テーマも多岐にわたっており、それらの成果は職員研修会や海外派遣事前勉強会にて館内に共有している。派遣者個人の資質の向上とともに、館内に海外での調査研究・発表の経験やノウハウが蓄積され、次の海外派遣へとつながっている。

海外派遣事業をはじめとする国際連携は、グローバルな視点を持って大学図書館を担っていく職員の育成のために非常に重要である。しかしその実現には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

<管理運営全般>

平成31年3月、任期満了により萩原泰治館長（経済学研究科教授）が退任し、4月より部局長経験者である富山明男館長（工学研究科教授）が就任した。館長の交替に伴い、副館長3名も交替した。4月25日の第1回館長・副館長・分館長懇談会にて、副館長の新たな役割分担を決めた。新任の副館長及び役割分担は以下のとおりである。

- ・ 末廣英生副館長（経営学研究科教授）：社会科学系図書館、広報担当
- ・ 喜多 隆副館長（工学研究科教授）：自然科学系図書館、基盤センター運営委員

- ・ 緒形 康副館長（人文学研究科教授）：評価担当、国際交流担当
また、医学分館長、海事科学分館長も 4 月 1 日付で交替した。

<館内諸会議>

*開催日時、議事内容等は、<付録 8> 附属図書館諸会議 に掲載

① 附属図書館運営委員会

- ・ 本年度は 4 回開催した。第 4 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためメール回議となった。

② 附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 本年度は 5 回開催した。第 5 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためメール回議となった。

③ 附属図書館評価委員会

- ・ 本年度はメール回議にて 2 回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 本年度は電子化部会をメール回議にて 1 回開催した。

⑤ 附属図書館係長会議

- ・ 本年度の開催はなかった。

<教育研究基盤資料の充実>

大学全体の予算は厳しさを増しているが、第 3 期中期計画期間後半（令和元～3 年度）の教育研究基盤資料整備費全体については、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持することが平成 30 年 5 月の部局長会議で承認されている。その承認に基づき、本年度は 3.63 億円（決算ベース）が措置され、中心となる電子ジャーナル及びデータベースについては平成 26 年度の予算規模を維持することが出来た。

<大学文書史料室>

平成 30 年度から学長直下の室として独立したが、事務は引き続き附属図書館が担当している。

<神戸大学出版会>

事務担当部局として出版会運営委員会を 1 回、出版会出版委員会を 3 回開催した。

◆評価と課題

附属図書館運営委員会においては、例年教育研究基盤資料の整備が懸案事項となっている。第 3 期中期計画期間後半（令和元～3 年度）の教育研究基盤資料整備については、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向が平成 30 年 5 月の部局長会議にて承認されているが、所要額の上昇、大学予算の削減等により依然として非常に厳しい状況が続いている。今後は、第 4 期中期計画前半（令和 4～6 年度）の整備方針の検討が課題である。

大学文書史料室は平成 30 年度から、学長直下の室として独立したが事務は引き続き附属図書館が担当している。また、神戸大学出版会についても引き続き事務を担当している。

(2) 事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- ・ 人事異動は主に4月1日付、7月1日付の2回であったがその他に期限満了、退職に伴う異動があった。令和元年7月時点で、附属図書館事務部は2課3グループ11係、定員46名(欠員1名)、非常勤職員36名の82名であった。また経済経営研究所図書係は、定員3名を配置しており、平成22年4月に設置した大学文書史料室は定員2名、非常勤職員2名を配置している。
- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から、4月に1名を採用予定であったが辞退となり、4月～9月の期間は欠員1名となった。
- ・ 本年度末日付で、定員職員1名(情報サービス課長)が早期退職した。
- ・ 令和元年7月時点の職員の配置状況は、以下のとおりであった。なお、巻末付録には令和2年4月現在の組織図を掲載している。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2係	5	5	10
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 1グループ 4係	20	16	36
	自然科学系図書館	サービス課補佐 1グループ 1係	7	3	10
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	2	3	5
	楠地区	医学分館	サービス課補佐 1グループ	3	5
名谷地区	保健科学図書室	1係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	サービス課補佐 1係	4	1	5
		計	46	36	82

六甲地区	経済経営研究所図書館	1係	3	0	3
	大学文書史料室		2	2	4

- ・ 社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、資料整備グループ受入担当・雑誌担当・目録担当は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 情報管理課の電子図書館係(社会科学系図書館配置)、同情報システム係(自然科学系図書館配置)及び情報サービス課の情報リテラシー係(総合・国際文化学図書館配置)は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 資料整備担当は、自然科学系図書館及び医学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置するサービス担当もしくは情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

<職員の採用と育成>

- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から、10月に1名採用し欠員を補充した。
- ・ 大阪大学附属図書館との人事交流を実施した。(係員1名、平成30年度～令和元年度の2年間)令和2年度から、大阪大学・大阪教育大学・神戸大学の3機関で人事交流を実施予定である。
- ・ 令和2年度から、国立情報学研究所に定員1名を出向させた。
- ・ 退職者(令和元年度末)1名及び出向者(令和2年度)1名の補充として、令和2年4月に定員1名及び準正規職員1名を採用予定である。

- ・ 「神戸大学新任職員研修」及び「兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修」の受講者はなかった。情報リテラシー係長、大学文書史料室長補佐が講師のみ担当。（館内研修も実施せず）
- ・ 大阪大学附属図書館との人事交流を実施中。（係員 1 名、前年 4 月から 2 年間の予定）
- ・ 図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。本年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果研修計画等に反映した。
- ・ 他機関・他団体等の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

※参加者：「専門職員」→「係長」、「事務員」→「係員」に統一表記

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	9/10-11(東京) 9/26-27(京都)	未受講者なし、申込せず
	機関リポジトリ新任担当者研修	JPCOAR	9/30	係員 1
	大学図書館職員短期研修	京都大学	10/1-4	係員 1
	文部科学省等研修生報告会	神戸大学	11/29	係員 1
中堅職員向けの研修	大学図書館近畿イニシアティブ中級研修	近畿イニシア	5/23	係員 1
	第 82 回近畿地区中堅係員研修	人事院	6/25-28	落選
管理職向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学	7/1-12	係長 1
	国立大学協会近畿地区支部係長研修	大阪大学(実施担当)	9/5-6	係長 1
	管理監督者(課長・課長補佐相当)研修	神戸大学	9/10-11	補佐 1
個別業務の専門的知識のための研修	JOSS&NII オープンフォーラム&NII オープンハウス	JOSS NII	5/27-6/1のうち 2日ずつ	係員 2
	事務職員国際業務研修	神戸大学	6/4-7/30(初級)	補佐員 3
	事務職員国際業務研修海外研修報告会	神戸大学	12/5	補佐員 1
	TA 研修	大阪大学	7月～6コマ	係長 1 係員 3
	第 17 回日本古典籍講習会	国文学研究資料館、国立国会図書館	7/2-5	係員 1
	全学旅費実務担当者研修会	神戸大学	7/9	主任 1 係員 1
	InCites(インサイト)使用講習会	神戸大学	7/23	係長 1 係員 1
	人事評価に係る研修会(評価者及び被評価者)	神戸大学	7/25	部課長 室長補佐、 補佐 1
	ハラスメント相談員研修会	神戸大学	7/25	係長 1
	アプリケーションソフトウェア研修	神戸大学	8/20(Windows10)	室長補佐、 補佐員 1

			8/27(PowerPoint)	補佐員 1
	第一種衛生管理者試験受験準備講習会	神戸大学	8/27-29	係員 3
	第 9 回大学図書館学生協働交流シンポジウム	島根大学(実施担当)	9/5-6	ULiCS2 係員 1(引率)
	総務関係実務担当者研修	神戸大学	9/6-9(部分受講)	主任 1
	IIIF Curation Platform チュートリアル	日文研	9/10	係長 1
	全学会計実務担当者消費税研修会	神戸大学	9/12	8 名
	CAT2020 説明会	NII	9/27(京大) Web 視聴	係長 2 目録担当
	漢籍担当職員講習会	京都大学	9/30-10/4(初級)	係員 1
	第 39 回西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学	10/30-11/1	係長 1
	第 21 回図書館総合展	図書館総合展運営委員会	11/12-14	係長 1
	目録システム書誌作成研修	NII	12/5-6	係員 1(ファシリテーター) 係員 1
	第 1-3 回 SPARC Japan	NII	各 1 日ずつ	Web 視聴
1 日以内の講演会・研修会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ (大阪大学)「AGS on Campus: 著名誌エディターとトップ研究者が直伝! 科学論文のすべて」 ・ 京都大学図書館機構講演会「オープン・サイテーションと機関リポジトリの展開」 ・ J-STAGE セミナー「国際動向への対応: オープンアクセス(Plan S)」 ・ (大阪教育大学)フォーラム「情報リテラシー再論: 大学の教育活動に図書館活動を位置づける」 ・ 神戸大学スキルアップ研修「プレゼンテーション研修」「アサーティブコミュニケーション研修」「タイムマネジメント研修」 ・ 広報業務研修会 ・ 環境保全推進センター全学報告会 ・ JMLA 近畿地区会シンポジウム「進化する PubMed」 ・ (九州大学)シンポジウム・ワークショップ「大学における研究データサービス」 	大阪大学、京都大学、J-STAGE、大阪教育大学、神戸大学、JMLA、九州大学、国際日本文化研究センター、大阪府立大学、早稲田大学、慶応大学ほか(主に近畿地区で開催されるもの)	各半日~1日	管理職を含め延べ 27

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日文研ワークショップ「公開コンテンツのオープン化の現状と課題」 ・ (大阪府立大学)シンポジウム「オープンアクセス:これまでとこれから」 ・ (大阪大学)職員研修「研究データ管理の実際: GakuNinRDM を例に」 ・ 情報セキュリティに関する研修 ・ 震災復興支援・災害科学研究推進室シンポジウム「阪神・淡路大震災から25年」 ・ 第9回被災地図書館情報交換会 ・ (大阪大学)セミナー「学術論文を取り巻く最新動向: オープンアクセスの現在」 ・ システム共同運用記念シンポジウム「早慶図書館の挑戦」 ・ 京都大学研究データマネジメントワークショップ 			
--	--	--	--	--

- ・ 上記に加え、附属図書館職員の知識習得を目的として内部研修を次のとおり開催した。

研修名と内容	日程	参加者数	備考
第1回附属図書館職員研修 「温湿度環境から図書資料の保存を考える」	6/17	44	講師:工学研究科 高田暁准教授
附属図書館海外派遣事前勉強会	9/4、24	10	
第2回附属図書館職員研修 海外派遣事業報告会	1/23	38	報告:係員1名、係長3名

<業務の改善と効率化・合理化>

① 業務の標準化・合理化

- ・ 係横断的なワーキンググループ（以下WG）を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。本年度は、総合図書館資料選定委員会（選書WG）・情報リテラシー教育支援WG・アウトリーチWG・業務改善WG・展示WG・オープンアクセス推進WG・保健科学図書室リニューアルWGが活動した。次期図書館システム検討WGはメーリングリストのみ存続させている。

② アウトソーシング

- ・ 図書装備付納品、社会科学系図書館・医学分館・保健科学図書室の時間外開館業務と自然科学系図書館の土・日開館業務、電子化コンテンツの作成業務のアウトソーシングを実施した。予算縮減のため、雑誌製本業務は前年度に続き製本のみアウトソーシングとし、準備・データ作成・装備は職員により、10月の消費税増税までに支払いが完了するよう実施した。資産点検業務については予算の範囲でアウトソーシングを実施したが、対象となる社会科学系図書館書庫の事情により契約単価が上昇し、約13万冊にとどまった。

③ 業務改善の検討

- ・全学の業務改善は、平成 26 年 10 月を起点とした枠組みで実施されていたが、平成 30 年度下半期の実施報告にてひと区切りとなった。本年度は、附属図書館内での事業として、業務改善 WG を中心に図書館事務部全体で取り組んだ。各館室ごとの課題と取組が多いが、図書館全体に関わる成果として、清掃業務の委託契約における実施日数と範囲の見直しによる契約経費縮減や、文書管理の改善における共有フォルダの整理と活用、ILL の依頼・受付台帳の電子化が挙げられる。

◆評価と課題

本年度も積極的に学外の各種図書館関連研修、専門主題に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の事務系職員研修やメンタル関連の研修も受講した。しかし前年度に引き続き、予算削減の影響を受け年度の後半には申込や館内への周知を見送らざるを得ないものもあった。研修の報告は全職員にメール送付することで成果を共有し、他の職員の能力開発にも役立てている。

ワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。アウトソーシングによる効率化については、予算の減額が続く中、方法・規模や契約の見直しによって必要な範囲を維持している。業務改善については、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

(3) 予算及び財務会計業務

<本年度附属図書館予算・決算>

① 既定経費（経常運営費・経常事業費）等

- ・経常運営費は当初予算配分 153,168 千円、途中アスベスト調査に伴う追加配分と予算組替により 295 千円を加えた結果、最終配分総額 153,463 千円、決算額 153,841 千円であった。平成 30 年度の当初予算配分 157,180 千円、決算額 156,574 千円と比較して、いずれも減額となった（当初予算額 H30 予算比 3,717 千円 2.5%減、決算額 H30 決算比 2,733 千円 1.7%減）。
- ・経常事業費は当初予算配分 107,549 千円、決算額 107,274 千円であった。平成 30 年度の当初予算配分 107,777 千円、決算額 109,463 千円と比較して、いずれも減額となった（当初予算額 H30 予算比 228 千円 0.2%減、決算額 2,189 千円 2%減）。
- ・本年度の学生用資料費は、運営費交付金の機能強化促進係数影響分による 1.6%の減額にあわせ、当初配分 40,360 千円（前年比 656 千円、1.6%減）とし、決算額 40,358 千円であった。大学文書史料室管理運営経費も前年度から 1.6%減の 6,420 千円とした。
- ・図書館内設置の目録検索用端末を更新するため、前年度に研究科長等運用経費として借入れた 2,000 千円の返済のため、400 千円を充てた（5年返済の1年目）。
- ・平成 29 年度より各部局が施設面積に応じて負担している建物老朽化対策経費 4,124 千円が当初予算配分より差引かれているが、収入確保インセンティブ経費より繰入れ充当している。
- ・以上の既定経費（経常運営費と経常事業費、大学文書史料室運営経費合計）の当初予算配分は 267,137 千円で、平成 30 年度の当初予算配分 271,481 千円から 4,344 千円 1.6%の減であった。年度中の複写料収入を含む収入確保インセンティブ経費等からの繰入を加えた、既定経費の予算総額は 271,440 千円、決算総額は 270,726 千円となった。

② 臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費として確保した 3.7 億円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。

- ・建物老朽劣化対策経費（49,378 千円）により、社会科学系図書館書庫 A 棟・B 棟と海事科学分館の外壁改修工事等を実施した。
- ・学内営繕・エコ対策経費（15,270 千円）により、社会科学系図書館書庫 A 棟・B 棟と海事科学分館の外壁改修工事、医学分館 2 階の空調機更新、海事科学分館 1 階トイレ改修工事等を実施した。
- ・施設費交付事業費（549 千円）で、自然科学系図書館の火災報知設備改修工事を実施した。
- ・学内ワークスタディ実施経費（603 千円）により学生補佐員 14 名を雇用し、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、海事科学分館で書庫・書架の整理業務等に、電子図書館係において電子化業務の補助に従事させた。また総合・国際文化学図書館で SA（ステューデント・アシスタント）2 名を、PC 必携化に対応して試行設置した PC 相談カウンターの要員として雇用した。
- ・教育担当理事を通して財務部に臨時要求し、医学分館 24 時間入退館システムを更新した（1,475 千円）。

③ その他の経費

- ・国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」構築のための経費（289 千円）により、古典籍修復を実施した。画像作成（撮影）については、国文学研究資料館が直接外注業者と契約（4,392 千円）したため経費に含めていない。
- ・国立大学図書館協会地区事業助成金（67 千円）により、研修会「著作権制度の改正と障害者サービス」を開催した。
- ・神戸大学六甲台後援会からの学術基盤の整備に対する助成により、社会科学系図書館大閲覧室整備費として、助成金（160 千円）を受けた。
- ・電子図書館事業である新聞記事文庫デジタル化について、「科学研究費補助金（研究成果公開促進費）」は不採択となった。

※令和元年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

<図書資産の管理>

① 図書資産点検

- ・本年度の資産点検は、社会科学系図書館で実施し、点検総冊数は 131,964 冊である。アウトソーシングの契約により実施したが、点検対象である書庫の事情により契約単価が上昇し、予算超過を防ぐために実施冊数を減らして対応した。

② 不明資料の追跡調査

- ・平成 28～30 年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。
（資産点検時不明資料 2,214 点、追跡調査による発見資料 321 点、追跡調査後不明資料 1,893 点）

③ 不用決定

- ・不明後 3 年以上経過している資料（平成 27 年度資産点検時からの不明資料）を不用決定した。
（817 点、資産価格 4,729,529 円）
- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。（24,412 点、資産価格 99,253,823 円）

◆評価と課題

本年度の当初予算配分額は、平成 30 年度から 4,344 千円（運営費交付金の機能強化促進係数影響分の 1.6%）減額の 267,137 千円となり、これに令和元年 10 月の消費税増税も加わり、引き続き厳しい予算運営を余儀なくされ、清掃業務委託における日数と範囲の見直しによる変更契約等、経費縮減を実施した。時間外開館、土・日開館業務に係る人件費は、開館時間増加傾向のもと増加は不可避であり、また今後は同一労働同一賃金への対応による単価増もあって、人件費の対応がより大きな課題となる。図書資産点検についても、引き続き限られた予算で、計画上必要な点検を、最大限に実施できるようにさらに配慮する必要がある。

（４）施設整備・システム整備

＜各館室の施設整備・設備更新＞

- 本年度における主な事項は、以下のとおりである。

社会科学系図書館	書庫 A 棟・B 棟外壁改修工事、書庫 A 棟 5,6 階各 1 台除湿機設置、マイクログループ除湿器修理、書庫 B 棟 3 階 P タイルの取替え、開架閲覧室カーペット張替え、防犯カメラハードディスク交換
自然科学系図書館	火災報知器設備改修、1 階ドア改修、2 階グループ学習室空調機を医学分館より移設して更新、4 階研修室兼休憩室空調機を 2 階グループ学習室より移設して更新、テレビ会議システム導入、副館長室ミーティング用什器整備
人文科学図書館	DVD キャビネット・法人文書用保管庫整備、1 階ラーニングコモンスの排煙装置・換気扇修理
人間科学図書館	網戸設置、空調機 1 台を医学分館より移設して更新、新書庫除湿機 2 台、書庫除湿機 1 台設置、換気扇撤去
医学分館	2 階空調機更新
海事科学分館	外壁改修工事、1 階トイレ改修、カメラ付インターホン設置

＜安全点検＞

- 附属図書館安全衛生会議を、構成単位である社会科学系図書館と自然科学系図書館と大学文書史料室の 3 館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用しており、本年度はメール回議にて 4 回開催した。
- 安全衛生活動計画を策定し、週 1 回の衛生管理者による巡視を実施した。また、年 1 回図書館独自の自衛消防・防災訓練の実施を計画し、全館室で実施した。
- 火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

＜情報機器の更新＞

- 医学分館にて 2008 年から運用していた 24 時間入退館管理システムについて、OS (Windows Server 2008) のサポート終了に伴い、臨時的経費により更新を行った。
- Windows 7 端末について、利用者向けのデータベース用端末については Chromebox 端末に入替、また事務用端末については、OS アップデート・機器の更新を行い、2020 年 1 月の OS サポート終了までに全ての更新を完了した。
- 利用者用 PC 等の設置台数は次のとおりである。
- * 情報コンセントは、キャンパス情報ネットワークシステム (KHAN2017) の更新に伴い、一部の館

での提供としている。

	総国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
PC 台数	45	43	38	24	20	1	23	13	16	223
教育用端末(*1)	(37)	(28)	(33)	(16)	(13)	(0)	(17)	(10)	(13)	(167)
蔵書検索用端末等(*2)	(8)	(13)	(5)	(5)	(6)	(1)	(5)	(3)	(2)	(48)
スタンドアロン	(0)	(2)	(0)	(3)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(7)
貸出用PC	12	4	1	0	0	0	3	0	1	21
タブレット(ipad)	(2)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(1)	(9)
ノート	(10)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(12)
情報コンセント	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
無線LANAP(*3)	4	7	3	2	2	0	3	2	2	25

注) (*1) 情報基盤センター教育研究用計算機システムの教育用端末

(*2) 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源(れきおん)配信サービス」に対応する端末を含む

(*3) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

<システム整備>

- 平成 28 年 9 月に更新した図書館システムについて、令和元年 10 月の学内財務会計システムの更新に伴い、機能連携部分の調整を行った。また同システムについて、消費税率の改定及び軽減税率の適用に対応するため、必要な改修を行った。

<自動貸出装置等>

- 自動貸出装置等の設置場所は次のとおりである。

自動貸出装置	全館室(研究所を除く)
入退館管理システム	全館室(研究所を除く)
BDS(無断持出防止装置)	全館室(研究所を除く)
24 時間入退館管理システム	医学分館
セルフ式コピー機(コイン式等)	全館室

◆評価と課題

施設部が各部局より確保して執行する建物老朽劣化対策経費により、社会科学系図書館書庫 A 棟・B 棟と海事科学分館の外壁改修工事(学内営繕・エコ対策経費からも拠出)が実施された。また学内営繕・エコ対策経費により、医学分館 2 階の空調機更新と海事科学分館 1 階トイレ改修工事を実施した。

夏季の高温多湿に機器の老朽化も相まって、除湿機や空調機の導入・更新の必要性がより高まっているが、厳しい予算状況が続く中、限られた範囲で適切に対応するとともに、施設部や大学執行部等に予算措置の必要性を引き続きアピールしていく必要がある。特に海事科学分館と医学分館の空調については学内営繕費の予算要求をしている。

神戸大学 LC 検討 WG の報告書に基づき、学習支援機能の強化のため、自然科学系図書館での LC 設置を概算要求している。あわせて自然科学系図書館に、資料収容力強化とスペース効率向上のため集密書架の設置を概算要求している。これら計画の推進と実現が、現在の附属図書館における主要な課題の一つである。

保健科学図書室を含む保健学研究科 A 棟の施設整備事業概算要求が本年度補正予算で採択された。

次年度は LC 機能の充実も考慮しつつ改修を計画・実施することになる。

海事科学分館建物の今後については、深江キャンパスの整備計画の動向に合わせ、引き続き海事科学研究科・施設部と連絡を密にして対応していく必要がある。

医学分館において、医学科教務学生委員会から、地階の一部等の改装による学生の自習場所増設の要望があった。2 階閲覧室の改装と什器入替えによる増席案を作成したが、予算の裏付けはない。当面の対策として閲覧机への衝立設置を財務部に予算要求したが配分はなかった。予算援助も含め、実施には研究科と連携して進める必要がある。

なお、各館室改修等の進め方については、『神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について』において、その指針を示している。

システムについては、OS のサポート終了に伴い更新が必須となった医学分館の 24 時間入退館システムについて、財務部に予算要求のうえ更新を実施することができた。全学会計業務システムの更新に際し、図書館システム連携機能強化及び図書購買業務の円滑化のため調整を行い、機能の向上を実現した。消費税の税率変更及び軽減税率の導入について必要な修正を行い、問題なく移行することができた。令和 4 年 9 月に予定される次期リプレイスに備え、情報収集等を進める必要がある。

(5) 図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 学術資料整備委員会の委員を務めた（事務部長）。
- ・ 令和元年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業の実施担当となり、研修会「著作権制度の改正と障害者サービス」を開催した。（12 月 20 日、会場：神戸大学フロンティア館プレゼンテーションホール）近畿地区の国公立大学図書館から 23 機関 53 名が参加した。
- ・ 係員 1 名が令和元年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）に採択され、シンガポールの大学図書館を訪問調査した。（10 月 7 日～11 日、調査研究テーマ：シンガポールの高等教育機関附設図書館における学修支援：レファレンス業務・情報リテラシー教育を中心に）



<オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）>

- ・ 係員 1 名がコンテンツ流通促進作業部会会員を務め、5 月 19 日～25 日にリヨン（仏）で開催された COAR Annual Meeting 2019 に参加した。

<国立情報学研究所、JUSTICE>

- ・ 係長 1 名が学術認証運営委員会 図書館系サービス作業部会委員を務めた。（平成 27 年度から継続）
- ・ 係員 1 名がこれからの学術情報システム構築検討委員会のシステムワークフロー検討作業部会会員を務め、8 月 27 日～29 日にシンガポールで開催された IGeLU Conference 2019 に参加した。
- ・ 国立情報学研究所から講師を招き、9 月 30 日に「オープンサイエンス研修会」を開催した。講師 2 名による講演と意見交換を実施し、学内外の図書館職員や教員、学生を含む 36 名が参加した。

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 7 月 26 日に第 118 回総会を開催し、平成 30 年度の活動成果として、障がいのある利用者への支援

の取り組みについて、災害・経年劣化等による資料の損傷に対する取り組みについて、書庫スペースの狭隘化に対する取り組みについて、事例報告と質疑応答を行った。活発に情報交換がなされ、今後の大学図書館の展開を模索する上でも貴重な情報共有ができた。

- ・ 研修事業においては、研修担当館として、下記の研修会を企画・実施した。
 (研修会「図書館資料のカビ被害への対策」10月18日、参加者：36名(28機関)、ほかに学内から27名参加 会場：神戸大学)
- ・ 県内の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っている。

＜研修等への講師・発表者の派遣＞

- ・ 国立情報学研究所等が開催する研修や講習会に、本年度は次のとおり職員を講師・担当者等として派遣した。

研修名	主催	会場	日程	講師等
COAR Annual Meeting2019	COAR	リヨン(仏)	5/19-25	情報システム係員 (報告)
IGeLU Conference 2019 (EXLibris ユーザー会)	NII	シンガポール	8/27-29	電子図書館係員
大学図書館職員短期研修	京都大学	京都大学	10/1-4	海事科学情報サービス係員 (海外派遣報告)
目録システム書誌作成研修	国立情報学研究所	国立情報学研究所	12/5-6	海事科学情報サービス係員 (ファシリテーター)
国立大学図書館協会中四国協会、 JPCOAR ワークショップ	国立大学図書館協会	岡山大学	2/13	電子図書館係長(運営、事例報告)

＜その他＞

- ・ 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務めた (情報サービス課課長補佐)。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、会員間で緊密な連携と協力を図ることによって、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

他機関が開催する研修事業に講師を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、講師として参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推進が期待される。

令和元（平成31）年度 神戸大学附属図書館年次報告

<付録>

神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について	付録1
達成度評価（第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より）	付録2
達成度評価の根拠資料	
附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	付録3
基本統計表	
蔵書・受入等の現況（各館室別）	付録4
サービス業務の現況（各館室別）	付録5
電子的情報サービスの現況	付録6
図書館組織図・事務組織図	付録7
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	付録8
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	付録9
附属図書館活動日誌	付録10

神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について
(平成 29 年 11 月 8 日～令和 9 年 3 月 31 日)

趣旨

神戸大学附属図書館は、神戸大学の使命に基づき、世界トップクラスの教育・研究活動を将来にわたって支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する拠点となることを理念として掲げ、学内外にサービスを提供してきた。しかし、法人化後 3 度目の中期目標期間を迎えて、大学をとりまく環境は大きく変容し、大学図書館の果たすべき役割も、大学の基本機能としての従来への在り方に加えて、教育・研究支援組織としての新たな方向性が求められている。本方針は、今後 10 年を視野に置き、図書館機能の強化と革新のために用いるものとして定める。

1. 知を創出する「場」の提供

(1-1) アクティブラーニング等新しい学習スタイルに対応した環境の整備

神戸大学ラーニングコモンズ (LC) 検討ワーキンググループ報告書の構想に基づき、附属図書館のうち 3 館に基幹となる LC が整備された。LC 未設置の館室においても、改修に合わせて LC のスペースを確保し、双方向型授業やアクティブラーニングなどの課題解決型の能動的学習の推進を支援する。また、PC 必携化等の学生の ICT 環境の変化に対しても多様な利用形態に対応した学習空間を整備する。

(1-2) 分野を超えた研究をつなぐ場としての環境整備

本学が掲げる文理融合の研究を強力に推進するため、バリュースクールの推進を目的とした価値創造スペースを整備する。大学院生レベルの研究ディカッションの実践やポスターセッションの訓練を行い切磋琢磨したり、サイエンスカフェ等を開催して新たなアイデアを得るためのスペースを館内に確保し、部局を超えた融合研究を醸成する場として自然科学系図書館を展開する。

(1-3) 各館室の改修

前 2 項を達成することを主眼とし、(2-4) に掲げる蔵書の分担収蔵も考慮しながら、未改修の自然科学系図書館、医学分館、海事科学分館の改修計画を各キャンパス関係部局及び財務部・施設部等と調整・立案し、実現に向けた予算要求を実施する。

2. 蔵書ならびに知識や情報の共有

(2-1) 電子ジャーナルをはじめとする研究基盤としての資料整備

先端研究と文理融合を掲げる本学にとって研究基盤の充実は不可欠である。大手出版社

の電子ジャーナルパッケージやデータベースは、価格の上昇や為替変動、消費税の影響を受けながら契約規模を維持してきた。現在は教育研究基盤資料整備費として全学予算の中に組み入れられており、多くの利用実績がある。今後、限られた予算の中で最大限の研究基盤を、全学的な合意を得ながら整備していく。

(2-2) 学習の基礎となる学生用図書の整備

附属図書館は法人化以降、学生用図書費の確保を最重点事項として、資料整備に努めてきた。平成25年度からは、教員と連携してシラバス型パスファインダー（授業に関連する参考文献リスト）「KULiP」を作成し、掲載図書を複数冊備えたコーナー設置を開始した。今後も協力教員を拡大し、授業で指定される参考文献・必読図書を網羅的に収集し、利用に供するとともに、多数の同時アクセスが可能で学外からも利用でき、大規模授業への教材提供に適した電子書籍を積極的に導入し、自学自習に必要な学生用図書の整備をさらに進める。

(2-3) 国際化に対応した資料整備、サービスの提供

グローバル人材育成事業から配分を受けて整備した英語多読テキスト、各言語の検定試験問題集等の語学資料や留学関係資料を引き続き充実させ、本学の学生の国際性を一層涵養する。また世界から参集した優秀な留学生・研究者に対して、資料整備に加えて外国語によるレファレンス等の多文化・多言語サービスを提供し、学習・研究活動をサポートする。

(2-4) 全館室の効率的な資料収集と、蔵書の分担収蔵

9館室で構成される附属図書館は、従来より総合・国際文化学図書館を学部1・2回生向け、及び複合分野・基礎的資料の重点館とし、他の館室はそれぞれ学部3回生以上を対象に専門的な資料を収集する方針としている。各館室間で資料を流通させる図書館デリバリーサービスを利用することにより、館室間での資料重複購入を最小限とする。また、すでに所蔵している重複資料については可能な限り処分するとともに、利用頻度の低い資料や製本雑誌の管理については、共同利用書庫としての手動式集密書架を要求し、スペースの有効活用を図る。

(2-5) 大学固有の学術情報資源、教育研究成果のオープン化の推進

社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の所有する学術情報資源や教育研究成果のオープン化を推進し、長期的な保存をはかる。「神戸大学オープンアクセス方針」（平成29年1月学長裁定）に基づき、本学教員著作の学術論文をリポジトリに登録する業務を図書館が積極的に担い、さらにエビデンスとしての研究データの登録が可能なように、一部の部局や情報基盤センターと連携してシステム・サーバ構築の最適化を図る。

3. 人材の育成と参画

(3-1) 教員・学生・一般利用者など多様な人材の参画

図書館の活動は多様化しており、これまでも教員の協力を得て展示会やライティングセミナーなどを開催したり、学生の提案を広報活動に生かしたりしてきた。今後は図書館に関わる様々なステークホルダーに積極的に働きかけ、教員、職員、学生、一般利用者等と緊密に連携しながら、それぞれのスキルや知識を活かしつつ、新たな知の共有と創出を促す。

(3-2) 新たな人材の確保と職員の資質向上

各館室のサービスと蔵書構築に必要な専門的知識の習得など、職員の資質向上のための研修を行う一方、オープンデータの推進に関わるなど新たな人材の確保や育成を目指す。また、学術情報流通の変化に伴い、海外の動向を踏まえた新たな知識やスキルの習得が求められているため、職員を国際会議に参加させたり海外事例の調査研究に継続して派遣したりするなど、組織として育成の環境を整える。

4. 財政的な課題ほか

(4-1) 各館室維持費の確保

全館室総計で2万㎡を超える面積を保有・運用している。利用対象者は学生・教職員合わせて2万人を超え、年間300日以上開館するための光熱水費、備品・設備・建物の維持・更新には一定の金額が必要である。附属図書館は外部資金等による補填が期待できないため、維持経費を安定的に確保することが重要である。

(4-2) 外国雑誌センター・電子図書館事業について

外国雑誌センターは一橋大学とともに人文・社会科学分野における外国雑誌の収集拠点として設置されている。また、電子図書館事業も全国15大学に配分され、本学の電子図書館は震災文庫・新聞記事文庫をはじめとしたコンテンツが外部から高い評価を受けている。もともと法人化前に措置されていた予算が運営費交付金に組み入れられており、これらの事業は今後とも堅実に運用していく責任がある。

(4-3) 大学文書史料室及び大学出版会について（附属図書館が事務を担当する部署）

附属図書館は従来からの図書館業務以外に、大学文書史料室（平成22年度）、大学出版会（平成29年度）の事務を担当している。それぞれに予算や人員、設備等の課題があるが、関連する部局等と連携しながら安定的な運用と発展をめざす。

（平成29年11月8日 附属図書館運営委員会承認）

（令和2年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について (平成29年11月8日～令和9年3月31日)

1. 知を創出する「場」の提供



- (1-1) アクティブラーニング等新しい学習スタイルに対応した環境の整備
 - ・課題解決型、能動的学習の推進を支援
 - ・ICT等教育研究環境の変化に対応する設備整備
- (1-2) 分野を超えた研究をつなぐ場としての環境整備
 - ・様々な分野の若手研究者を支援する場の整備
 - ・部局を超えた融合研究を醸成する場として自然科学系図書館を整備
- (1-3) 各館室の改修
 - ・蔵書の分担収集を踏まえながら、未改修の館室について改修を要求する



図書種別	大塚地区館室										ユニオンビル館室										
	2021	2017	2013	1997	1992	1987	1982	1977	1972	1967	2021	2017	2013	2007	2002	1997	1992	1987	1982	1977	
総合図書											S99 蔵書等と合架	H19	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25
社会科学											S9 独立建物	S57 独立建物	H45	H45	H45	H45	H45	H45	H45	H45	H45
自然科学													H16 研究室と合架								
人文科学											S59 3階統合・独立建物	H19	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24
医学											S95 研究室等と合架	H19	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24
芸術											S94 管理部門・研究室等と合架	H19	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24
保健											S99 研究室等と合架	H19	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S28 1号館南東建物	S42 独立建物	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42	S42
国際											S										

1. 達成度評価

(第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より抜粋)

全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>○世界的教育研究拠点としてふさわしい、質の高い教育を実施するための体制を強化する。</p> <p>中期計画</p> <p>3-2: グローバル化やアクティブラーニングの推進など学部・大学院教育における機能強化を実施するため、関係部局・組織が連携した学修支援体制を整備し、ラーニングコモンズやICT教育基盤等の学修の場や設備の拡充、学修に必要な資料の体系的整備、及び学修に関する人的支援の拡充を進める。</p> <p>年度計画</p> <p>・【3-2-1】</p> <p>電子的資料を含む学修に必要な図書館資料を、学問分野や図書館・室の特性を考慮して、体系的整備を行うとともに、「情報基礎」や「初年次セミナー」の授業やガイダンスを拡充する。</p>	III	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生用資料費として当初配分で40,360千円を確保し、各館室の学生用資料やシラバス掲載資料等の整備を実施。E-Study事業費は別枠として4,406千円確保。 ・学生の多様なニーズを直接選書に反映させるため、学生選書ツアーを6/21に実施、14名参加し122冊選書。 ・全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー10名が担当、実施。(計23回、2,638名受講)。 ・初年次セミナーにおいて、図書館ツアーやガイダンスを8学部に対し計44回実施(1,587名受講で前年度比1.14倍)。 ・本年度より総合・国際文化学図書館にて試験期平日に8時から開館する早期開館を試行、41日実施、1,289名入館。 ・読書機会・利便性・貸出冊数向上のため、学部学生の貸出可能冊数を6→10冊に変更を試行。結果、学生・院生の貸出冊数とその一人当貸出冊数は、H30年度の[208,434冊、12.4冊]と比較し、[209,180冊、12.5冊]へといずれも微増した。 ・利便性向上のため、スマホ入館を6月下旬より試行中。 ・PC必携化への対応の一環として、総合・国際文化学図書館にSAによるPC相談カウンターを試行設置。5-10月の間に25件対応、相談は頻繁ではなく、学生のPC必携化が順調に進んだことがうかがえる。 ・学修環境改善のため保健科学図書室の改修を施設整備事業概算要求し、本年度補正予算で採択された。 ・同様に自然科学系図書館にLC(Aタイプ)を設置するため予算要求したが不採択となった。 ・昨年度に続き、教員と連携して、総合・国際文化学図書館にて昼休みトークイベントを、今回は「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパに学ぶ」をテーマに全3回開催(参加者合計48名)。加えて国際人間学計48名。加えて国際人間学計74名)。 ・シラバス型「パスファインダー」「KULIP」は今年度26件作成(うち新規が2件、累計60件)し、またセルフラーニング資料を累計27件登録。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生選書ツアー、回収した14枚のアンケートから高評価がうかがえた。 ・全学共通科目「情報基礎」、アンケート結果で受講者の96%から肯定的な評価を得ている。 ・初年次セミナー、実施教員36名のアンケートにおいて、ほぼ全員から高評価を得た。 ・スマホ入館試行、入館者のうち学部学生の約27%(多い学部だと約40%)、院生の約17%が利用経験があるとの実績(R1年7月～R2年3月)。 ・学術英語スキルアップセミナー、48枚のアンケート結果において、教員2名のプログラムは85%以上が参考になったと評価を得ている。 ・昼休みトークイベント、回収した29枚のアンケートのうち90%から満足及びやや満足との回答を得た。
<p>全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)</p> <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>2. 研究に関する目標</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標</p> <p>○研究戦略・計画の企画立案機能を強化するとともに、先端研究・文理融合研究の実施、育成及び支援の体制を充実させ、優秀な研究人材が集積する教育研究拠点としての地位を確立する。</p> <p>中期計画</p> <p>8-4: 分野融合・新領域創出等のグローバルな研究の実施を支援するため、電子ジャーナル等の学術情報の利用環境の維持と利用向上を促進するとともに、オープンアクセス等の学術情報流通の潮流を踏まえ、多様な研究成果をデジタル形態で保存し、国際的に発信する体制を強化する。</p> <p>年度計画</p> <p>・【8-4-1】</p> <p>附属図書館において外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベース等の教育研究基盤資料の安定的な維持・提供に努めるとともに、神戸大学オープンアクセス方針について講座単位でのきめ細かな周知を行うなど、「神戸大学学術成果リポジトリ」への雑誌論文や学位論文、教材や研究データ等多様なコンテンツの登録を推進することにより、研究支援機能及び情報発信機能を向上させる。</p>	III	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルなどの全学共同利用する研究基盤資料を計画的・安定的に提供するため、R2年度整備費を確保した。またそれ以降の契約方針を策定作業中。 ・「学術成果リポジトリ」のコンテンツ収集に努め、その公開を推進した(登録総数:30,723件(R2、3月末現在))。コンテンツは紀要論文、学術雑誌論文、学位論文を中心に、一般雑誌記事、会議発表論文、会議発表資料、研究報告書、テクニカルレポート等多様な形態を含む。登録総数30,723件のうち、英語論文は7,640件で約25%、学術雑誌掲載論文に限れば5,661件のうち英語論文は3,889件、約69%。 ・オープンアクセス推進WGの成果として、KUID登録論文1,877件の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち588件について登録依頼。またリポジトリニュース「Kernel通信」を2回発行し、オープンアクセスの基礎知識等掲載してその周知につとめた。10月のオープンアクセスウィークには広報を教員ポストに配布。 ・博士課程院生対象のオープンアクセス説明会を2研究科で2回開催。また若手研究者・大学院生を対象にした学術英語スキルアップセミナーでも(参加者48名)、オープンアクセスについて説明を実施。 ・学内のオープンアクセス・オープンサイエンス関連業務担当者を対象に研修会を9/30に開催し、36名参加。加えて館内で勉強会を2回実施し、図書館職員計43名が参加した。 ・収蔵スペースの有効活用を図るため、重複雑誌等の廃棄を実施。(8館で計24,412冊廃棄) ・増床や集密書庫の設置による収蔵能力拡大を予算要求したが不採択となった。 ・神戸大学出版会は今年度3冊出版、他にも企画提案書を複数受領しており今後3冊出版予定、事業は着実に進捗中。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術成果リポジトリの年間登録数(R1年度)は2,851件で、昨年度の1,796件より約59%も増加した。 ・学術成果リポジトリの年間ダウンロード数(R1年度)は1,445,459で、昨年度の1,123,309より28%増加した。 ・KUID登録論文の著作権調査を実施し588件を登録依頼した結果、230件を登録できた。 ・オープンアクセス・オープンサイエンス研修会、回収した25枚のアンケート結果で92%から肯定的な評価を得た。

全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>○国際都市神戸に立地する拠点大学として、社会と協働した教育研究を実践し、その成果を積極的に社会に還元するとともに、地域社会の諸課題の解決や地域の活性化を担う人材育成を実施する。</p> <p>中期計画</p> <p>10-4: 図書館が所蔵する、阪神・淡路大震災関連資料を網羅的に収集した「震災文庫」、他に現存しない記事を多数含む明治末から戦前の全文データベース「新聞記事文庫」等の特色ある資料を、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」や国会図書館等と連携しながら、電子的発信を含む多様な手法により公開し、社会及び地域への貢献を実施する。</p> <p>年度計画</p> <p>・【10-4-1】 教育研究成果を社会に還元するため、「震災文庫」や「新聞記事文庫」等の図書館所蔵資料や学内研究成果のデジタル化を推進し、デジタルアーカイブにおける公開を継続するとともに、阪神・淡路大震災25年に際し「震災文庫」の所蔵資料による資料展を開催する。</p>	<p>III</p>	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子図書館事業により、「震災文庫」の震災関係資料、「新聞記事文庫」などの経済関係資料及び学内研究成果等のデジタル化を推進し図書館HPで公開。(震災デジタルアーカイブ、メタデータレコード、総数:299,212件(R2,3月末現在)、入力件数:3,088件(R1年度)、新聞記事文庫デジタル化記事件数、累計311,113件(R2,3月末現在)) 震災文庫における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開及び、「人と防災未来センター」「兵庫県立図書館」との横断検索システムの構築や国会図書館と連携した東日本大震災アーカイブへのデータ提供等他機関との連携を継続中。(震災文庫資料総数:60,595(R2,3月末現在)、新規受入資料数:1,304(R1年度)) 国際教養教育院の授業(総合教養科目「阪神・淡路大震災A」「同B」)の各1回目の中で、震災文庫の紹介を実施。 国文学研究資料館の構築する古典籍データベースに収録公開のための古典籍電子化として、H28～H30に電子化した857点(2,072冊)を、本年7月に本学デジタルアーカイブにて画像公開、所蔵資料の電子化公開を推進した。また本年度も地理、文学、歴史、医学等の古典籍401点(1,237冊)の電子化を実施。 当館所蔵の希少資料『大阪商工新報』『大阪商工新聞』『大阪メリヤスタオル商工新聞』の電子化画像をデジタルアーカイブにて公開(R2年2月)。 資料展「阪神・淡路大震災25年 あのとことこれから」(会期:10/11～2/4)を開催。また阪神・淡路大震災発生日にあわせ、人文学研究科地域連携センター主催の学生による震災資料展『草の根市民メディアからの発信ー「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災』を併設した(会期:1/16～2/4)。 昨年度の資料展「古典籍さまざま ～近世の出版物より～」の巡回展を総合・国際文化学図書館で開催(会期:4/5～4/27)。 学内他部局による展示を社会科学系図書館展示ホールにて受入。 海事巡回展「和船の活躍した時代」(「神戸大学サテライト巡回展」の一環、主催:海事博物館、H31,3/8～5/10、R2,3/13～4/30) 附属学校部10周年記念式典に伴うパネル展示(5/11～7/30) 神戸大学史・巡回展「新制「神戸大学」の誕生ー新制大学発足70周年記念ー」(主催:大学文書史料室、2/7～3/9) 一般市民への図書館開放や資料の館外貸出サービスを継続実施中。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災文庫HPトップページアクセス数、20,037、うち18,107(約90%)は学外からのアクセス。(R1年度) 新聞記事文庫HPトップページアクセス数、71,190、うち69,203(約97%)は学外からのアクセス。本文アクセス数261,053件(R1年度) 電子化した古典籍、195点に対し1,381件の本文アクセス(R1年度) 資料展「阪神・淡路大震災25年 あのとことこれから」、読売新聞(11/23朝刊神戸版)と神戸新聞(12/12夕刊)より取材を受け記事掲載され、NHK神戸放送局(12/17「Live Love ひょうご」他ニュース)と朝日放送(1/18「おはよう朝日土曜日です」震災特集)より取材を受けテレビ放映された。 資料展「阪神・淡路大震災25年 あのとことこれから」、回収した437枚のアンケート結果において、87%が内容をよかったと評価している。
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>2. 情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p> <p>○社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の様々な活動及び成果等を国内外に広く効果的な手段で情報発信する。</p> <p>中期計画</p> <p>26-1: 社会への説明責任の観点から、神戸大学における教育研究活動の状況や自己点検・評価に関する情報等を関係者にわかりやすく伝える形式で公表するとともに、大学ポータルサイトの活用や大学の歴史的な文書等を一般利用に供するなど、積極的な情報発信を行う。</p> <p>年度計画</p> <p>・【26-1-2】 大学の歴史的な文書等の一般利用の促進を図るため、展示会の開催、所蔵資料のデジタル化、国立公文書館との連携による横断検索目録の充実等を行うとともに、特定歴史公文書等を活用した各種関連事業を行う。</p>	<p>III</p>	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度事業計画に基づき、全学から移管された歴史公文書等571件の受入れを4月から6月に行うとともに、原則受入れ後1年以内に、一般の利用に供するまでの専門業務を実施し、令和2年3月から利用を開始した。 本学法人文書3,749件を対象に全学の文書管理者との移管協議を実施し、次年度の移管対象を決定した。 新任教職員に必要な文書管理に係る基本的な知識技能を習得させるため、新任教職員研修(4/9)に講師を派遣した。 全教職員を対象に、文書管理の重要性に関する意識啓発と文書管理に係る基本的な知識技能の向上を図るため、総務部総務課と協同してe-ラーニングを活用した法人文書管理研修を実施し、教材の作成を担当した(受講者219名)。なお、今年度より初めて理解度テストを導入した。 文書管理従事者に必要な専門的知識技能を習得させるため、総務部総務課と協同して文書管理者向けの法人文書管理研修を実施し、教材の作成を担当した(受講者数は上記219名に含まれる)。 文書館専門業務に必要な知識技能を習得及び向上させるため、室員研修を3回実施した(受講者計11名)。 不正競争防止法等の一部を改正する法律(平成30年法律第33号)の施行に即応して規程等を整備した(7月施行)。 神戸大学史についての常設展を実施するとともに(来場者4,743名)、新制大学発足70周年にちなんで特別展1回(テーマ「新制「神戸大学」の誕生ー新制大学発足70周年記念ー」、会場:百年記念館1階展示ホール、会期:10/24-11/15、来場者1,013名)、及び巡回展3回((1)会場:海事博物館、会期:11/27-12/11、来場者171名、(2)会場:東京六甲クラブ、会期:1/6-1/27、来場者650名、(3)会場:社会科学系図書館展示ホール、会期:2/7-3/9、来場者4,047名)を開催した。 他機関等からの見学・視察を受け入れた(3機関28名)。 利用度の高い神戸高商『校友会報』10冊242コマのデジタル画像を作成し、11月よりインターネットでの提供を開始した。また、新制大学発足70周年を記念して、現存唯一の「昭和二十四年七月(第一回募集)神戸大学各学部入学案内」(全学部分計8枚)のデジタル画像を作成し、3月よりインターネットでの提供を開始した。さらに、史料原本保護のため、劣化が著しい『神戸大学新聞』原紙7件、同マイクロフィルム4巻、大正期から昭和初期の旧制神戸高等商業学校卒業アルバム等のデジタル画像を作成した。 国立公文書館など全国の公文書館等全19館との横断検索による連携を充実させるため、3月末までに目録情報2,337件を追加提供した。 大学史及びアーカイブズ学関連授業3科目計7回に講師を派遣した。 学内各種記念事業に協力して、附属学校部創立10周年記念パネル展示(8/6-9/30)、医学部医学創設75周年・神戸病院創立150周年記念歴史パネル展示(9/1記念式典、10/26ホームカミングデー)、経済経営研究所100周年記念連続シンポジウムにおける記念展示(9/6)、文学部創立70周年記念同窓会誌(9/30刊行)、工学部100周年記念事業募金趣意書(10月)の作成にそれぞれ協力した。また、経済経営研究所100周年記念事業に協力して記念シンポジウムに講師を派遣するとともに、同記念事業『水島鏡也校長卒業生推薦書全集』(全6巻、10/1刊行)の作成にも協力した。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケート結果によれば、回答者13名中、とても満足9名(69%)、満足4名(31%)、であり、総合的な満足度は100%であった。また、史料活用成果物として『水島鏡也校長卒業生推薦書全集』(全6巻)が経済経営研究所から刊行された(10/1刊行)。 室員研修の受講者アンケート結果によれば、回答者11名中、満足10名(91%)、ある程度満足1名(9%)、であり、また理解した11名(100%)であり、総合的な満足度・理解度は100%であった。 常設展の来場者アンケート結果によれば、回答者23名中、とても満足6名(26%)、満足14名(61%)、やや不満3名(13%)であり、総合的な満足度87%であった。 特別展「新制「神戸大学」の誕生ー新制大学発足70周年記念ー」の来場者アンケート結果によれば、回答者122名中、とても満足56名(46%)、満足64名(52%)、やや不満2名(2%)であり、総合的な満足度98%の高評価を得た。 依頼に応じて本学の歴史に関する講演会6回(学内2回、学外4回)に講師を派遣した。 愛媛県内子町内子自治センターなど学外2機関からの要請に応じて本学の歴史に関する史料調査研究に協力した。 執筆依頼に応じて史料調査研究を実施し、本学広報誌2回、同窓会誌4回、地方自治体広報誌1回への寄稿を行った。

<R1学生選書ツアーアンケート> ツアー実施日：【店頭】令和元年6月21日(金) 10:00-16:30

申込者：19名、参加者：14名(5名来ず)、アンケート回答者：14名

1.所属学部と学年

学部・研究科

文学部	1
国際文化学部	1
国際人間科学部	1
発達科学部	1
経済学部	1
理学部	2
工学部	1
農学部	4
国際文化学研究科	1
法学研究科	1

14

学年

1	2
2	2
3	6
4	1
5	1
M1	0
M2	1
D3	1

14

2.学生選書ツアーを何で知りましたか？(複数回答あり)

a.ポスター	2
b.ちらし	1
c.図書館員からのメール	6
d.教員の紹介	
e.友人の紹介	1
f.図書館員の紹介	
g.図書館ウェブサイト	1
h.神戸大学ウェブサイト	
i.神大図書館twitter	4
j. その他アカウントのTwitter	
k. 総合図書館2階モニターの画像	1
l.その他	

※ポスター掲示場所：社会系図書館1、国文図書館と自然系図書館1

※ちらしの場所：図書館前のホワイトボード

3.学生選書ツアー実施時期は何月ごろがよいですか？(複数回答あり)

5月頃	3
6月頃	4
7月頃	4
10月頃	2
11月頃	1
その他(選択項目なし)	4

※回答：いつでもよい、長期休み以外ならいつでも、何月でもよいが平日の午前

4.店頭選書やガイダンスのようなイベントに参加しやすい曜日は？(複数回答あり)

月	2
火	1
水	1
木	2
金	10
その他(選択項目なし)	3

※回答：いつでもよい2

5.選書金額(約2万円)は適当でしょうか？

a.多い	0
b.適当	13
c.少ない	1

14

6.参加理由は？(複数回答あり)

a.ちらし・ポスターを見て興味を持った	9
b.実際に本屋で探すのが楽しそうだった	9
c.図書館での選書に不満があった	1
d.前回行けなかった	
e.その他	1

7.今回の学生選書ツアーはいかがでしたか？

a.満足	11
b.満足ではない	2
どちらともいえない	
その他(選択項目なし)	1

※理由：もう少し時間がほしかった1、金額が少なく欲しい本が十分に買えなかった1

8.その他、図書館に今後期待する企画などご自由にご記入ください

- ・またこのツアーがあれば参加したいです。
- ・とても良いと思います。いつもありがとうございます。
- ・POPづくりに人が来るといいですね。
- ・また選書ツアーを開催してほしい。
- ・うりこグッズのもらえる企画をもっと考えてほしいです。(※今回は配布資料を入れたうりこのクリアファイルを参加者にプレゼントした)
- ・次回楽しみにしています!!
- ・普段書庫に蔵書している書籍展

全学共通教育必修科目「情報基礎」
図書館担当コマ「第5回 情報の活用」
学生アンケート集計結果

集計: 選択項目 回答数: 2365名

(1) 図書館ホームページの利用方法について理解できましたか。	回答数	割合	
1.理解できた	1727	73.1%	96.7%
2.少し理解できた	561	23.7%	
3.少し難しかった	49	2.1%	2.7%
4.難しかった	14	0.6%	
無回答	14	0.6%	
(2) 図書館での情報検索の方法について理解できましたか。	回答数	割合	
1.理解できた	1736	73.4%	96.4%
2.少し理解できた	544	23.0%	
3.少し難しかった	49	2.1%	2.7%
4.難しかった	14	0.6%	
無回答	22	0.9%	
(3) 引用のルールなどアカデミックマナーについて理解できましたか。	回答数	割合	
1.理解できた	1437	60.8%	93.7%
2.少し理解できた	777	32.9%	
3.少し難しかった	95	4.0%	4.8%
4.難しかった	18	0.8%	
無回答	37	1.6%	
(4) スライド資料は、授業を理解する上で役に立ちましたか。	回答数	割合	
1.大変役に立った	1562	66.1%	95.2%
2.少し役に立った	690	29.2%	
3.あまり役に立たない	53	2.2%	2.5%
4.全く役に立たない	7	0.3%	
無回答	53	2.2%	
(5) 今後、学修・研究のために図書館を利用したいと思いますか。	回答数	割合	
1.ぜひ利用したい	1676	70.9%	96.9%
2.少し利用したい	615	26.0%	
3.あまり利用するつもりはない	35	1.5%	2.1%
4.全く利用したくない	14	0.6%	
無回答	25	1.1%	

集計: 自由記述 回答人数(延べ数): 252(277) ※1人で複数回答あり。

分類の内容	回答数	割合*
1. 図書館の使い方やアカデミックマナーなど、役に立った	34	12%
2. 説明や内容がわかりやすかった	41	15%
3. これからも図書館を使いたい	56	20%
4. 難しい、分からない	1	0%
5. 簡単すぎる	1	0%
6. 眠い、疲れる、長すぎる、無駄だ、暑い、寒い	12	4%
7. 講師やTA、授業について	23	8%
8. 図書館への要望	4	1%
9. 図書館ホームページ、検索について	25	9%
10. その他	24	9%
未分類. 単なる謝礼や感想、もしくは無意味な内容	56	20%
計	277	

*回答数に占める割合

2019年度 初年次セミナー
(実施期間:平成31年4月12日-令和元年6月24日)
担当教員アンケート集計結果 (回答総数:36)

Q0_部局	全回答数	割合
文学部	3	8.33%
国際人間科学部	9	25%
法学部	6	16.67%
経済学部	7	19.44%
経営学部	1	2.78%
理学部	1	2.78%
医学部	0	0%
保健学科	0	0%
工学部	2	5.56%
農学部	0	0%
海事科学部	7	19.44%

【選択式回答】

Q1_初年次セミナーにて図書館に授業を依頼するのは今回何回目ですか？	全回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 はじめて	11	30.56%
2 2年目	3	8.33%
3 それ以上	6	16.67%
4 学部で依頼している	16	44.44%

■ はじめて
 ■ 2年目
 ■ それ以上
 ■ 学部で依頼している

Q2_初年次セミナー授業の実施において、図書館担当授業は役立っていますか？	全回答数	割合
0 無回答	1	2.78%
1 役に立っている	31	86.11%
2 どちらかという役に立っている	4	11.11%
3 どちらでもない	0	0%
4 あまり役立たない役立っていない	0	0%
5 役に立っていない	0	0%

■ 無回答
 ■ 役に立っている
 ■ どちらかという役に立っている
 ■ どちらでもない
 ■ あまり役立たない役立っていない

Q3_今回の図書館担当授業は、受講した学生にとって有意義だと思いますか？	全回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 大いに思う	32	88.89%
2 どちらかと思う	3	8.33%
3 どちらともいえない	1	2.78%
4 あまり思わない	0	0%
5 全く思わない	0	0%

■ 大いに思う
 ■ どちらかと思う
 ■ どちらともいえない
 ■ あまり思わない
 ■ 全く思わない

【自由記述】

Q2_欄外への記述

初年次セミナーの授業は大学共通テキストに即したもので、図書館ツアーと直接に関係がありませんが、学生の大学生活のスタートに当たって、図書館ツアーはやはり不可欠だと思います。

Q4_今回の図書館担当回について、その他日頃のサービス等、神戸大学附属図書館についてご意見ご感想ご要望等、ありましたらご自由に記載をお願いします。

- ・ 図書館の利用方法の習得は学生の大学生活にとって決定的に重要な役割を果たしますので、これからは是非お願いしたいと思います。この度は有難うございました。
- ・ 利用しやすい良い図書館だと思います。学生も喜んでいました。ありがとうございました。
- ・ 安易にインターネット上の情報に頼らず、きちんと図書館にある本を読むことは、大学生の学びにとって重要だと思います。
- ・ 先日の図書館ツアーでは大変お世話になりました。学生たちがしっかりと利用法を聞いていたので安心いたしました。次年度もぜひ継続していただくと幸いです。
- ・ 学生にとって情報分野の知識は非常に重要です。今後も専門分野の教員ではカバーできない部分を補完いただければ大変助かります。どうぞよろしく願いいたします。
- ・ レファレンスの機能について、学生がもっと知っていた方がよいと思っています。本日はありがとうございました。
- ・ 引き続き、実施していただくことを期待しています。
- ・ 来年度の初年次セミナーの3回目についても、今年も同様に講演いただくかについては、来年度の教務委員の引継ぎの際に、次期教務委員と相談いたします。非常に有益な内容ですので、情報基礎での内容と重なりはしますが、個人的には継続しても良いかとは思いますが、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。
- ・ 講義に関しては、特に意見はございません。お忙しい中、御対応頂き、感謝申し上げます
- ・ 本日は、学生にとって非常に有意義な経験になったと思います。特に、新入生にとっては貴重な経験となったかと存じます。3年生以上になっても、十分に図書館を活用できていない学生が散見されるので、上級生に対しても活用することを伝える機会をもうけると、より一層良いかと存じます。本日は、誠にありがとうございました。

- ・ 新入生からは、「書庫に入って、初めて大学に来たことを実感した」との感想がありました。来年度以降も、ぜひ図書館ツアーを継続していただきたいです。今後とも、よろしく願い申し上げます。
- ・ 図書検索方法のみならず、ラーニングcommonsや会議室の利用など学生の学習利便に関するご案内があつて、大変よかったです。
- ・ 図書館内の案内説明の際、狭いスペースに学生が縦に並んでいるため、列の先頭付近でスタッフの方が説明されますと後方の学生には説明が聞き取りにくいように感じられました。そこで、列の先頭ではなく中央付近で説明するか、1クラスを2グループに分割してツアーを実施したほうが良いのではないかと思います。
- ・ 大変分かりやすく、図書館の利用方法や設備をご案内いただきました。また機会があれば利用させていただこうと思います。
- ・ 今回の図書館ツアーですが、以前に図書館ツアーをしていただいた際には、実際に蔵書の検索作業を学生にしてもらってありました。時間の関係があつたとは思いますが、今回は説明だけでしたので、この点が少々物足りなかったように思います。また、私にはさみしくもありますが、現在の学生は図書よりも、雑誌論文を利用する機会が多いと思いますので、電子ジャーナルの検索説明をしていただければよかったですように思います。ただ、前回はいれなかった書庫に今回、入れていただいたことはよかったですと思います。学生の何名かが書庫の中の古書の山に驚いていたようです。古書においては、私にはとても好きなおいなのですが、学生の中にもそうした子たちがいるということでしょうか。
- ・ ご説明していただいた方はもちろん、図書館のすべての方に丁寧にご対応いただき感謝しております。もし貴重な資料や珍しい図書などがあり、その一つでもお見せいただくことができれば、学生の印象に残るのではないかと思います。昔、オクラホマ大学の図書館でニュートン自身が書き込みはしているニュートンのプリンキピアの初版本を見せていただいたことを今でも記憶しているからです。
- ・ 本日は誠にお世話になりました。まずは、今年のツアーと昨年までのツアーとの違いが何点か気になりました：
 - 1) 学生20人(初年次セミナーの1クラス)全員がまとまって回ると、最後尾の学生にとっては説明が聞きづらい、パソコン画面がみにくい、等々あまり理想的ではなく、昨年までのように10人ずつの2グループに分けて行っていただいたほうがよいのではないのでしょうか。
 - 2) 昨年までは、書庫の蔵書の中身について、もう少し詳細な説明をしていただいていたように思えます。学生は書庫を通過中「かっこいい」という感想を漏らし、もう少し見せてほしいように思っていました。
 - 3) 2階・閲覧室は素晴らしい部屋で、より強くアピールしたほうがよいと思います。使用中であり、あまり音をたてないほうがよいことにはわかりませんが、ご限られた時間ですので、座ってみたり、もう少しあの部屋のよさが実感できるような見せ方をさせていただいたほうがよいのではないのでしょうか。
 - 4) 1階西側のラーニングcommonsは、昨年は中に入って見学できました。こちら閲覧室同様、使った際の雰囲気をもっと感じてもらったほうが、学生からすれば使うハードルが下がるのではないかと思います。
 本年も本当にお世話になりました！ありがとうございました！！
- ・ 検索の結果、研究室にある本や雑誌、学内の他図書館にある本や雑誌は、海事図書館で借りる、見ることができるのか、といった情報もあると思います。
- ・ 全国紙を学内で電子閲覧できることは教えた方がよいと思います。また、今は不要ですが、電子ジャーナルというものも相当使えると言うことは言ってもよいと思います。ちなみに、学外でも図書館を通じて借り出しができるものもかなりあるはずなので(他大学図書館、国会図書館、JETRO図書館)、そういった情報もあった方がよいとも思いました。
- ・ 図書館HPの活用について、例えば新聞記事検索などは1年生がすぐにも役立てられるものですので、紹介いただけると良いかと思えます。多少時間に余裕があつたようですのでご検討ください。
- ・ 実行可能な範囲で、図書館は利用者の立場を十分に考えてくれて、良くやっているといます。実行可能かどうかを棚に上げて言いますと、夜11時くらいまで開館して欲しいです。
- ・ 今回の形式は学生にとって非常に有意義だったと思います。ご準備、本当に有難うございました。
- ・ 今回の件に関しましては、特にありません。ネット上で解決される調べ物も増えていく一方ですが、自主学習する学生にとって変わらず身近な存在であり続けていただけたらと願っております。
- ・ 特にございません。いつも良くしていただき感謝しております。
- ・ 学生共々お世話になっており感謝申し上げます。
- ・ 神戸大学附属図書館について 文献検索の手法と書庫での文献の検索法を詳細に教えて頂いております。特に書庫に入るのははじめての学生がほとんどで、それだけでも良い体験かと思えます。図書館二階のパソコンスペースをお借りしての検索実習は、説明を受けながら操作をすることができるため、取り組みやすくなっています。蔵書検索は行ったことがあるようですが、論文を探すのは初めてなので、その場で改めてご説明頂き理解が深まったようです。スペースを予め確保して頂いていてありがとうございます。ネット経由で情報を得る時代において、世界初の報告例を知ったり、最新の報告を得たりするのは容易になりました。その点、図書館のHPの充実によって情報を得やすい環境にあると思います。その反面、書籍に触れる機会が少なくなり、体系的にかつ全体像を捉えるトレーニングが少なくなってきたと感じております。今回のように、図書館に足を運び、書籍や原本に触れる機会は重要で、お時間をいただき感謝しております。
- ・ 今回は急な依頼にもかかわらずご対応くださり、また、簡潔で要を得たご説明をしてくださり、有難うございました。人数を小規模に抑えてくださったので(一つのグループにつき10名程度)、学生一人ひとりに説明が行き届きやすかつたように思いました。メモをとりながら熱心に聞いている学生もいました。資料を探索するとき、そのほか、いつも図書館には柔軟にご対応いただけており、大変助かっています。図書館の各種案内なども親しみやすくなつて、学生の利用者も増えているような印象を受けます。いつも有難うございます。

2019年度「学術英語スキルアップセミナー」アンケート集計

Q1 大和先生の講演について	人数	割合
(1)参考になった	29	60.42%
(2)やや参考になった	12	25.00%
(3)普通	2	4.17%
(4)あまり参考にならなかった	0	0%
(5)参考にならなかった	0	0%
(6)参加していない	4	8.33%
無回答	1	2.08%
	48	

Q2 保田先生の講演について	人数	割合
(1)参考になった	39	81.25%
(2)やや参考になった	4	8.33%
(3)普通	2	4.17%
(4)あまり参考にならなかった	0	0%
(5)参考にならなかった	0	0%
(6)参加していない	2	4.17%
無回答	1	2.08%
	48	

Q3 図書館職員の講演について	人数	割合
(1)参考になった	21	43.75%
(2)やや参考になった	11	22.92%
(3)普通	4	8.33%
(4)あまり参考にならなかった	1	2.08%
(5)参考にならなかった	1	2.08%
(6)参加していない	2	4.17%
無回答	8	16.67%
	48	

Q4 講演の形式について	人数	割合
(1)今回のように複数テーマがよい	33	68.75%
(2)テーマは一つの方がよい	4	8.33%
(3)どちらでもよい	7	14.58%
無回答	4	8.33%
	48	

Q6 開催時期	人数	割合
(1)適切だった	37	77.08%
(2)他の時期がよい	8	16.67%
無回答	3	6.25%
	48	

Q7 セミナーの長さ	人数	割合
(1)適切だった	32	66.67%
(2)長すぎる	8	16.67%
(3)短すぎる	2	4.17%
その他	1	2.08%
無回答	5	10.42%
	48	

Q8 知ったきっかけ	人数	割合
(1)図書館のチラシ・ポスター	8	16.67%
(2)学内のチラシ・ポスター	4	8.33%
(3)図書館のホームページ	9	18.75%
(4)大学のホームページ	2	4.17%
(5)先生の勧め	14	29.17%
(6)知人・友人から	1	2.08%
(7)図書館ツイッター	0	0%
(8)その他のSNS・メルマガ	2	4.17%
(9)その他	4	8.33%
無回答	4	8.33%
	48	

参加者の所属	人数	割合
保健	8	16.67%
農	7	14.58%
経営	6	12.50%
理	4	8.33%
法	3	6.25%
工	3	6.25%
海事	3	6.25%
イノベーション	2	4.17%
国際文化	1	2.08%
発達	1	2.08%
経済	1	2.08%
医	1	2.08%
無回答	8	16.67%
	48	

参加者の身分	人数	割合
教員	2	4.17%
職員	3	6.25%
研究員	1	2.08%
博士	10	20.83%
修士	16	33.33%
学部生	5	10.42%
研究生	2	4.17%
無回答	9	18.75%
	48	

※その他⇒事務、研究科からのメール:4

神大図書館お昼休みトークイベント2019「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」ミニアンケート
第1回 藤野一夫先生「多文化が共生する寛容な国際都市ベルリンの魅力」

参加者数：19

アンケート回答数：13

1)あなたのご身分について、当てはまるものを選んでください。

学部1回	8
学部2回	1
学部3回	0
学部4回	0
院（修士）	0
院（博士）	1
職員	1
学外	1
無回答	1

13

2)学生所属内訳

国際人間	2
文	2
経済	2
経営	1
理	1
工	1
農	1

10

3)本日のトークイベントはいかがでしたか。

満足	9
やや満足	3
ふつう	1
やや物足りない	0
物足りない	0
無回答	0

13

◆感想 自由記述

【満足】

- ・人の住む、民族の混じり合うベルリンの側面がかいま見えて楽しかった。（経済1）
- ・テンポがよく内容も様々でとてもよかったです。（文1）
- ・壁による多文化というのは初めて知った。（農1）
- ・ベルリン国立バレエ団に知人が入団し活躍されているので興味があり参加しました。とても面白かったです。（国際人間2）

【やや満足】

- ・ベルリンのかべが、ベルリンの多文化性につながっているというのはおもしろかった。（理1）

【ふつう】

- ・途中からきたから内容はわからない。（一般）

4)今後図書館で実施してほしいイベントなどございましたら、教えてください。

- ・ムガル帝国に関する展示が見てみたい。（経済1）
- ・講師による図書紹介。（農1）
- ・外国の音楽。（職員）

神大図書館お昼休みトークイベント2019「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」ミニアンケート
第2回 市田良彦先生「人文系学者にとって留学すること」

参加者数：11

アンケート回答数：4

1)あなたのご身分について、当てはまるものを選んでください。

学部1回	0
学部2回	1
学部3回	1
学部4回（またはそれ以上）	1
院（修士）	0
院（博士）	0
職員	1
学外	0
無回答	0

4

2)学生所属内訳

国際人間	2
国際文化学部	1

3

◆感想 自由記述

【満足】

・日欧の文化事情や研究者コミュニティの実態など、研究者の先生のご経験あってのお話が伺えてとても興味深かったです。（職員）

【ふつう】

・人文科学の研究の門戸が近年狭くなってきているが、同時に、逆に海外に行くチャンスも増えているからこそ、視野を広げるに当たって、留学することには大きな意味があるということを理解した。（国際人間2）

3)本日のトークイベントはいかがでしたか。

満足	3
やや満足	0
ふつう	1
やや物足りない	0
物足りない	0
無回答	0

4

神大図書館お昼休みトークイベント2019「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」ミニアンケート
第3回 シュラトフ・ヤロスラブ先生「モスクワ：東西文化の交差点」

参加者数：18

アンケート回答数：12

1)あなたのご身分について、当てはまるものを選んでください。

学部1回	5
学部2回	1
学部3回	1
学部4回（またはそれ以上）	1
院（修士）	1
院（博士）	1
職員	2
学外	0
無回答	0

12

2)学生所属内訳

国際文化学部	1
国際文化学研究科	2
海事	1
文	1
経済	1
法	1
理	1
農	2

10

3)本日のトークイベントはいかがでしたか

満足	8
やや満足	3
ふつう	1
やや物足りない	0
物足りない	0
無回答	0

12

◆感想 自由記述

【満足】

- ・とても楽しかったです。（職員）
- ・ロシアについてきくことができ楽しかったです！（文2）
- ・途中からでしたが、楽しかったです。（経済1）
- ・ロシアについての知らなかった知識がふえました。（国文M）
- ・途中からではありましたが、民族等を踏まえた話が興味深かったです。（国文4）

【やや満足】

- ・ロシアの食文化についても聞いてみたい。（農1）
- 4)今後図書館で実施してほしいイベントなどございましたら、教えてください。

- ・イスタンブールを取り扱ったイベント。（海事1）
- ・グロ文の先生の授業を他学部からききにいくのは難しいので、このようなトークイベントを開催していただくのはとても楽しみにしています。（文2）
- ・中国の歴史について。（農1）

オープンサイエンス研修会アンケートまとめ

神戸大学附属図書館

日時：2019年9月30日（月）14:00-16:30

参加者：36名

アンケート収集枚数：25枚

1. ご身分/ご所属についてご回答ください。

身分について

教員	0	
職員（図書館以外）	0	
職員（図書館）	22	
その他	2	URA1/学部生 1
未回答	1	

所属について

神戸大学	16	
神戸大学以外	4	大阪大学 2/大阪教育大学 1/空欄 1
未回答	5	

2. 本日の研修会の内容についてご回答ください。

○研修会「オープンサイエンスと学術機関リポジトリ」

大変有益だった	8
有益だった	15
物足りなかった	0
思っていた内容と違った	1
未回答	1

どのような点が有益でしたか／どのような点が物足りなく感じましたか

- クローズな研究データの権利にも図書館が関わらざるを得ない状況だと分かりました。
- 断片的に得ていた情報を整理して提示していただき、大変参考になりました。講師の方々がざっくばらんにお話しくださり、和やかな雰囲気みなさん発言されていて分かりやすかったです。

- 今後どのように進んでいくのかを知ることが出来た。
- オープンサイエンス全体について、また GakuNin RDM や JC の機能について具体的に知ることが出来て有益だった。
- NII の方々に直接お話しいただき、また質疑応答を通じてぼんやりとしていた部分がクリアになりました。
- 現状のオープンサイエンスについて概要が良く分かった。研究データ管理についてもオープンのものでクローズなものをしっかり管理すべきことが分かった。
- オープンサイエンスの現況を全く知らなかったため、勉強になりました。
- 今後のデータ管理のあり方を教えて頂いたので良かったです。
- 他大学の事例（GakuNin RDM の実証実験など）について知ることが出来たこと。
- 機関リポジトリ（特に大学のリポジトリ）の役割が変化しつつあることを初めて知りました。現在の動向を分かりやすくご説明いただきありがとうございました。
- 全体の流れが分かりました。
- GakuNin RDM の説明をお聞きできたのがよかった。
- 専門用語が多く難解でした。NII の方々と一般的な図書館員の（OS を語る上で）必要となる知識量の差を感じました。

わかりにくい点・内容／理解できなかった点・内容などがありましたらお書きください

- 結局、リポジトリはどのように研究データに対応していけばよいか、細かく述べていたが、こちらがリポジトリ担当の初心者で知識が少ない分、具体的にイメージがわかなかった。
- 大学の研究者の方々に学術情報の公開を図書館で対応するのに（リポジトリ）今一つどのように進めてよいのかなあと思いました。
- GakuNin RDM 後半の意見交換会で少し分かってきましたが…
- 業務では、直接携わらないので聞いてもよくわからない箇所がたくさんあった。何回聞いても難しい。

令和元年度 資料展「阪神・淡路大震災25年 あのときとこれから」
 (会期: 令和元年10月11日～令和2年2月4日)
アンケート結果(回答数:92(会場で回収) 別途菊地先生の授業で提出345枚あり)

0 来場者について(菊地先生の授業で回収58人分は除く)

1 ご所属	回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 神戸大学(無回答)	0	0%
2 神戸大学(学生)	14	15.22%
3 神戸大学(院生)	2	2.17%
4 神戸大学(教員)	0	0%
5 神戸大学(職員)	2	2.17%
6 神戸大学(その他)	2	2.17%
7 学外(無回答)	0	0%
8 学外(卒業生)	13	14.13%
9 学外(一般)	32	34.78%
10 学外(大学生)	1	1.09%
11 学外(院生)	0	0%
12 学外(高校生)	12	13.04%
13 学外(その他)	14	15.22%

■所属のその他回答
 大学教員
 中学校教員
 神戸市教員
 元教員
 元職員
 もと東工大の防災研究者
 公務員
 保護者
 見学引率者(司書教諭OR学校司書)2
 中学生5

■お住いのその他回答
 大阪府5
 大阪
 大阪市
 大阪府茨木市
 京都市2
 京都2
 滋賀県
 滋賀県草津市
 岡山市
 香川県
 名古屋
 愛知
 神奈川県
 横浜市青葉区
 東京都
 東京
 福岡県
 宮崎県宮崎市
 盛岡市
 北海道

ポスター掲示場所
 社会科学部図書館4
 人文科学図書館
 神戸大学
 灘図書館 2
 六甲道勤労会館
 県庁?県民会館?
 中央区
 中学校掲示ポスター
 チラシ配布場所
 六甲道勤労センター
 人と防災未来センター
 伊丹市役所
 忘れました。失礼

2 お住まい

	回答数	割合
0 無回答	11	11.96%
1 神戸市内	40	43.48%
2 兵庫県内	13	14.13%
3 その他	28	30.43%

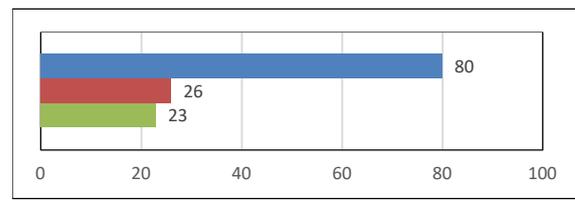
3 この展示会があることを何でお知りになりましたか?(複数回答可)※全回答のうち

	回答数	割合
1 ポスター	15	16.3%
2 チラシ	9	9.78%
3 看板	11	11.96%
4 図書館ホームページ	9	9.78%
5 ツイッター	3	3.26%
6 新聞	6	6.52%
7 ホームカミングデイ	0	0%
8 六甲祭で来館	7	7.61%
9 六甲祭のパンフ	1	1.09%
10 その他	30	32.61%

■何で知ったか?その他回答
 通りがかり、来館して 5
 授業、教員の紹介 4
 神戸新聞 3(うちデジタル版1)
 毎日新聞
 朝日新聞
 NHK 5
 テレビ
 兵庫区役所内で
 神大のHP
 ネット
 大学からのメール
 KTCのメール
 Facebookで来た方が紹介していた。
 神戸大学学生震災救援隊の者です。同団体内で広報があり、知りました。

4 興味をひいたコーナーあるいは展示物(複数回答可)

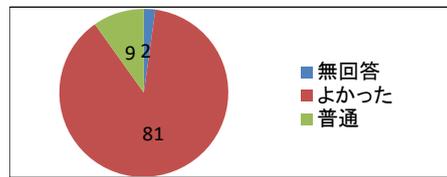
4-1 コーナー	回答数	割合
1 写真とデータでみる震災	80	86.96%
2 次の世代に伝えるために	26	28.26%
3 震災に学び、備える	23	25%
4 学生による震災資料展(割合は1/20回収分以降)	13	46.43%



4-2 展示物(別掲)

5 感想

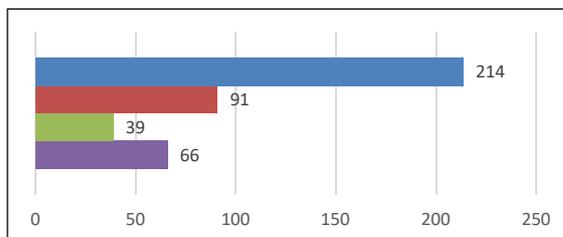
	回答数	割合
0 無回答	2	2.17%
1 よかった	81	88.04%
2 普通	9	9.78%
3 よくなかった	0	0%



菊地先生の授業で提出の345枚、集計

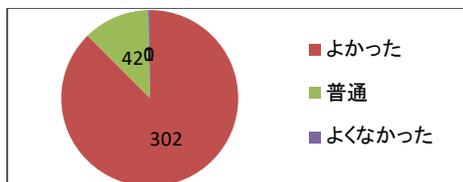
4-1 コーナー

	回答数	割合
1 写真とデータでみる震災	214	62.03%
2 次の世代に伝えるために	91	26.38%
3 震災に学び、備える	39	11.3%
4 震災文庫(授業独自の項目)	66	19.13%



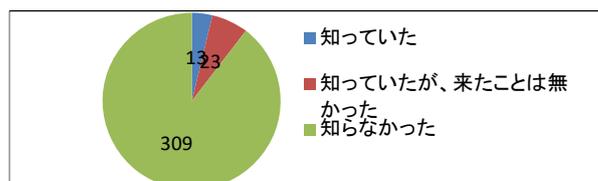
5 感想

	回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 よかった	302	87.54%
2 普通	42	12.17%
3 よくなかった	1	0.29%



※ 震災文庫の存在を知っていたか？(授業で)

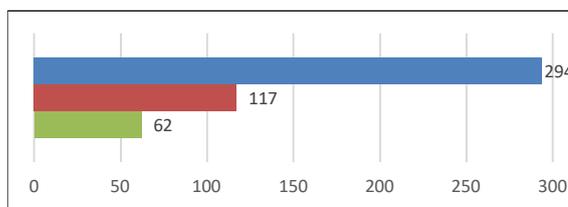
	回答数	割合
知っていた	13	3.77%
知っていたが、来たことは無かった	23	6.67%
知らなかった	309	89.57%



会場と授業の合計

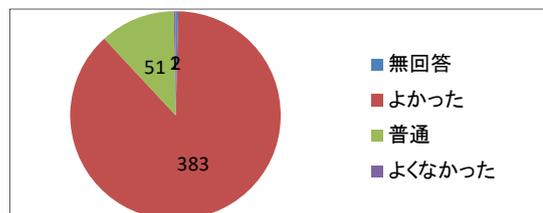
4-1 コーナー

	回答数	割合
1 写真とデータでみる震災	294	67.28%
2 次の世代に伝えるために	117	26.77%
3 震災に学び、備える	62	14.19%



5 感想

	回答数	割合
0 無回答	2	0.46%
1 よかった	383	87.64%
2 普通	51	11.67%
3 よくなかった	1	0.23%



■実施結果の集計数値

※以下[]内はH30年度の数値、()内は1日あたりの平均値

- ・会期中の開館日: 103日(10/12は台風による臨時休館で減)[67日]
- ・アンケート回収総計: 437(4.2)[132(2.0)], うち会場で回収: 92(0.9)[74(1.1)], 菊地先生の授業: 345[58]
- ・アンケート、会場で回収分の学内・学外比: 20:72(22%:78%)[28:46(37%:63%)]
- ・目録配布数総計: 533(5.2)[456(6.8)], うち会場で: 458(4.4)[294(4.4)], ホームカミングデーで: 51[90], 授業で: 24[72]
- ・学外観覧者: 1194(11.6)[609(9.1)]※ホームカミングデーを除く

附属図書館蔵書・受入等の現況(令和元年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	497,611	1,410,009	469,004	321,302	342,788	278,775	154,955	58,297	256,531	3,789,272		
	和洋区分	和漢書	355,954	680,180	246,285	205,286	266,313	124,264	72,665	50,395	199,920	2,201,262	
		洋書	141,657	729,829	222,719	116,016	76,475	154,511	82,290	7,902	56,611	1,588,010	
	遊及状況	入力済	467,323	1,286,765	335,279	286,213	290,366	206,966	97,030	57,815	256,531	3,284,288	
		未入力	30,288	123,244	133,725	35,089	52,422	71,809	57,925	482	0	504,984	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)	2,432	17,989	5,459	3,552	3,712	6,772	3,046	964	3,087	47,013		
和洋区分	国内雑誌	1,582	6,632	2,463	2,612	2,542	3,091	1,593	764	2,058	23,337		
	外国雑誌	850	11,357	2,996	940	1,170	3,681	1,453	200	1,029	23,676		
図書受入	受入図書数 (冊)	2,709	2,789	9,347	3,424	7,091	2,344	878	1,158	811	1,608	32,159	
	和洋区分	和漢書	2,623	2,034	6,009	2,708	6,455	2,078	723	1,112	781	1,288	25,811
		洋書	86	755	3,338	716	636	266	155	46	30	320	6,348
	取得手段	購入(一般財源)	2,666	1,820	4,330	1,926	1,118	1,523	318	759	390	881	15,731
		補助金による購入	29	807	3,239	737	1,460	462	319	209	75	249	7,586
		一般寄贈	0	141	1,150	542	4,427	101	132	124	312	404	7,333
		再受入	0	1	155	4	2	184	1	1	0	0	348
		製本編入	14	20	473	185	84	74	108	65	34	74	1,131
		所属換	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	30
	取得目的	学生用図書	2,443	309	2,526	1,411	345	629	127	559	326	646	9,321
		図書館備付	155	691	2,919	554	5,110	829	424	367	359	624	12,032
		研究室備付	111	1,789	3,902	1,459	1,636	886	327	232	126	338	10,806
	除却・移譲等による減 (冊)	5,955		1,866	8,189	508	2,449	2,926	1,174	3,750	67	26,884	
	和洋区分	和漢書	5,039		970	7,505	450	1,819	1,941	741	3,284	54	21,803
		洋書	916		896	684	58	630	985	433	466	13	5,081
	所属換による減 (冊)	30		0	0	0	0	0	0	0	0	30	
	和洋区分	和漢書	9		0	0	0	0	0	0	0	9	
		洋書	21		0	0	0	0	0	0	0	21	
	年間増加数 (冊)	-487		7,481	-4,765	6,583	-105	-2,048	-16	-2,939	1,541	5,245	
	和洋区分	和漢書	-391		5,039	-4,797	6,005	259	-1,218	371	-2,503	1,234	3,999
洋書		-96		2,442	32	578	-364	-830	-387	-436	307	1,246	
雑誌受入	受入雑誌数 (タイトル数)	81	164	1,177	335	768	216	502	381	139	220	3,983	
	和洋区分	国内雑誌	76	134	563	262	670	200	391	276	120	181	2,873
		外国雑誌	5	30	614	73	98	16	111	105	19	39	1,110
	取得手段	購入(一般財源)	81	64	930	213	249	158	137	155	82	99	2,168
		補助金による購入	0	0	33	13	0	0	0	48	2	1	97
		一般寄贈	0	100	214	109	519	58	365	178	55	120	1,718
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	73	10	14	127	15	77	0	131	77	88	612
		図書館備付	3	100	999	99	753	66	496	178	55	116	2,865
		研究室備付	5	54	164	109	0	73	6	72	7	16	506
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)	7	0	16	10	6	8	8	5	3	8	71	
	和洋区分	国内新聞	5	0	12	10	4	8	5	4	3	8	59
		外国新聞	2	0	4	0	2	0	3	1	0	0	12
	取得手段	購入	6	0	16	10	6	8	8	5	3	7	69
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	データベース(年間契約点数)	14	0	8	2	0	0	0	5	2	0	31	
	電子ジャーナル(利用可能数)					35,579						35,579	
資料購入費	一般財源資料費	374,938,421	11,360,941	121,260,332	33,336,709	14,230,844	11,498,467	11,309,998	43,266,275	8,022,298	8,358,847	637,583,132	
	図書館セグメント	学生用資料費	7,070,995	1,997,949	7,025,994	9,786,685	1,795,999	2,959,841	743,785	3,758,908	2,309,486	2,909,123	40,358,765
		その他資料費	367,002,637	0	24,721,459	0	0	0	0	0	0	0	391,724,096
	部局セグメント	館室備付	398,776	4,305,072	82,600,843	337,218	10,313,965	4,495,674	10,103,404	38,027,522	5,411,868	4,703,502	160,697,844
		研究室備付	466,013	5,057,920	6,912,036	23,212,806	2,120,880	4,042,952	462,809	1,479,845	300,944	746,222	44,802,427
	その他の財源 補助金等	7,810,918	3,677,609	25,277,156	20,110,998	13,843,354	3,893,642	765,410	4,642,063	530,556	1,981,735	82,533,441	
	図書購入費	6,732,341	12,746,230	55,802,920	16,533,631	17,826,992	7,734,103	4,127,635	6,598,102	2,347,279	6,016,341	136,465,574	
	和洋区分	和漢書	6,074,598	7,628,833	21,971,727	10,151,046	12,600,771	5,820,337	2,061,553	5,666,163	2,067,259	3,564,184	77,606,471
		洋書	657,743	5,117,397	33,831,193	6,382,585	5,226,221	1,913,766	2,066,082	931,939	280,020	2,452,157	58,859,103
	雑誌購入費	10,437,760	1,975,110	61,597,697	18,201,520	6,093,998	3,349,727	7,201,434	28,789,877	4,858,728	3,635,736	146,141,587	
	和洋区分	国内雑誌	933,673	375,836	7,140,954	4,381,569	1,222,350	1,429,053	1,073,225	3,875,163	1,555,459	1,043,198	23,030,480
		外国雑誌	9,504,087	1,599,274	54,456,743	13,819,951	4,871,648	1,920,674	6,128,209	24,914,714	3,303,269	2,592,538	123,111,107
	新聞購入費	312,228	0	1,159,262	472,800	259,428	223,152	265,521	259,428	152,184	321,038	3,425,041	
	電子資料費	365,223,353	317,210	26,129,782	10,792,382	550,000	257,354	0	11,557,684	603,320	0	415,431,085	
	その他の資料購入費	43,657	0	1,847,827	7,447,374	3,343,780	3,827,773	480,818	703,247	591,343	367,467	18,653,286	
資料購入費計	382,749,339	15,038,550	146,537,488	53,447,707	28,074,198	15,392,109	12,075,408	47,908,338	8,552,854	10,340,582	720,116,573		
電子コンテンツ作成費					990,113						990,113		
製本費	69,768		970,596	379,620	172,368	151,848	221,616	133,380	69,768	151,848	2,320,812		

* 所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする(平成23年度変更)

附属図書館サービス業務の現況(平成31/令和元年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	施設面積合計(m ²)	3,558	10,313	3,287	1,288	1,474	1,084	1,612	808	2,170	25,594	
	現行用途別(m ²)	サービススペース	1,954	2,125	1,577	664	538	141	838	603	719	9,159
		書庫スペース	1,208	5,771	449	535	714	887	431	71	1,051	11,117
		事務スペース	130	627	351	48	89	27	163	35	159	1,629
		その他	266	1,790	910	41	133	29	180	99	241	3,689
	閲覧座席数	閲覧座席数	389	411	286	122	153	24	220	88	170	1,863
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書架収容力	棚板延長(m)	12,285	49,003	10,616	8,016	7,857	6,833	6,268	1,792	7,258	109,928
収容可能冊数		341,300	1,361,200	294,900	222,700	218,300	189,800	174,100	49,800	201,600	3,053,700	
利用者端末台数		41	42	38	24	19	1	23	14	15	217	
利用者	利用対象者総数	5,114	4,569	5,967	839	1,293	67	3,877	1,029	1,264	24,019	
	利用者別	学部学生	4,246	2,201	2,433	367	701	0	606	510	729	11,793
		大学院生	233	1,237	1,850	240	306	0	561	313	203	4,943
		教職員	353	529	1,555	175	215	65	2,569	124	218	5,803
		その他	65	64	17	10	4	2	81	25	26	294
		学外登録者総数	217	538	112	47	67	0	60	57	88	1,186
内訳:卒業生827、放送大学等131、一般市民228												
開館入館	開館日数	年間	278	328	303	278	269	237	285	273	277	2,528
		土曜(内数)	32	45	32	32	32	0	47	32	31	283
		休日(内数)	12	49	37	12	7	3	2	7	12	141
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	818.25	1039.50	787.50	700.00	700.00	0.00	944.00	700.00	700.00	6389.25
		土曜開館	256.00	405.00	256.00	256.00	256.00	0.00	376.00	256.00	248.00	2309.00
		休日開館	110.25	452.25	310.25	108.75	68.75	24.75	24.50	60.25	108.75	1268.50
	入館者数	年間入館者総数	238,007	166,623	98,402	67,354	51,180	2,912	97,979	37,135	52,808	812,400
		(内訳)時間内(含:土日)	209,937	147,396	83,784	57,443	46,253	2,912	67,048	33,155	45,616	693,544
		平日時間外	28,070	19,227	14,618	9,911	4,927	0	14,877	3,980	7,192	102,802
		閉館時(無人)	-	-	-	-	-	-	16,054	-	-	16,054
		土曜(内数)	4,002	12,189	4,279	2,206	827	0	3,895	1,092	1,680	30,170
		休日(内数)	4,986	12,188	5,205	1,580	666	18	281	332	1,374	26,630
		学外者(内数)	4,870	13,518	3,421	1,757	2,294	78	1,430	1,241	2,455	31,064
(内訳)卒業生		1,532	5,422	1,564	919	1,325	21	407	530	328	12,048	
他大学生・研究者等一般市民	663	1,737	698	186	88	27	266	158	557	4,380		
		2,675	6,359	1,159	652	881	30	757	553	1,570	14,636	
貸出	貸出総冊数	70,322	57,749	37,478	21,196	23,413	1,632	9,689	13,899	17,559	252,937	
	利用者別	学生	42,128	17,352	23,118	7,586	10,517	266	4,266	8,390	10,668	124,291
		院生	16,883	27,669	10,688	10,358	10,076	500	1,294	3,662	3,759	84,889
		教職員	5,313	5,722	1,881	2,076	1,382	743	449	674	1,074	19,314
		職員	3,388	2,806	1,068	741	1,003	95	3,341	799	1,227	14,468
		その他	271	3	0	0	3	0	0	0	4	281
		学外者総数	2,339	4,197	723	435	432	28	339	374	827	9,694
(内訳)卒業生	865	2,544	552	410	327	28	339	361	174	5,600		
(内訳)一般市民	920	-	-	-	-	-	-	-	437	1,357		
参考調査	参考調査件数	3,942	3,166	2,804	2,316	1,755	304	2,095	1,638	1,706	19,726	
	利用者別	学生	3,642	1,868	1,968	1,804	1,325	42	807	1,309	1,024	13,789
		教職員	100	190	428	166	392	49	787	145	88	2,345
		学外者	200	1,108	408	346	38	213	501	184	594	3,592
複写相互利用	来館複写件数	6,955	3,650	3,471	4,279	1,327	1,552	5,197	1,046	216	27,693	
	利用者別	学内者	6,534	2,849	2,548	4,120	1,049	1,450	4,509	550	84	23,693
		学外者	421	801	923	159	278	102	688	496	132	4,000
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	29	81	49	56	56	6	105	112	15	509
		ILL文献複写 依頼	177	54	161	44	193	21	54	43	14	761
	デリバリーサービス(図書配送)	発送申込冊数	11,398	8,196	2,565	2,306	4,883	516	661	1,524	2,651	34,700
		受取申込冊数	5,764	4,845	5,301	9,776	4,493	1,148	899	751	1,723	
		申込者数	1,005	755	803	649	423	28	144	134	169	4,110
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	257	3,477	496	420	403	91	1,233	534	164	7,075
		ILL文献複写 依頼	508	1,453	398	651	791	30	443	464	46	4,784
		ILL現物貸借 受付	486	1,333	111	454	200	22	23	14	57	2,700
ILL現物貸借 依頼		123	290	72	428	119	15	3	9	6	1,065	
海外ILL	文献複写 受付	0	7	0	0	1	0	4	0	1	13	
	文献複写 依頼	0	1	23	0	0	0	5	0	0	29	
	現物貸借 受付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	現物貸借 依頼	0	0	3	2	0	0	0	0	0	5	

電子的情報サービスの現況 R(H31)-2019年度

電子ジャーナルアクセス状況 ※基盤整備費にかかるとの

	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3	合計
ACS	6,993	9,873	10,381	9,385	6,947	8,309	11,173	9,868	8,363	9,107	7,306	6,991	104,696
APS	819	721	1,177	1,009	963	1,031	980	1,424	1,169	747	986	773	11,799
Cambridge UP	618	642	491	2,587	908	504	685	828	731	757	565	319	9,635
Elsevier ScienceDirect	42,127	49,120	47,819	48,762	35,010	35,554	49,048	48,872	43,630	48,459	37,379	35,738	521,518
HeinOnline	1,001	840	918	1,230	601	759	833	935	1,134	1,472	908	472	11,103
JSTOR	3,050	3,561	3,395	3,711	3,280	2,130	3,905	4,763	4,359	4,285	2,540	2,374	41,353
Nature	13,455	15,239	16,164	13,986	9,730	11,382	15,100	15,876	12,621	14,149	12,367	11,324	161,393
Ovid	905	774	952	885	747	886	796	1,085	970	840	1,049	893	10,782
Oxford UP	4,222	4,145	4,461	4,543	3,565	3,378	4,659	4,633	4,338	4,455	3,564	3,410	49,373
Project Euclid	32	31	14	22	26	18	20	33	18	19	31	51	315
Science Online	2,231	2,192	2,609	2,834	1,353	1,945	2,166	2,278	1,791	2,206	1,693	1,925	25,223
SpringerLINK	8,988	9,614	9,613	9,729	7,473	7,101	10,169	10,554	9,959	11,093	9,082	9,431	112,806
Wiley Online Library	14,510	16,576	17,295	16,686	13,178	13,746	19,819	16,877	16,741	17,620	14,927	27,801	205,776

*: 本年度より COUNTER Release5 に準拠した利用統計の提供へ変更となった為、Metric_Type=Total_Item_Requestsの合計数へ変更

導入データベース数 ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	51 WWWアクセス
キャンパス限定(医学)	5 医学4(医中誌、EBMR、MEDLINE、Up to date) 保健1(最新看護索引Web)

データベースアクセス状況 ※基盤整備費およびe-study資料費にかかるとの

	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3	合計
Business Source Premier	406 (600)	386 (449)	393 (568)	385 (450)	321 (423)	442 (403)	564 (569)	511 (458)	380 (465)	223 (508)	223 (241)	333 (489)	4,695 (5,623)
CINAHL	141 (399)	88 (333)	54 (340)	92 (193)	83 (215)	185 (225)	129 (233)	148 (247)	126 (338)	79 (276)	26 (153)	59 (196)	1,210 (3,148)
CInii	4,095 (14,566)	4,772 (16,264)	3,908 (14,146)	4,421 (16,133)	2,233 (6,234)	2,379 (7,424)	4,290 (13,733)	4,310 (14,431)	3,502 (12,510)	3,456 (13,176)	2,215 (6,484)	2,123 (5,884)	41,704 (140,985)
EconLit	126 (315)	102 (286)	56 (203)	60 (204)	65 (169)	201 (292)	140 (278)	164 (291)	110 (281)	63 (197)	37 (101)	80 (229)	1,204 (2,846)
Index to Legal Periodicals & Books(EBSCOhost)	103 (229)	44 (72)	10 (33)	16 (89)	55 (142)	165 (190)	101 (146)	137 (205)	92 (214)	44 (141)	11 (20)	42 (125)	820 (1,606)
JCR	463 (500)	439 (644)	493 (1,121)	492 (792)	243 (632)	211 (525)	211 (744)	305 (824)	203 (560)	242 (683)	176 (346)	241 (7,445)	3,719 (14,816)
JDreamIII	262 (664)	97 (184)	58 (322)	141 (766)	73 (449)	58 (182)	126 (340)	69 (209)	54 (322)	62 (202)	86 (349)	70 (544)	1,156 (4,533)
Lexis advance	(55)	(163)	(206)	(62)	(39)	(53)	(86)	(234)	(261)	(86)	(34)	(1,021)	(2,300)
Academic OneFile	164 (300)	219 (335)	270 (378)	230 (366)	119 (157)	162 (252)	207 (322)	208 (283)	208 (295)	158 (217)	152 (196)	116 (160)	2,213 (3,261)
General OneFile	31 (52)	47 (61)	30 (56)	22 (57)	21 (43)	23 (52)	43 (115)	42 (59)	53 (119)	31 (95)	20 (32)	39 (88)	412 (829)
MathSciNet	3,268	2,800	2,047	2,206	2,746	2,032	2,325	1,859	1,711	3,275	2,645	3,142	30,556
OECD iLibrary	92	137	140	73	35	76	130	133	120	86	42	27	1,091
PhycARTICLES	244 (506)	144 (172)	157 (269)	208 (301)	153 (207)	292 (341)	263 (372)	280 (308)	223 (328)	186 (288)	83 (123)	176 (277)	2,409 (3,492)
PhycINFO	175 (444)	85 (140)	132 (263)	154 (290)	109 (187)	223 (331)	164 (324)	189 (343)	130 (249)	152 (364)	63 (158)	111 (252)	1,687 (3,345)
Readers Guide to Periodical Literature(EBSCOhost)	98 (224)	46 (77)	10 (35)	16 (89)	55 (141)	165 (190)	100 (145)	135 (205)	92 (214)	42 (140)	11 (20)	42 (124)	812 (1,604)
SciFinder	1,255 (5,442)	1,570 (7,269)	2,176 (15,627)	1,740 (11,149)	937 (4,433)	1,130 (5,081)	1,843 (7,855)	1,691 (8,320)	1,365 (5,435)	1,310 (5,784)	973 (4,656)	678 (3,125)	16,668 (84,176)
Web of Science Core Collection	2,561 (11,781)	2,571 (10,374)	3,846 (16,163)	2,772 (11,619)	1,774 (6,732)	2,264 (7,521)	2,878 (11,108)	2,467 (11,294)	2,444 (9,992)	2,992 (11,383)	2,445 (7,443)	1,815 (6,547)	30,829 (121,957)
Westlaw Next	270 (631)	275 (883)	245 (660)	196 (470)	302 (614)	251 (2,092)	391 (1,900)	463 (1,293)	304 (871)	325 (1,029)	328 (928)	252 (678)	3,602 (12,049)
医学中央雑誌	4,101 (14,410)	4,324 (12,524)	3,375 (8,498)	3,354 (8,066)	2,729 (6,391)	2,848 (7,159)	3,452 (8,906)	3,971 (10,071)	2,512 (6,005)	2,776 (6,926)	3,007 (8,423)	2,495 (6,775)	38,944 (104,154)
聞蔵IIIビジュアル	465 (8,676)	516 (10,889)	500 (12,401)	545 (15,324)	317 (9,580)	347 (17,694)	591 (12,273)	808 (21,794)	800 (28,257)	513 (10,234)	399 (19,630)	367 (53,603)	6,168 (220,355)
ざっさくプラス	21 (49)	53 (199)	33 (129)	38 (141)	17 (66)	16 (72)	34 (107)	82 (158)	48 (78)	62 (124)	29 (59)	76 (146)	509 (1,328)
ジャパンナレッジLib	623 (6,933)	1,042 (12,492)	830 (13,037)	1,006 (16,976)	455 (4,350)	562 (6,021)	962 (9,944)	966 (10,528)	1,134 (10,006)	698 (4,905)	359 (2,957)	324 (2,470)	8,961 (100,619)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	116	117	133	130	94	99	109	116	119	135	120	109	1,397
日経テレコン	91,415	147,077	97,058	225,027	177,347	56,588	142,503	114,607	151,654	125,194	44,059	75,270	1,447,799
毎素	221 (17,541)	370 (37,175)	289 (17,425)	398 (17,244)	191 (7,518)	211 (17,765)	415 (25,535)	539 (34,991)	488 (44,030)	336 (23,543)	226 (18,393)	250 (10,862)	3,934 (272,022)
メディカルオンライン	5,718	6,436	5,367	5,559	5,452	6,034	6,302	6,405	4,933	5,499	5,811	5,325	68,841
ヨミダス歴史館	333	509	556	984	425	475	864	1,079	1,212	776	808	419	8,440

※官報は統計データ未公開

*: 本年度より COUNTER Release5 に準拠した利用統計の提供へ変更となった為、Metric_Type=Total_Item_Requestsの合計数へ変更

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計

	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3	合計
図書館トップページ	60,722	79,782	63,871	78,746	41,417	36,595	71,530	70,538	61,802	62,292	45,202	40,704	713,201
OPAC延べ検索回数	151,254	211,201	165,314	211,827	123,818	119,910	172,906	204,732	168,381	165,700	132,265	127,610	1,954,918
ディスカバー延べ検索回数	1,335	2,024	1,510	1,622	1,901	1,294	1,896	1,597	1,780	1,203	1,065	713	17,940
震災文庫トップページ	903	1,066	1,234	1,505	1,205	1,425	2,159	1,404	2,027	3,495	1,999	1,615	20,037
(うち学内)	65	96	133	151	172	214	240	209	219	230	97	104	1,930
(うち学外)	838	970	1,101	1,354	1,033	1,211	1,919	1,195	1,808	3,265	1,902	1,511	18,107
新聞記事文庫トップページ	4,786	5,677	5,662	6,134	5,668	5,541	6,762	6,116	7,182	6,220	5,594	5,848	71,190
(うち学内)	145	203	183	194	109	94	186	210	186	154	150	173	1,987
(うち学外)	4,641	5,474	5,479	5,940	5,559	5,447	6,576	5,906	6,996	6,066	5,444	5,675	69,203

リンクリゾルバ(SFX)利用統計

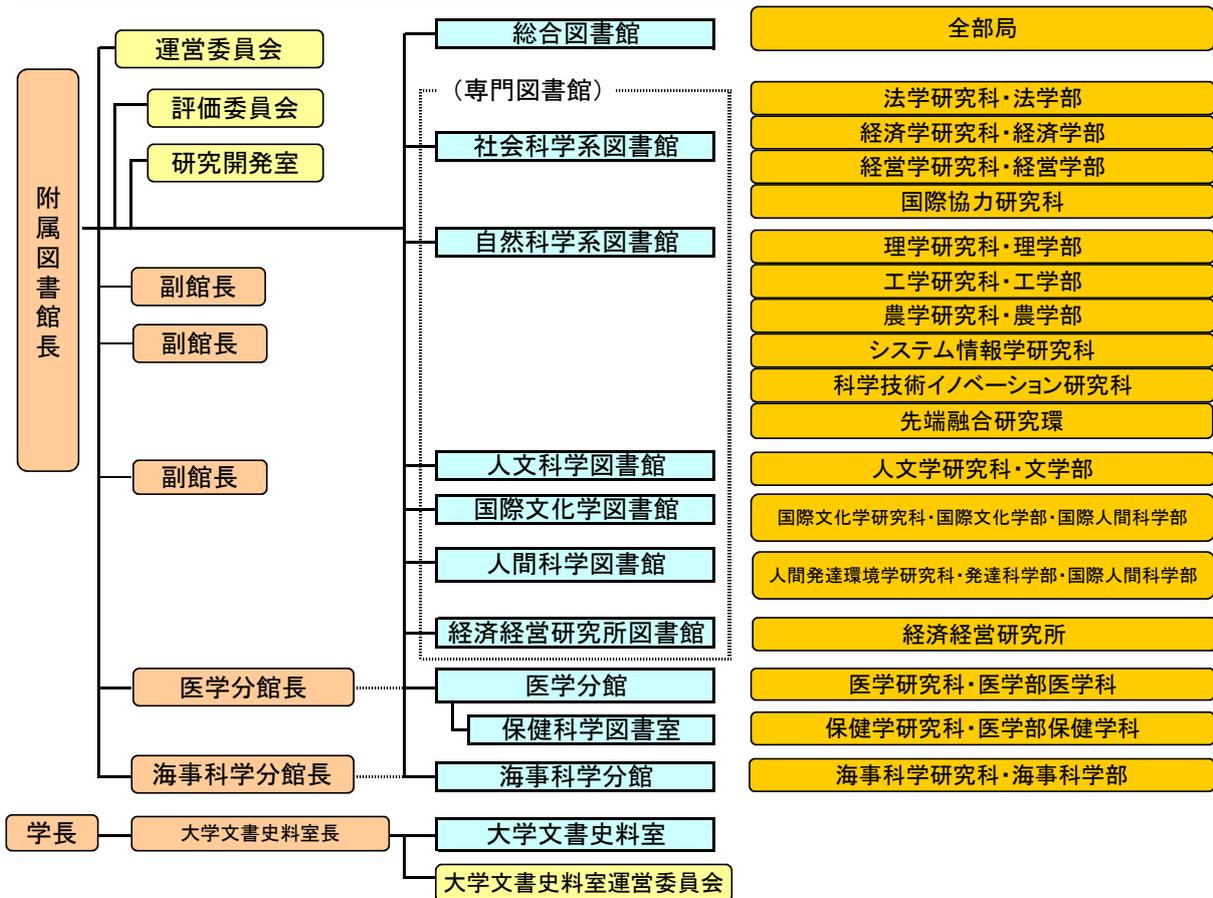
	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9	2019.10	2019.11	2019.12	2020.1	2020.2	2020.3	合計
電子リソースアクセス数	15,193	16,627	14,694	14,942	9,492	11,147	14,485	14,834	13,329	12,876	10,607	9,134	157,350
電子リソースリスト	3,012	3,153	2,635	3,022	1,985	2,036	2,810	2,743	2,413	2,479	2,096	1,899	30,283
DBからのアクセス数	12,181	13,474	12,059	11,920	7,497	9,111	11,675	12,091	10,916	10,397	8,511	7,235	127,067
フルテキスト	7,552	8,158	7,319	7,410	5,003	5,728	7,210	7,318	6,925	6,527	5,678	4,948	79,776
所蔵検索数	2,096	2,169	1,965	1,679	900	1,147	1,737	1,699	1,507	1,198	1,012	717	17,826
一文献種写依頼	350	281	271	214	147	185	251	256	222	193	137	135	2,642

※ アクセス数: 電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数: OPAC、Webcatのアクセス回数

各DB(CInii、WoS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

附属図書館組織

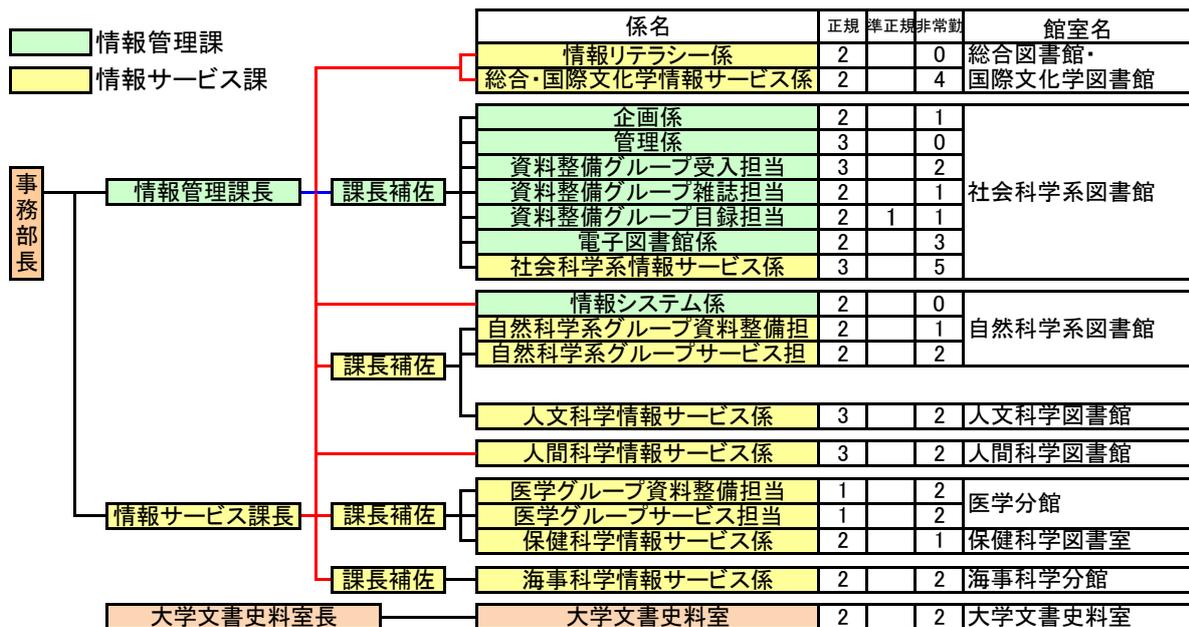
(令和2年4月現在)



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

事務組織と職員配置

(令和2年4月現在)



附属図書館 正規職員46名 準正規職員1名 非常勤職員31名
 大学文書史料室 正規職員 2名 非常勤職員 2名
 *非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

経済経営研究所事務長	研究所図書係	3		0	経済経営研究所図書館
------------	--------	---	--	---	------------

令和元(平成31)年度附属図書館諸会議一覧

＜附属図書館運営委員会＞

第1回： 7月3日(水) 15:10～ (於：社会科学系図書館6階会議室)

協議事項

- (1) 平成30年度決算について
- (2) 令和元年度電子図書館事業について
- (3) 令和元年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (4) 資料の不用決定について
- (5) その他

報告事項

- (1) 2020年外国雑誌購読調査について
- (2) 平成30事業年度に係る業務の実績について
- (3) 令和元年度附属図書館職員研修実施報告(6/17)
- (4) 令和元年度前期情報リテラシー事業実施報告
- (5) 学生選書ツアー実施報告(6/21)
- (6) 各図書館・室報告について
- (7) 2019附属図書館利用案内について
- (8) その他

第2回： 11月28日(木) 10:40～ (於：社会科学系図書館6階会議室)

協議事項

- (1) 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- (2) 令和2年度外国雑誌センター予算について
- (3) 2020年教育研究基盤資料の整備について
- (4) 第4期中期計画期間前半における教育研究基盤資料の整備について
- (5) 資料の不用決定について
- (6) その他

報告事項

- (1) 附属図書館予算について
- (2) 附属図書館利用統計について
- (3) 附属図書館資料配架状況について
- (4) 学術成果リポジトリ利用統計について
- (5) スマホ入館の全学試行について
- (6) 令和元年度後期図書館ガイダンスについて
- (7) 令和元年度附属図書館資料展について
- (8) 各図書館・室報告について
- (9) その他

第3回： 1月29日(水) 15:10～ (於：社会科学系図書館6階会議室)

協議事項

- (1) 令和2年度附属図書館予算要求について
- (2) 令和2年度学生用資料費について
- (3) 令和2年度E-Study資料について
- (4) 第4期中期計画期間前半における教育研究基盤資料の整備について

- (5) 令和2年度附属図書館開館日について
- (6) 附属図書館運営委員会規程の改正について
- (7) 令和2年度附属図書館における事務組織改編(案)について
- (8) 資料の不用決定について
- (9) その他

報告事項

- (1) 令和元年度補正予算による保健科学図書室の改修について
- (2) 各図書館・室報告について
- (3) その他

第4回： ※新型コロナウイルス感染拡大防止のためメール回議に変更
審議期間 3月24日(火)～26日(木)

審議事項

- (1) 令和2年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成30年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- (3) 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- (4) 資料の不用決定について
- (5) その他

報告事項

- (1) これから英語で研究発表を行う若手研究者のための
学術英語スキルアップセミナー(2/7)実施報告について
- (2) 情報リテラシー事業 令和元年度報告・令和2年度計画について
- (3) 各図書館・室報告について
- (4) その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 4月25日(木) ※神戸大学出版会運営委員会終了後
(於：自然科学系図書館4階会議室)

議 題

- (1) 附属図書館の概要・課題・副館長の担当について

第2回： 6月28日(金) 15:10～ (於：社会科学系図書館6階会議室)

協議事項

- (1) 平成30年度決算について
- (2) 令和元年度電子図書館事業について
- (3) 令和元年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (4) その他

第3回： 11月25日(月) 15:00～ (於：自然科学系図書館4階会議室)

協議事項

- (1) 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- (2) 令和2年度外国雑誌センター予算について
- (3) 2020年教育研究基盤資料の整備について
- (4) 第4期中期計画期間前半における教育研究基盤資料の整備について
- (5) 附属図書館予算について
- (6) その他

報告事項

- (1) 論文データベース Web of Science / Scopus の検討結果について
- (2) その他

第4回： 1月22日（水）9：00～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 令和2年度附属図書館予算要求について
- (2) 令和2年度学生用資料費について
- (3) 令和2年度 E-Study 資料について
- (4) 第4期中期計画期間前半における教育研究基盤資料の整備について
- (5) 令和2年度附属図書館開館日について
- (6) 附属図書館運営委員会規程の改正について
- (7) 令和2年度附属図書館における事務組織改編（試行案）について
- (8) その他

第5回： ※新型コロナウイルス感染拡大防止のためメール回議に変更
審議期間 3月17日（火）～19日（木）

審議事項

- (1) 令和2年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 令和2年度学生用資料費について
- (3) 平成30年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- (4) 総合図書館学生用雑誌の見直しについて

<附属図書館評価委員会>

第1回： 7月24日（水）～29日（月） （メール回議）

議題

- (1) 平成30年度附属図書館年次報告について

第2回： 3月27日（金）～30日（月） （メール回議）

議題

- (1) 令和元年度部局年次計画重点事項の実績報告等について

<附属図書館研究開発室会議>

電子化部会 第1回： 4月25日（木）～5月10日（金） （メール回議）

報告事項

- (1) 平成30年度電子図書館事業報告
- (2) 平成30年度学術成果リポジトリ事業報告

協議事項

- (1) 平成31（令和元）年度電子図書館事業計画（案）について

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職名	氏名	任期等
附属図書館長	工・教授	富山 明男	H31.4.1～R3.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	経営・教授	末廣 英生	H31.4.1～R3.3.31
副館長	工・教授	喜多 隆	H31.4.1～R3.3.31

(自然科学系・図書委員長)			
副館長 (附属図書館評価委員長)	人文・教授	緒形 康	H31. 4. 1～R3. 3. 31
医学分館長	医・教授	榎本 秀樹	H31. 4. 1～R3. 3. 31
海事科学分館長	海・教授	三村 治夫	H31. 4. 1～R3. 3. 31
大学教育推進機構	教 授	山内 乾史	H31. 4. 1～R3. 3. 31
人文学研究科	教 授	山本 秀行	H31. 4. 1～R3. 3. 31
国際文化化学研究科	教 授	市田 良彦	H31. 4. 1～R3. 3. 31
人間発達環境学研究科	教 授	加藤 佳子	H30. 4. 1～R2. 3. 31
法学研究科	教 授	行澤 一人	H31. 4. 1～R3. 3. 31
経済学研究科	教 授	重富 公生	H30. 4. 1～R2. 3. 31
経営学研究科	教 授	後藤 雅敏	H30. 4. 1～R2. 3. 31
理学研究科	教 授	山田 泰彦	H30. 4. 1～R2. 3. 31
保健学研究科	教 授	古和 久朋	H31. 4. 1～R2. 3. 31
工学研究科	教 授	北後 明彦	H31. 4. 1～R3. 3. 31
システム情報学研究科	教 授	桔梗 宏孝	H30. 4. 1～R2. 3. 31
農学研究科	教 授	野村 啓一	H30. 4. 1～R2. 3. 31
国際協力研究科	教 授	土佐 弘之	H30. 4. 1～R2. 3. 31
科学技術イノベーション研究科	経営・教授	尾崎 弘之	H30. 4. 1～R2. 3. 31
経済経営研究所	教 授	佐藤 隆広	H31. 4. 1～R3. 3. 31
情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	H30. 4. 1～R2. 3. 31
附属図書館	事務部長	村上 健治	-----

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職 名 (委員は全て官職指定)	氏 名	備 考
附属図書館長	富山 明男	
副館長	末廣 英生	
副館長	喜多 隆	
副館長	緒形 康	委員長
医学分館長	榎本 秀樹	
海事科学分館長	三村 治夫	
事務部長	村上 健治	
情報管理課長	矢野 真弓	
情報サービス課長	石坂 泰郎	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

所 属	職 名	氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	富山 明男	室長
電子化部会	文・教授	奥村 弘	H30. 4. 1～R2. 3. 31 (震災関連資料電子化)

	文・教授	福長 進	H30. 4. 1～R2. 3. 31 (国文学研究資料館古典籍データベース)
	研究所・准教授	高槻 泰郎	H30. 4. 1～R2. 3. 31 (新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館 係長	花崎佳代子	H29. 7. 1～R1. 6. 30
教育研究支援部会	大教・教授	山内 乾史	H31. 4. 1～R3. 3. 31
	大教・教授	近田 政博	H30. 4. 1～R2. 3. 31
	大教 国際コミュニケーション センター・教授	石川慎一郎	H31. 4. 1～R3. 3. 31
	国文・准教授	清光 英成	H30. 4. 1～R2. 3. 31
	図・情報サービス 課課長補佐	笠原 夕美	H29. 7. 1～R1. 6. 30
	図・情報リテラ シー係長	井庭 朗子	H29. 7. 1～R1. 6. 30
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	H30. 4. 1～R2. 3. 31 (情報システム)

令和元年度 附属図書館決算

1. 既定経費

(単位:円)

事 項	令和元年度 予算配分額 (当初) (A)	令和元年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和元年度 予算配分総額 (C)	令和元年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
A. 経常運営費						
(1) 備品・消耗品費	5,100,000		5,100,000	5,271,133	△ 171,133	蛍光灯類(874)、備品・什器類(851)、図書館用品(763)、電算用品(715)、事務用品(425)、用紙類(134)、雑用品(1,148) ILL管理経費不足分(ILL関係消耗品 361) ※D収入確保・管理的経費でも執行
(2) 事務用図書費	300,000		300,000	326,538	△ 26,538	事務用図書、事務用雑誌
(3) 印刷製本費	300,000		300,000	320,704	△ 20,704	利用案内
(4) 光熱水料	23,000,000	105,000	23,105,000	22,394,652	710,348	国文生協電気代予算組替(105) 電気料(17,138)、ガス料(2,763)、上下水道料(2,493)
(5) 通信運搬費	6,200,000		6,200,000	5,892,838	307,162	書籍等運送業務(3,192)、宅配便(1,484)、郵便料(915)、電話料(298)、切手代(3)
(6) 借料及び損料	1,200,000		1,200,000	1,448,434	△ 248,434	複写機保守費
(7) 雑役務等諸経費	32,000,000	190,457	32,190,457	34,632,602	△ 2,442,145	アスベスト調査に伴う追加予算配分(190) 清掃業務(11,472)、EV保守(6,491)、警備業務(3,518)、補団地設備保守(2,768)、空調保守修繕(1,393)、特高保守(1,195)、機器修理(1,190)、建物修繕(1,039)、消防設備保守修繕(973)、廃棄物処理(962)、蔵書点検業務(804)、鶴甲1役務案分(589)、諸会費(316)、空調フィルター清掃(296)、除草剪定(228)、電話交換保守(197)、給水設備保守修繕(175)、その他役務(1,026)
(8) 非常勤職員給与等	84,000,000		84,000,000	82,270,225	1,729,775	非常勤職員人件費
(9) 電子計算機維持経費	168,000		168,000	168,000	0	情報基盤センター利用負担金
(10) 職員旅費	900,000		900,000	1,116,740	△ 216,740	会議・研修会・講習会旅費(1,041)、バス地下鉄私鉄カード(75)
(1)～(10)小計	153,168,000	295,457	153,463,457	153,841,866	△ 378,409	
B. 経常事業費						
(1) 時間外開館経費	16,000,000		16,000,000	15,958,494	41,506	業務委託(社会系・医学・保健・自然)
(2) 電子図書館事業	9,700,000		9,700,000	9,903,653	△ 203,653	学生補佐員(総合国際・人文・人間・海事・自然)
(3) その他事業費	5,904,000		5,904,000	6,362,330	△ 458,330	研究開発室へ決算報告
(4) 図書館資料費	150,000		150,000	123,173	26,827	展示会経費
学生用資料費	72,166,000		72,166,000	69,482,860	2,683,140	
e-study資料費	40,360,000		40,360,000	40,358,765	1,235	
e-study資料費	4,406,000		4,406,000	4,405,682	318	
震災文庫資料費	400,000		400,000	399,743	257	
外国雑誌センター館経費	27,000,000		27,000,000	24,318,670	2,681,330	
(5) 製本費	1,000,000		1,000,000	999,324	676	
(6) 附属図書館長裁量経費	2,229,000		2,229,000	4,044,904	△ 1,815,904	社会系マイクロ室除湿器修理(1,245)、社会系書庫除湿器2台設置(644)、自然系TV会議システム設置(721)、医学空調機:自然・人間へ移設(495)、人間網戸設置(281)、人間除湿器3台設置(247)、その他(411)
(7) 研究科長等運営経費返却分	400,000		400,000	400,000	0	平成30年度目録検索用端末更新(chromebox)借入(2,000) 返済計画:令和元年度～令和5年度 @400,000円×5年
(1)～(7)小計	107,549,000	0	107,549,000	107,274,738	274,262	
運営費+事業費	260,717,000	295,457	261,012,457	261,116,604	△ 104,147	
C. 大学文書史料室						
運営経費	6,420,000		6,420,000	5,601,319	818,681	
附属図書館+大学文書史料室 既定経費 計	267,137,000	295,457	267,432,457	266,717,923	714,534	

2. 収入確保インセンティブ経費等から繰入

事 項	令和元年度 予算配分額 (当初) (A)	令和元年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和元年度 予算配分総額 (C)	令和元年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
D. 収入確保インセンティブ経費等から繰入						
(1) 建物老朽劣化対策経費		△ 4,124,000	△ 4,124,000	0	△ 4,124,000	施設部予算へ
(2) ILL 費用計上				1,821,217	△ 1,821,217	文献複写等他大学へ依頼分
(3) ILL 管理運営経費(備品消耗品費に充当)				1,436,601	△ 1,436,601	ILL関係消耗品(図書館用品、用紙類、事務用品等)
(4) 出版会事業経費				750,700	△ 750,700	出版委託費等
収入確保インセンティブ経費等 小計	0	4,008,518	4,008,518	4,008,518	0	
1. 既定経費+2. 収入確保インセンティブ経費等 総計	267,137,000	4,303,975	271,440,975	270,726,441	714,534	令和2年度繰越

3. 臨時的経費等(参考)

事 項	令和元年度 予算配分額 (当初) (A)	令和元年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和元年度 予算配分総額 (C)	令和元年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
E. 電算機借料						
図書館システム		45,411,840	45,411,840	45,411,840	0	
小計	0	45,411,840	45,411,840	45,411,840	0	
F. 臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	362,596,955	7,419,149	370,016,104	370,016,104	0	SciFinder受益者負担金(7,419)
建物老朽劣化対策経費	—	49,378,988	49,378,988	49,378,988	0	社会科学系図書館書庫A棟・B棟外壁改修(49,228)、文学部本館(A棟)等外壁改修(90)、国際化学図書館棟(A棟)等屋上防水補修工事(60)
学内営繕・エコ対策経費	—	15,270,335	15,270,335	15,270,335	0	社会科学系図書館書庫A棟・B棟外壁改修(2,605) 医学分館2階空調更新(6,842)、海事科学分館1階トイレ改修(2,673) (鶴甲2)本館(A)空調改修工事(IV期)(3,108) (名谷)本館消火設備改修工事(42)
戦略的事業経費(防災設備点検)	66,960	0	66,960	66,960	0	防災設備点検費
施設整備費(災害復旧)	—	5,269,699	5,269,699	5,269,699	0	(六甲台1他)敷地南側法面等災害復旧工事
施設整備費(六甲・急傾斜地安全対策)	—	5,237,411	5,237,411	5,237,411	0	(六甲台2他)基幹・環境整備(急傾斜地安全対策)工事
施設費交付事業費	—	549,198	549,198	549,198	0	自然科学系図書館火災報知設備改修工事
学内ワースタディ実施経費	—	603,000	603,000	603,000	0	各館室業務補助員
臨時要求(医学分館24時間入退館システム)	—	1,475,100	1,475,100	1,475,100	0	医学分館24時間入退館システム更新
全学経費(共通経費)雑役務等諸経費	—	190,457	190,457	190,457	0	人文科学図書館非飛散性等アスベスト調査
神戸大学出版会事業	400,000	0	400,000	400,000	0	出版事業、出版会事務経費
学長戦略経費追加配分(出版会)	—	1,250,000	1,250,000	1,250,000	0	学長戦略経費追加配分
小計	363,063,915	86,643,337	449,707,252	449,707,252	0	
G. 外部資金						
国文学研究資料館(資料修復費)		289,970	289,970	289,970	0	歴史的典籍NW事業 撮影費 4,392,175円:国文学研究資料館が直接業者と契約
国立大学図書館協会地区事業助成金		70,280	70,280	67,572	2,708	国立大学図書館協会近畿地区協会事業助成金:講習会開催費 残額は年度令和2年度繰越
鑿子基金		443,974	443,974	63,701	380,273	山口文庫関連書籍購入費 残額は年度令和2年度繰越
神戸大学六甲台後援会 学術基盤の整備に対する助成		160,000	160,000	160,000	0	社会科学系図書館大閲覧室整備費
神戸大学出版会出版基金		47,500	47,500	0	47,500	残額は令和2年度繰越
神戸大学出版会出版事業助成金(KTC)		980,000	980,000	0	980,000	残額は令和2年度繰越
小計	0	1,991,724	1,991,724	581,243	1,410,481	
臨時的経費等 計	363,063,915	134,046,901	497,110,816	495,700,335	1,410,481	

令和元年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館室名	学生用資料				震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	e-study 事業費	** その他	*** 教育研究基盤 資料整備費	計 ****
	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊数						
総合図書館	7,071	7,070	1	2,443			4,405		362,596	374,073
社会科学系図書館	7,026	7,025	1	2,526	399	24,318		3		31,747
自然科学系図書館	9,787	9,786	1	1,411						9,786
人文科学図書館	1,796	1,795	1	345						1,795
国際文化学図書館	1,998	1,997	1	309						1,997
人間科学図書館	2,960	2,959	1	629						2,959
経済経営研究所図書館	744	743	1	127						743
医学分館	3,759	3,758	1	559						3,758
保健科学図書室	2,310	2,309	1	326						2,309
海事科学分館	2,909	2,909	0	646						2,909
小計	40,360	40,358	2	9,321	399	24,318	4,405	3	362,596	432,082

注* 図書その他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 社会:電子図書館から(消耗品扱)

注*** 電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

注**** これ以外に、電子コンテンツ作成費 990,113円がある

(部局セグメント)

単位:千円

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	398	466	864
社会科学系図書館	82,600	6,912	89,512
自然科学系図書館	337	23,212	23,550
人文科学図書館	10,313	2,120	12,434
国際文化学図書館	4,305	5,057	9,362
人間科学図書館	4,495	4,042	8,538
経済経営研究所図書館	10,103	462	10,566
医学分館	38,027	1,479	39,507
保健科学図書室	5,411	300	5,712
海事科学分館	4,703	746	5,449
計	160,697	44,802	205,500

(部局セグメント)

単位:千円

館室名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	348	0	0	7,462	7,810
社会科学系図書館	22,007	868	1,315	1,084	25,277
自然科学系図書館	8,852	2,005	7,908	1,344	20,110
人文科学図書館	11,824	22	1,507	489	13,843
国際文化学図書館	3,500	0	96	80	3,677
人間科学図書館	3,600	187	81	23	3,893
経済経営研究所図書館	464	0	0	300	765
医学分館	453	2,382	1,738	67	4,642
保健科学図書室	432	77	16	3	530
海事科学分館	1,257	560	148	15	1,981
計	52,741	6,105	12,814	10,872	82,533

単位:千円

合計
382,749
146,537
53,447
28,074
15,038
15,392
12,075
47,908
8,552
10,340
720,116

* 千円未満切捨のため、合計等は一致しません

令和元（平成31）年度附属図書館活動日誌

< 4月 >

- 1（月）～26（金） 図書館セルツアー <於：医学分館>
 2（火） 館長、事務部長、管理課長着任式 <於：社会科学系図書館>
 図書館ツアー <於：海事科学分館>
 3（水） 新入生オリエンテーション <於：六甲台講堂 説明：リテラー係>
 4（木） 入学式 <於：ワルト記念ホール 出席：館長>
 国際文化学研究科院生オリエンテーション <於：鶴一キャンパス>
 新入生ガイダンス（医学部保健学科、保健学研究科）<説明：係長>
 5（金） 理学部安全講習会・情報リテラー講習会 <於：基盤センター分館 説明：係員>
 5（金）～18（木） 附属図書館資料展・巡回展「古典籍さまざま（第1期）」
 <於：総合・国際文化学図書館>
 5（金）～25（木） 新入生対象図書館セルツアー <於：自然科学系図書館>
 8（月）～10（水） 図書館ツアー <於：人間科学図書館>
 9（火） 神戸大学新任教職員研修 <於：六甲台講堂 講師：室長補佐、係長1名>
 11（木） ホターガイダンス（理・文献検索センター）<於：基盤センター分館>
 図書館ツアー <於：自然科学系図書館>
 12（金） 初年次セミナー-図書館ツアー（経済学部） <於：社会科学系図書館>
 来館：68名 担当：社系サベース係>
 初年次セミナー（発達人間・グローバル）
 図書館ツアー <於：保健科学図書室>
 ホターガイダンス（保健）<於：保健科学図書室>
 兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議
 <於：社会科学系図書館 出席：部課長 他>
 15（月）～19日 自由参加図書館ツアー <於：社会科学系図書館>
 16（火） 第1回海事科学分館図書委員会
 17（水） 保健科学図書室改修に関する打合せ <於：保健科学図書室>
 18（木） ホターガイダンス（国際）<於：総合・国際文化学図書館>
 ホターガイダンス（保健）<於：保健科学図書室>
 19（金） 学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part. 2」
 <於：日本学術会議講堂 参加：管理課長>
 初年次セミナー（グローバル輸送・航海）<於：海事・梅木Yホール>
 参加：50名>
 初年次セミナー（経済）<於：社会科学系図書館 参加：66名>
 初年次セミナー（発達人間・グローバル）
 図書館ツアー <於：保健科学図書室>
 19（金）～26（金） 附属図書館資料展・巡回展「古典籍さまざま（第2期）」
 <於：総合・国際文化学図書館>
 22（月） 初年次セミナー（法）<於：社会科学系図書館 参加：43名>
 国立大学図書館協会近畿地区図書系専門試験実施委員会
 <於：大阪大学総合図書館 出席：部長、管理課長>
 国立大学図書館協会近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務部長懇談会
 <於：大阪大学総合図書館 出席：管理課長>
 国立大学図書館協会近畿地区協会 総会
 <於：大阪大学総合図書館 出席：館長、部長、管理課長>

- 23 (火) 初年次セミナー(経営)「参考文献の見方・書き方」
 <於:鶴ヶ丘キャンパス教室 参加:260名>
- 24 (水) 図書館ツアー(経済・留学生) <於:社会科学系図書館 参加:6名>
 施設キャラバン <於:自然科学系図書館 出席:館長、部長、管理課長、
 管理課課長補佐、史料室長補佐、管理係長>
 第9回まごまご読書倶楽部 <於:鶴ヶ丘キャンパスLC 担当:ULiCS>
- 25 (木) 神戸大学職員採用面接
 第1回神戸大学出版会運営委員会 <於:自然科学系図書館>
 第1回館長・副館長・分館長懇談会 <於:自然科学系図書館>
 ホターガイダンス(保健) <於:保健科学図書室>
 大学図書館近畿仁シティブ第1回能力開発専門委員会
 <於:関西学院大学図書館 出席:担当補佐>
- 26 (金) 初年次セミナー(グローバル輸送・ロジ) <於:海事・梅木Yホール
 参加:50名>
 初年次セミナー(経済) <於:社会科学系図書館 参加:65名>
 第1回人間科学図書館図書委員会
 初年次セミナー(工) <於:社会科学系図書館 参加:111名>
 和歌山県立耐久高校生徒による見学 <於:社会科学系図書館
 参加:150名>
 初年次セミナー(発達人間・発達コミュニティ) <於:人間科学図書館>
 祝日等による連休、全館室休館
- 27 (土) ~ 5月5日
- <5月>
- 6 (月) 休日の授業実施に伴う開館 <於:保健科学図書室以外>
 初年次セミナー(法) <於:社会科学系図書館 参加:21名>
- 9 (木) 館長による各館室見学 <於:人間図→海事図→総合・国際図→人文図→
 保健図→医学図 参加:館長、部長、管理課長>
- 10 (金) 初年次セミナー(海洋安全システム科学) <於:海事・梅木Yホール
 参加:50名>
 初年次セミナー(経済) <於:社会科学系図書館 参加:66名>
 概算要求打合せ <於:保健科学図書室 出席:管理課長、管理係長>
 初年次セミナー(発達人間・環境共生) <於:総合・国際文化学図書館>
 初年次セミナー(発達人間・子ども教育) <於:人間科学図書館>
 第1回自然科学系図書館図書委員会
 兵庫県大学図書館協議会企画委員会 <於:園田学園女子大学
 出席:部長、管理課長、管理課課長補佐、企画係長>
- 11 (土) ~ 附属学校部10周年記念式典に伴うパネ展示
 <於:社会科学系図書館展示ホール>
- 13 (月) 共通教育「神戸大学史」授業での見学 <於:社会科学系図書館
 参加:30名 引率:室長補佐、菊地先生(人文)>
 初年次セミナー(法) <於:社会科学系図書館 参加:44名>
- 15 (水) 創立記念日(今年度より授業実施、全館室開館)
 国立大学図書館協会平成30年度会計監査 <於:東京大学附属図書館
 監査:管理課長>
 国立大学図書館協会春季理事会 <於:東京大学史料編纂所

- 出席：館長、部長、管理課長＞
- 第117回日本医学図書館協会近畿地区会例会
 ＜於：国立循環器病研究センター 出席：サービス課課長補佐（医学）＞
- 16（木）（広報課）動画「神大メモリス」の撮影・神戸大学公式YouTube公開
 ＜於：自然科学系図書館＞
- 17（金）初年次セミナー（マリンエンジニアリング）＜於：海事・梅木Yホール 参加：50名＞
- 18（土）三木記念同窓会による見学 ＜於：社会科学系図書館 来館：18名＞
- 19（日）～25（土）COAR Annual Meeting 2019 ＜於：仏・リヨン 派遣：係員1名＞
- 20（月）初年次セミナー（法）＜於：社会科学系図書館 参加：44名＞
- 第1回医学分館図書委員会
 京都大学図書館機構講演会「オープン・サイテーションと機関リポジトリの展開」
 ＜於：京都大学附属図書館 参加：係長1名＞
- 20（月）～23（木）情報基礎授業担当（22回）＜担当：情報リサーチWG＞
- 21（火）大学図書館近畿エリアフェア第2回能力開発専門委員会
 ＜於：大阪大学総合図書館 出席：担当補佐＞
- 23（木）大学図書館近畿エリアフェア「中級研修」
 ＜於：大阪大学総合図書館 受講：係員1名
 実施要員：サービス課課長補佐（海事）＞
- 27（月）共通教育「神戸大学史」授業での見学 ＜於：社会科学系図書館
 参加：30名 引率：室長補佐、菊地先生（人文）＞
- 27（月）～28（火）ガイダンス「雑誌論文の探し方」「参考文献の見方・書き方」
 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
- JOSS2019 ＜於：学術総合センター 参加：係員1名＞
- 29（水）人事ヒアリング ＜於：本部第2会議室 出席：部長、管理課長＞
- 29（水）～30（木）NII オープンフォーラム ＜於：学術総合センター 参加：係員1名＞
- 31（金）筒井台中学トライやる学生による事前訪問
 ＜於：社会科学系図書館 学生：2名 対応：管理課課長補佐＞
- 30（木）～31（金）日本医学図書館協会第90回通常総会・分科会
 ＜於：日本教育会館 出席：サービス課課長補佐（医学）＞
- <6月>
- 3（月）第1回保健科学図書室図書委員会
- 3（月）～7（金）筒井台中学トライやるウィーク ＜於：社会科学系図書館 実習：2名＞
- 4（火）～神戸大学事務職員国際業務研修（初級）＜受講：補佐員3名＞
- 5（水）「目録システム書誌作成研修」企画WG第1回ミーティング
 ＜於：国立情報学研究所 派遣：係員1名＞
- 6（木）～7（金）全国公文書館館長会議等
 ＜於：国立公文書館ほか 出席：室長、室長補佐＞
- 8（土）育友会懇談会による見学 ＜於：人文科学図書館 対応：係長1名＞
 ＜於：人間科学図書館 来館：42名 対応：係長1名＞
- 10（月）SciFinder 講習会（理学部）＜於：基盤センター分館第2演習室＞
 オナーガイダンス（理学部）＜於：基盤センター分館第2演習室＞
- 11（火）第3回ULiCS定例会 ＜於：自然科学系図書館ULiCS部室＞
- 12（水）ガイダンス「雑誌論文の探し方」 ＜於：深江キャンパス総合学術交流棟＞
 第1回国際文化学図書館図書委員会

- Ex Libris ワークショップ <於：国立情報学研究所 参加：係員1名>
- 13 (木) 第1回人文科学図書館図書委員会
- 16 (日) 電気設備定期点検に伴う停電 <於：鶴二キャンパスを除く六甲台地区全域>
- 17 (月) ガイダンス「参考文献の見方・書き方」<於：自然科学系図書館ニコモンス>
第1回附属図書館職員研修「温湿度環境から図書資料の保存を考える」
<於：社会科学系図書館会議室 講師：高田暁准教授（工学研究科）
参加：42名>
- 17 (月)～18 (火) ガイダンス「雑誌論文の探し方」<於：自然科学系図書館ニコモンス>
- 18 (火) JPCOAR 第1回コンテンツ流通促進作業部会
<於：国立情報学研究所会議室 出席：係員1名>
EndNote basic 説明会 <於：自然科学系図書館>
ホターガイダンス（国際協力）<於：国際協力研究科情報処理演習室>
- 19 (水)～20 (木) ガイダンス「秘書さん・職員さんのための文献の探し方講座」
<於：医学分館>
- 20 (木)～21 (金) 第66回国立大学図書館協会総会 <於：ホテルラウヴィア岡山
出席：館長、部長、管理課長 海外派遣報告：係員1名>
- 21 (金) 学生選書ツアー <於：ジエック堂三宮店 参加：20名 引率：係員5名>
J-STAGEセミナー「国際動向への対応：オープンアクセス(Plan S)」
<於：JST 東京本部 参加：係員1名>
- 24 (月) EndNote basic 説明会 <於：社会科学系図書館>
知的書評合戦ビブリオバトル <於：鶴一キャンパスLC 担当：ULiCS>
初年次セミナー（法）<於：社会科学系図書館 参加：22名>
- 24 (月)～25 (火) ガイダンス「雑誌論文の探し方」<於：社会科学系図書館>
- 25 (火) ガイダンス「参考文献の見方・書き方」<於：社会科学系図書館>
- 26 (水) ガイダンス「Lexis Advance」<於：社会科学系図書館>
- 27 (木) ガイダンス「eol で企業情報を手に入れよう！」<於：社会科学系図書館>
- 28 (金) 第2回館長・副館長・分館長懇談会

<7月>

- 1 (月)～12 (金) 大学図書館職員長期研修 <於：筑波大学春日町 受講：係長1名>
- 1 (月)～2020年4月30日（予定） 改修工事に伴う休館 <於：企業資料総合センター>
- 2 (火) ラーニング・サポーター研修 <於：大阪大学 見学：係員1名>
- 2 (火)～5 (金) 第17回日本古典籍講習会 <於：国文学研究資料館ほか 受講：係員1名>
第1回国立大学図書館協会学術資料整備委員会デジタルアーカイブ WG
<於：社会科学系図書館 担当：部長、係長1名>
- 3 (水) 第2回保健科学図書室図書委員会
第1回附属図書館運営委員会
- 4 (木) ラーニング・サポーター研修 <於：大阪大学 見学：係長1名>
第4回 ULiCS 定例会 <於：自然科学系図書館 ULiCS 部室>
- 5 (金) 神戸大学インターネット Radio への出演 <出演：係長1名、係員2名>
- 7 (日) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験（一次）
- 8 (月) ホターガイダンス（保健院生）<於：社会科学系図書館 LC>
- 10 (水) ラーニング・サポーター研修 <於：大阪大学総合図書館 見学：係員1名>
ホターガイダンス（保健・EndNote）<於：保健科学図書室、情報処理教室>
- 12 (金) 第2回人間科学図書館図書委員会

- 国際交流基金による見学 <於：社会科学系図書館 来館：15名>
 15 (月) 祝日の授業実施に伴う開館 <於：医学分館以外>
 ※医学分館は休講日となったため臨時休館とした
 16 (火) Petr Knoth氏(英国 CORE)とのミーティング
 <於：国立情報学研究所 参加：係員1名>
 大学図書館近畿仁シティアフ 第3回能力開発専門委員会
 <於：京都大学附属図書館 出席：担当補佐>
 17 (水) 資金管理に関する内部監査 <於：人間科学図書館>
 ティーチング・サポーター研修
 <於：大阪大学箕面キャンパス外国学図書館 見学：係員1名>
 20 (土) 広報課主催キャンパスツアー「神大生なりきりコース」
 <於：社会科学系図書館 来館：37名>
 25 (木) OA説明会 <於：イノベーション研究科 説明：電子図書館係>
 ホターガータンス(国際) <於：鶴一キャンパスF501>
 26 (金) 柏原高校による見学 <於：社会科学系図書館 来館：40名>
 第118回兵庫県大学図書館協議会総会 <於：園田学園女子大学
 出席：館長、部課長、管理課課長補佐、企画係長>
 30 (火) 近畿地区国立大学法人等職員統一試験機関訪問説明会(午前)
 <於：六甲ホール 説明、懇談等：管理課課長補佐、係員2名>
 第2回人文科学図書館図書委員会
 大学図書館近畿仁シティアフ 第1回運営委員会
 <於：京都大学附属図書館 出席：部長>
- <8月>
 1 (木) 第1回システムワークフロー検討作業部会
 <於：国立情報学研究所 参加：係員1名>
 3 (土) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験
 <於：京都大学附属図書館 要員：部課長>
 5 (月)～7 (水) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験(二次)
 <於：社会科学系図書館>
 6 (火)～9 (金) オープンキャンパスツアーによる見学 <於：社会科学系図書館
 来館：1,165名 引率：ベルカン>
 13 (火) 臨時休館(全館室、大学文書史料室)
 14 (水)～16 (金) 夏季一斉休業
 17 (土) キャンパスツアー「神大生なりきりコース」
 <於：社会科学系図書館 主催：総務部広報課 来館：30名>
 19 (月) Kobe SALAD(サマースクール)による見学
 <於：社会科学系図書館 主催：法学研究科 来館：30名>
 19 (月)～2020年4月30日(予定) 改修工事に伴う ILL 受付停止 <於：企業資料総合センター>
 24 (土) キャンパスツアー「神大生なりきりコース」
 <於：社会科学系図書館 主催：総務部広報課 来館：41名>
 26 (月)～30 (金) IGeLU Conference 2019への参加 <於：シカゴホール 派遣：係員1名>
 27 (火)～29 (木) 第一種衛生管理者試験受験準備講習会
 <於：瀧川記念館大会議室 受講：係員3名>
 30 (金) フォーラム「情報リテラシー再論」 <於：大阪教育大学附属図書館 参加：係員3名>

< 9月 >

- 1 (日) 神戸大学医学部創立75周年・神戸病院創立150周年記念式典等
<於:ポートピアホテル 出席:館長 医学分館・文書史料室資料展示>
- 4 (水) 第1回海外派遣事前勉強会 <於:社会科学系図書館館長室
参加:部長、管理課長、係員8名>
- 5 (木) ~ 6 (金) 国立大学協会近畿地区支部係長研修 <於:大阪大学 受講:係長1名>
第9回大学図書館学生協働交流シンポジウム
<於:島根大学 派遣:ULiCSより2名、引率:係員1名>
- 10 (火) 第3回人文科学図書館図書委員会
IIIF Curation Platformチュートリアル
<於:国際日本文化研究センター 参加:係長1名>
大学図書館近畿インシアティブ第4回能力開発専門委員会
<於:関西学院大学図書館 出席:担当補佐>
- 10 (火) ~ 11 (水) 神戸大学管理監督者研修 <於:理学研究科 受講:課長補佐1名>
- 11 (水) 大阪府立高津高校生徒、PTAによる見学 <於:社会科学系図書館
来館:100名>
目録システム書誌作成研修企画WG第2回ミーティング
<於:国立情報学研究所 出席:係員1名>
- 12 (木) JUSTICE2019年度版元提案説明会
- 14 (土) キャンパスツアー
<於:社会科学系図書館 主催:総務部広報課 来館:12名>
- 17 (火) 学内会計監査 <於:社会科学系図書館>
- 26 (木) オープンアクセス説明会(博士課程院生対象)
<於:経済学研究科 説明:電子図書館係>
- 27 (金) NIIオープンサイエンス基盤研究センターによるインタビュー調査
<於:社会科学系図書館震災文庫 対応:情報管理課長、係長1名、
係員2名>
- CAT2020説明会 <於:京都大学 参加:係長2名>
- 28 (土) キャンパスツアー「神大生なりきりコース」
<於:社会科学系図書館 主催:総務部広報課 来館:26名>
- 30 (月) オープンサイエンス研修会 <於:瀧川記念学術記念交流会館大会議室
主催:附属図書館 講師:NIIより3名、参加:36名>
機関リポジトリ新任担当者研修 <於:武庫川女子大学附属図書館
受講:係員1名>
ACS on Campus <於:大阪大学 参加:係員1名>
- 30 (月) ~ 10月4日 漢籍担当職員講習会(初級)
<於:京都大学東アジア人文情報学研究センター 受講:係員1名>

< 10月 >

- 1 (火) ~ 4 (金) 大学図書館職員短期研修 <於:京都大学附属図書館 受講:係員1名>
- 3 (木) 大学図書館職員短期研修 <講師派遣:係員1名>
- 2 (水) 国文学研究資料館古典籍共同研究事業拠点連携委員会
<於:主婦会館 出席:係長1名>
内定証書交付式 → 図書館見学 <於:自然科学系図書館>

- 交流会 <於：瀧川記念館 参加：部課長>
- 4 (金) 多読図書が'ダンス (計3回実施) <於：海事科学研究科
参加：学生199名、教員5名 説明：海事科学情報サービス係>
- 5 (土) キャンパスツアー「歴史探訪コース」
<於：社会科学系図書館 主催：広報課 来館：33名>
- 5 (土) ~ 11月24日 特別展「お城ができる前の姫路」<於：兵庫県立歴史博物館
資料出陳：「播陽萬寶知恵袋」5点 (人間科学図書館所蔵)
- 7 (月) ~ 11 (金) 国立大学図書館協会海外派遣事業 (短期) による派遣
<於：シガホール 派遣：係員1名>
- 8 (火) 神戸大学スルアップ 研修「プレゼンテーション研修」
<於：理学研究科 Z201-202 受講：係長1名、係員1名>
広島新庄高校による見学 <於：社会科学系図書館 来館：25名>
- 11 (金) 部局年次計画等ヒアリング <於：本部大会議室
出席：館長、部課長、管理課課長補佐>
- 11 (金) ~ 2月4日 令和元年度附属図書館資料展「阪神・淡路大震災25年：あのとときと
これから」<於：社会科学系図書館展示ホール 主催：附属図書館>
- 12 (土) 台風19号接近に伴う臨時休館 <於：全館室、終日>
- 14 (月) 祝日の授業実施に伴う開館 <於：保健科学図書室以外>
- 15 (火) 奈良県立平城高校 PTA による見学 <於：社会科学系図書館 来館：31名>
- 15 (火) お昼休みトークイベント2019「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」①
<於：総合・国際文化学図書館 講師：藤野一雄先生
担当：選書WG 参加：19名>
- 16 (水) お昼休みトークイベント2019「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」②
<於：総合・国際文化学図書館 講師：市田良彦先生
担当：選書WG 参加：11名>
- 17 (木) 膳所高校 PTA による見学 <於：社会科学系図書館 来館：120名>
お昼休みトークイベント2019「ヨーロッパを学ぶ・ヨーロッパで学ぶ」③
<於：総合・国際文化学図書館 講師：シュートフ・ヤロスラブ 先生
担当：選書WG 参加：18名>
- 18 (金) 兵庫県大学図書館協議会研修会
<於：フロンティア館プレゼンテーションホール 参加：63名
講師：工学研究科 高田先生、明治クリックス 井上様>
- 19 (土) 社会人特別入試・「志」特別入試実施に伴う臨時休館
<於：保健科学図書室、試験会場として使用予定>
三重県立伊勢高校 PTA による見学
<於：社会科学系図書館 来館：170名>
- 22 (火) 国民の祝日 (即位礼正殿の儀) による全館室休館
- 23 (水) ホターガ'ダンス (国際) <於：総合・国際文化学図書館
参加：特別聴講生5名>
- 23 (水) ~ 12月27日 読書マラソン企画2019 <於：総合・国際文化学図書館>
- 24 (木) 第一種衛生管理者試験の受験 <於：近畿安全衛生技術センター
受験：係員3名>
岡山県立笠岡高校 PTA による見学 <於：社会科学系図書館 来館：21名>
- 25 (金) 星陵高校生徒による見学
<於：保健科学図書室 来館：15名>

- ＜於：社会科学系図書館 来館：10名＞
三島高校生徒による見学 ＜於：社会科学系図書館 来館：80名＞
26 (土) 第14回神戸大学ホムシグテイ
資料展見学受入 ＜於：社会科学系図書館、大学文書史料室＞
28 (月) ガイダンス「参考文献の見方・書き方」＜於：自然科学系図書館＞
上野中学トライやる事前訪問 ＜於：社会科学系図書館＞
全国大学ビブリオバトル地区予選 ＜於：総合・国際文化学図書館
実施：ULiCS＞
28 (月)～29 (火) ガイダンス「雑誌論文の探し方」＜於：自然科学系図書館＞
29 (火) 加古川西高校生徒による見学 ＜於：社会科学系図書館 来館：21名＞
EndNote basic 説明会 ＜於：自然科学系図書館＞
30 (水)～11月1日 第39回西洋社会科学古典資料講習会 ＜於：一橋大学 受講：係長1名＞
31 (木) 第2回神戸大学出版会出版委員会 ＜於：自然科学系図書館会議室＞

<11月>

- 1 (金)～8 (金) 上野中学トライやるウィーク ＜於：社会科学系図書館 実習：2名＞
1 (金)～29 (金) 非常時参集訓練 ＜於：社会系図、自然系図、総合・国際図、人文図、
海事図 参加：11名＞
1 (金)～12月5日 クイズラリー2019 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
5 (火) 学部3回生授業の実施 ＜於：海事科学分館 対象：学生21名
補助：係長1名、係員1名＞
ガイダンス「参考文献の見方・書き方」＜於：社会科学系図書館＞
5 (火)～6 (水) ガイダンス「雑誌論文の探し方」＜於：社会科学系図書館＞
御影中学トライやる事前訪問 ＜於：自然科学系図書館＞
6 (水) 神戸新聞による資料展取材 ＜於：社会科学系図書館展示ホール、
震災文庫 対応：管理課課長補佐、係員2名＞
EndNote basic 説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
7 (木) 外国雑誌センター館会議 ＜於：広島大学中央図書館
出席：部長、係長1名＞
兵庫高校模擬講義での説明 ＜於：経済学研究科 説明：社系サービス係
兵庫高校生徒による見学 ＜於：社会科学系図書館 来館：72名
於：保健科学図書室 来館：23名＞
9 (土)～10 (日) 六甲祭での展示見学 ＜於：社会科学系図書館 来館：794名＞
11 (月) ガイダンス「参考文献の見方・書き方」
＜於：総合・国際文化学図書館＞
11 (月)～12 (火) ガイダンス「雑誌論文の探し方」＜於：総合・国際文化学図書館＞
11 (月)～15 (金) 御影中学トライやるウィーク ＜於：自然科学系図書館 実習：2名＞
12 (火) 広報業務研修会 ＜於：瀧川記念館大会議室 受講：係員2名
(うち1名は部分受講)＞
京都府立綾部高校生徒による見学 ＜於：社会科学系図書館、
自然科学系図書館 来館：40名＞
EndNote basic 説明会 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
授業「博物館資料保存論」による展示等見学
＜於：社会科学系図書館展示ホール、震災文庫 参加：24名
引率：人文学研究科 菊地先生 補助：情報管理課課長補佐＞

- 12 (火) ~ 13 (水) 第21回図書館総合展 <於:パシフィコ横浜 参加:係長1名>
 13 (水) 神戸大学スキルアップ研修「アサーティブコミュニケーション研修」
 <於:工学研究科 受講:係長1名>
 学部2回生(基礎ゼミ)授業の実施 <於:海事科学分館
 対象:学生19名、教員1名 補助:係長1名、係員1名>
 15 (金) 開智高校生徒による見学 <於:社会科学系図書館 来館:40名>
 16 (土) キャンパスツアー「歴史探訪コース」
 <於:社会科学系図書館 主催:広報課 来館:31名>
 文学部・附属学校連携授業による見学
 <於:人文科学図書館 対応:係長1名、係員1名>
 ビブリオバトル地区決戦参加 <於:甲南大学>
 18 (月) 第6回ULiCS定例会 <於:自然科学系図書館ULiCS部室>
 20 (水) 図書館職員のためのWeb of Science講習会、JCR/ESI講習会
 <於:第三学舎 講師:クリベイトナリクス 参加:のべ42名>
 22 (金) JMLA近畿地区会等共催シンポジウム「進化するPubMed」
 <於:京都大学芝蘭会館 参加:サービス課課長補佐(医学)、係長2名>
 明石西高校生徒による見学 <於:社会科学系図書館 来館:40名>
 25 (月) 姫路飾西高校生徒による見学 <於:社会科学系図書館 来館:20名>
 第3回館長・副館長・分館長懇談会 <於:自然科学系図書館>
 25 (月) ~ 27 (水) 蔵書点検 <於:社会科学系図書館>
 26 (火) 文献検索講習会 国内編、海外編 <於:保健科学図書室>
 27 (水) 連続トーク①「グローバル文化学の現場」<於:総合・国際文化学図書館LC
 参加:学生22名、教員3名 主催:国際人間科学部グローバル文化学科>
 大学図書館近畿インシアティブ第5回能力開発専門委員会
 <於:キャンパスプラザ京都 出席:担当補佐>
 28 (木) 第2回附属図書館運営委員会
 29 (金) 国大図協近畿地区協会図書系人事担当課長・事務長懇談会
 国大図協近畿地区協会事務連絡会
 <於:兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス会議室、兵教ホール>
 30 (土) 日本学術振興会学術動向調査プログラム
 <於:経済学研究科大会議室 陪席:電子図書館係長>
 資料展、震災文庫の見学 <於:社会科学系図書館 来館:18名
 引率:奥村先生 説明:電子図書館係長>

<12月>

- 5 (木) 神戸大学事務職員国際業務研修海外研修報告会
 <於:本部中会議室 参加:補佐員1名>
 5 (木) ~ 6 (金) 目録システム書誌作成研修 <於:国立情報学研究所
 受講:係員1名、ファシリテーター:係員1名>
 シンポジウム・ワークショップ「大学における研究ターナーサービス」
 <於:九州大学中央図書館 参加:係長1名>
 6 (金) 相生高校(高大連携)留学生との国際交流事業による見学
 <於:社会科学系図書館 来館:20名、学務課職員随行>
 9 (月) 第118回日本医学図書館協会近畿地区会例会
 <於:大阪歯科大学 出席:サービス課課長補佐(医学)>

- 10 (火) 自衛消防・防災訓練 <於：経済経営研究所図書館>
- 13 (金) 全学防災訓練
- 14 (土) 定期点検に伴う計画停電のため臨時休館 <於：海事科学分館>
- 16 (月) 北須磨高校模擬講義による見学 <於：社会科学系図書館
来館：15名 説明：社系サービス係>
ワークショップ「公開コンテンツのオープン化の現状と課題」
<於：国際日本文化研究センター 参加：係員1名>
- 17 (火) 公開シンポジウム「オープンアクセス・これまでとこれから」
<於：大阪府立大学学術交流会館 参加：係員1名>
NHK神戸放送局による取材・撮影 <於：社会科学系図書館震災文庫、
2階展示ホール (NHK ローカルニュース番組中で紹介) >
- 18 (水) 学認LMSによる研究データ管理に関するオンライン講座試験運用報告会
<於：国立情報学研究所 web 参加：係長1名、係員1名>
- 19 (木) 資金管理に関する内部監査 <於：総合・国際文化学図書館>
- 20 (金) 連続トーク②「グローバル文化学の現場」<於：総合・国際文化学図書館 LC
参加：学生16名、教員3名 主催：国際人間科学部グローバル文化学科>
研修会「著作権制度の改正と障害者サービス」(国立大学図書館協会
近畿地区助成事業) <主催：国立大学図書館協会近畿地区協会
主担当：神戸大学、参加：23機関53名、挨拶：館長>
- 23 (月) 資金管理に関する内部監査 <於：海事科学分館>
- 24 (火) JPCOAR 第2回コンテンツ流通促進作業部会
<於：国立情報学研究所実習室 出席：係員1名>
- 25 (水) 朝日放送による取材・撮影 <於：社会科学系図書館震災文庫、
2階展示ホール (1/18付番組「おはよう朝日土曜日です」で紹介)>
国際文化学図書館 第3回図書委員会
- <1月>
- 7 (火) 毎日放送報道局による震災関連神戸新聞原紙撮影
<於：社会科学系図書館貴重書室前室>
- 14 (火) 学術資料整備委員会シェアード・プリントWG
<於：名古屋大学附属図書館 出席：部長>
大阪大学職員研修「研究データ管理の実際：GakuNin RDMを例に」
<於：大阪大学総合図書館 受講：係員1名>
毎日放送テレビ「News ミント」番組内で所蔵資料(神戸新聞)画像使用
第2回システムワークフロー検討作業部会
<於：国立情報学研究所 出席：係員1名>
- 16 (木) 文学部学生による資料展『草の根市民メディアからの発信：「ミコミ
から問う阪神・淡路大震災』<於：社会科学系図書館2階壁面前>
- 17 (金) 資金管理に関する内部監査 <於：自然科学系図書館、人文科学図書館、
大学文書史料室>
センター試験に伴い13時で臨時閉館(保健科学図書室)
センター試験に伴い17時で臨時閉館(医学、保健を除く)
- 18 (土) センター試験に伴い臨時休館(医学分館を除く)
朝日放送テレビ「おはよう朝日土曜日です」番組中大木本氏特集内で
震災文庫、図書館資料展紹介

- 19 (日) セミナー試験に伴い社会科学系図書館、自然科学系図書館臨時休館
- 22 (水) 第4回館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館会議室>
第5回 ULiCS 定例会 <於：自然科学系図書館 ULiCS 部室>
神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室第8回シンポジウム
「阪神・淡路大震災から25年」 <於：六甲ホール 参加：係員1名>
- 23 (木) 第3回神戸大学出版会出版委員会 <於：自然科学系図書館会議室>
第2回附属図書館職員研修 <於：社会科学系図書館会議室 参加：37名>
- 24 (金) 連続トーク③「グローバル文化学の現場」<於：総合・国際文化学図書館 LC
参加：学生10名、教員3名、学外17名 主催：国際人間科学部
グローバル文化学科>
セミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向」
<於：大阪大学吹田キャンパス 参加：係員3名>
人事ヒアリング <於：本部第2会議室 出席：部長、管理課長>
- 27 (月) 神港学園生徒による資料展、震災文庫見学 <於：社会科学系図書館
来館：学生9名、引率2名>
- 29 (水) 第3回附属図書館運営委員会
- 30 (木) JUSTICE OA 出版モデル契約に向けた交渉準備ワークショップ
<於：国立情報学研究所 出席：係長1名>
阪神・淡路大震災フィールドワーク <於：六甲道駅～東遊園地
参加：係員1名>
- 31 (金) 第9回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会
<於：社会科学系図書館会議室 挨拶：館長 出席：部長、管理課長、
管理課課長補佐、電子図書館係3名、目録担当2名>
- <2月>
- 3 (月) 予算要求ヒアリング <於：本部大会議室 出席：館長、部長、
管理課長、管理課課長補佐、管理係長>
- 5 (水) ホルダーガイダンス (国際教育総合センター)
<於：第三学舎 NTT DATA IT Room 参加：20名>
- 7 (金) これから英語で研究発表を行う若手研究者のための学術英語スキルアップ
セミナー <於：瀧川記念館大会議室 挨拶：館長 参加：48名
講師：国際コミュニケーションセンター 大和教授、保田准教授>
- 10 (月) ULiCS と神戸松蔭女子学院大学図書館パートナーとの交流会
<於：社会科学系図書館 LC 参加：(松蔭)学生8名、職員3名
(神大)学生6名、職員3名>
- 12 (水) 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター第2回拠点連携委員会、
図書館委員連絡会 <於：主婦会館 出席：係長1名>
- 13 (木) JPCOAR オープンサイエンス・オープンアクセス地域ワークショップ
<於：岡山大学附属図書館 運営、事例報告：係長1名>
- 14 (金) 会計監査法人による第2回期中監査
<於：本部 出席：管理課課長補佐、係長2名>
- 18 (火) 高羽小学校3年生による見学 <於：社会科学系図書館本館、展示
来館：30名 案内：管理課課長補佐>
大学図書館近畿仁シティアップ第6回能力開発専門委員会
<於：武庫川女子大学中央図書館 出席：担当補佐>

- 20 (木) 資金管理に関する内部監査 <於:社会科学系図書館 担当:管理係>
- 21 (金) 前期入学試験に伴い13時で閉館 (保健科学図書室)
自衛消防・防災訓練 <於:保健科学図書室>
前期入学試験に伴い17時で閉館
(総合・国際図、社会系図、自然科学系図、人文図、海事図)
- 22 (土) ~ 23 (日) 前期入学試験に伴い休館 (社会系図、自然科学系図)
- 25 (火) 前期入学試験に伴い休館 (医学図以外)
自衛消防・防災訓練
<於:人間科学図書館、自然科学系図書館、社会科学系図書館>
システム共同運用記念シンポジウム「早慶図書館の挑戦」
<於:早稲田大学井深大記念ホール 参加:係長1名>
- 27 (木) 第3回京都大学研究テーマネットワークショップ
<於:京都大学 参加:係長1名、係員1名>
- <3月> ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面会議やイベントの多くが中止となった
- 2 (火) 自衛消防訓練 <於:医学分館>
人文科学図書館 第4回図書委員会
【中止】JPCOAR 第3回コンテンツ流通促進作業部会 <於:国立情報学研究所>
- 4 (水) 図書館利用者へ「新型コロナウイルスの感染拡大防止のためお願い」を掲示 (全館室、附属図書館HP)
- 6 (金) 【中止】神戸大学出版会「地域づくりの基礎知識」シリーズ刊行記念シンポジウム <於:瀧川記念館大会議室>
- 11 (水) 【中止】第2回大学図書館近畿インシアティブ運営委員会
<於:関西学院大学図書館>
後期入学試験に伴い13時で閉館 (保健科学図書室)
後期入学試験に伴い17時で閉館 (社会科学系図書館)
- 12 (木) 後期入学試験に伴い休館 (人間科学図書館、医学分館以外)
自衛消防訓練 <於:海事科学分館>
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外者の入館を禁止 (全館室)
- 13 (金) 自衛消防訓練 <於:総合・国際文化学図書館>
- 13 (金) ~ 4月30日 海事博物館巡回展「和船の活躍した時代」
<於:社会科学系図書館展示ホール>
- 17 (火) 【中止】JPCOAR 総会 <於:一橋大学>
- 17 (火) ~ 19 (木) 第5回館長・副館長・分館長懇談会 (メール回議)
- 24 (火) 【中止】神戸大学博士学位記授与式 <於:六甲台講堂>
第6回医学分館図書委員会
- 24 (火) ~ 26 (木) 第4回附属図書館運営委員会 (メール回議)
- 26 (木) 感染拡大防止のためお願いを更新 (附属図書館HP)
- 25 (水) 【中止】神戸大学学位記授与式 <於:神戸国際展示場>
- 27 (金) 【中止】名誉教授称号授与式、永年勤続者表彰式
【開催せず】附属図書館令和元年度離任式